I-O DATA

DFML-560EL
取扱説明書

99523-01

【本書での呼び方】

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating Systemおよび Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me、Windows 98およびWindows 95の総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0 Workstation
Windows	Windows XP, 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0の総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各１部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に１台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATA、PLANT は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows, Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- Apple, Macintosh, Power Macintosh, Mac, Mac OS は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ····· i
本製品を使用すれば ····· vii
本書の見方 ····· viii
本製品のご紹介 ····· ix
V.90 および K56flex について ····· xi
注意していただきたいこと ····· xii

1 ご使用になる前に

箱を開けたら ····· 2
対応している機種と OS ····· 4
各部の名称・機能 ····· 5
使用する前のチェック項目 ····· 6

2 接続する

接続する ····· 10

3 Windows XP で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ …… 16
ステップ1 インストールする …… 17
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 22
ステップ3 端末速度を設定する …… 24
ステップ4 発信情報を設定する …… 31

インターネット接続編

Windows XP でインターネットに接続するには …… 34
ステップ1 接続前の準備 …… 35
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 36
ステップ3 インターネットを楽しもう …… 46

4 Windows 2000 で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ …… 52
ステップ1 インストールする …… 53
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 59
ステップ3 端末速度を設定する …… 61
ステップ4 発信情報を設定する …… 65

インターネット接続編

Windows 2000 でインターネットに接続するには …… 67
ステップ1 接続前の準備 …… 68
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 69
ステップ3 インターネットを楽しもう …… 81

5 Windows Me で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ…… 88
ステップ1 インストールする …… 89
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 94
ステップ3 端末速度を設定する…… 96
ステップ4 発信情報を設定する…… 100

インターネット接続編

Windows Me でインターネットに接続するには…… 102
ステップ1 接続前の準備…… 103
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 104
ステップ3 インターネットを楽しもう…… 113

添付ソフト編

「回線モニター」を使う*(Windows Me/98/95 のみ対応)*・117

6 Windows 98/95 で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ…… 124
ステップ1 インストールする …… 125
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 138
ステップ3 端末速度を設定する…… 139
ステップ4 発信情報を設定する…… 143

インターネット接続編

Windows 98/95 でインターネットに接続するには …… 145
ステップ1 接続前の準備…… 146
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 147
ステップ3 インターネットを楽しもう…… 157

添付ソフト編
「回線モニター」を使う*(Windows Me/98/95 のみ対応)*・160

7 Windows NT 4.0 で使うには

準備編
本製品で通信できるまでの流れ……162
ステップ1 インストールする……163
ステップ2 通信するための設定……168

インターネット接続編
Windows NT 4.0 でインターネットに接続するには…171
ステップ1 接続前の準備……172
ステップ2 接続に必要なソフトウェア……173
ステップ3 インターネットを楽しもう……182

8 Mac OS で使うには

準備編
本製品で通信できるまでの流れ……186
ステップ1 本製品の電源を入れる……187
ステップ2 設定ファイルをコピーする……188

インターネット接続編
Mac OS でインターネットに接続するには……190
ステップ1 接続前の準備……191
ステップ2 接続するための手順……192
[インターネット接続アシスタント]での接続……194
[PPP ダイアラ]での接続……200

9 漢字 Talk で使うには

準備編

ステップ1　本製品の電源を入れる …… 208

インターネット接続編

漢字 Talk でインターネットに接続するには …… 209
ステップ1　接続前の準備…… 210
ステップ2　接続するための手順 …… 211
[ConfigPPP]での接続…… 212
[FreePPP]での接続 …… 216

付録1 困ったときには ····· 223

付録2 接続速度を変更する·· 241

付録3 ATコマンドによる通信動作の確認（Windows での手順） 247

付録4 モデムの追加によるインストール方法 ···· 258

付録5 インストールしたソフトを削除するには····· 263

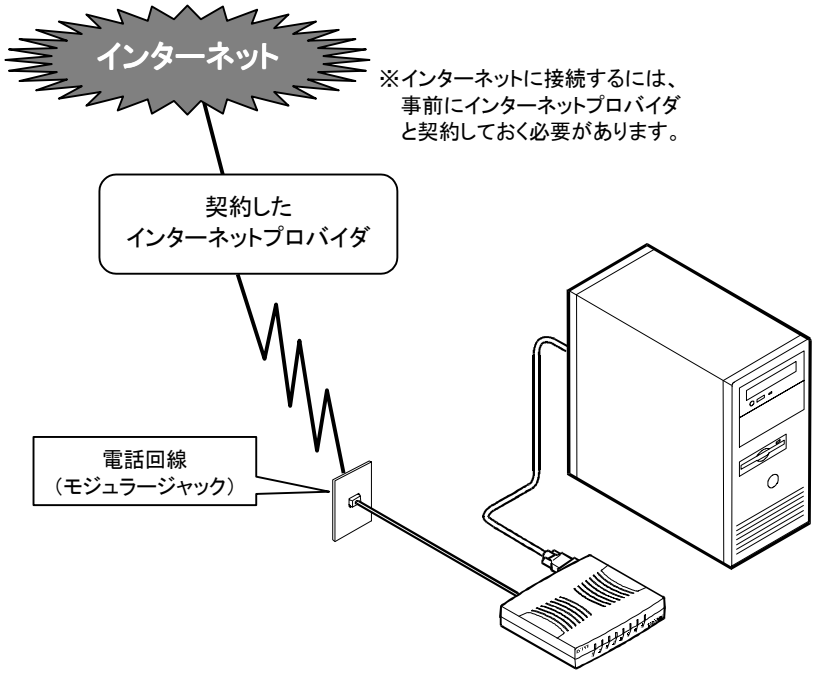
付録6 仕様 ····· 273

付録7 用語解説 ····· 276

PLANT コールセンターへのお問い合わせ ····· 279
サポートソフトのバージョンアップ····· 280
保証について ····· 281
修理について ····· 282

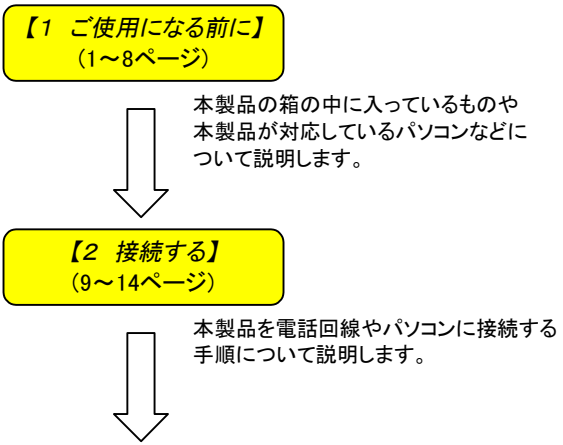
本製品を使用すれば

本製品を使用すれば、パソコン上から、電話回線を利用してインターネット接続やFAXの送受信ができます。



本書の見方

本書は以下の流れに沿って、必要な個所をお読みください。



以下のお使いのOSの個所をお読みください。

※以下の各OSの個所では、【準備編】と【インターネット接続編】があります。
【準備編】は必ずお読みください。
インターネットに接続する場合は、さらに【インターネット接続編】もお読みください。

Windows XP	【3 Windows XPで使うには】(15～50ページ)
Windows 2000	【4 Windows 2000で使うには】(51～86ページ)
Windows Me	【5 Windows Meで使うには】(87～122ページ)
Windows 98/95	【6 Windows 98/95で使うには】(123～160ページ)
Windows NT 4.0	【7 Windows NT 4.0で使うには】(161～184ページ)
Mac OS	【8 Mac OSで使うには】(185～206ページ)
漢字 Talk	【9 漢字Talkで使うには】(207～222ページ)

本製品のご紹介

● *超高速 56000bps受信を実現*

アナログ通信では最高56000bpsで受信ができるデータFAXモデムです。（送信は最高33600bps）

また、自動速度認識機能により、発信時／着信時は相手の速度に合わせて通信することができます。（端末速度は最高230400bpsで通信できます。ただし、接続するパソコンのポートの性能によっては、115200bps以下で設定してご利用いただく場合もあります。）

● *ITU-T標準勧告のV.90プロトコルを採用*

V.90方式は、ITU-Tにおいて標準勧告の56Kのデータ通信プロトコルです。（ご利用のプロバイダがV.90に対応してるかどうか、事前にご確認ください。）

● *米国ロックウェル社提唱のK56flexプロトコルを採用*

K56flex方式は、日本のインターネットサービスプロバイダの多くが対応している方式です。（ご利用のプロバイダがK56flexに対応してるかどうか、事前にご確認ください。）

● *14400bps G3 FAXモデム機能搭載*

2400～14400bpsの通信速度に対応し、EIA Class1に対応。

お使いのFAXソフトウェアを使用して、使い慣れたWindowsアプリケーションで作成した文書や画像をパソコンから直接FAXを送信したり、パソコンで直接FAXを受信することができます。

● *エラー訂正／データ圧縮機能搭載*

MNPクラス4とITU-T（旧CCITT）のV.42エラー訂正機能を搭載。回線状態が悪い場合でもエラーフリーの通信が行えます。

また、MNPクラス5とITU-T V.42bisのデータ圧縮機能搭載のため、MNPクラス5では最大200%、ITU-T V.42bisでは最大400%の実効通信速度が可能です。

● 高性能データモデム機能

300～56000bpsの通信速度に対応。
自動速度認識機能により、発信時／着信時は相手の速度に合わせて通信することができます。また、端末速度は最高230400bpsで通信できます。

注意

・56000bps は、V.90 および K56flex の理論値であり、通信速度は回線状況により変化します。また、33600bps を超える通信速度は受信の場合で、送信の場合は最高 33600bps となります。
・パソコンによっては本体の RS-232C の通信速度の上限が 9600bps や 19200bps に制限されており、本製品の性能を充分に発揮できない場合があります。その場合、115200bps 以下で設定してご利用いただくか、拡張 RS-232C ボード(弊社製 RSA-PSI2 シリーズなど)を増設するなどの対策をとってください。(通信速度の上限については、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。)
・設定回線速度[特に 50000bps 以上]より低い速度で接続する場合があります。
・56000bps 通信には、プロバイダ側が本製品が採用している V.90 もしくは K56flex 方式に対応している必要があります。プロバイダが x2 方式の場合、最高 33600bps の通信となります。
・PBX などの構内交換機の回線に接続して使用した場合も設定回線速度より低い速度で接続する場合があります。

● 通信を楽しくするソフトウェアを添付

□ 通信中の状況が一目でわかる「回線モニター」
（Windows Me、Windows 98、Windows 95用）
通信速度はもちろん、今月累計時間など、細かい情報が一目で確認できるソフトウェアです。インターネットのお供に。

● ATコマンド準拠

Hayes社のATコマンドを採用。市販の通信ソフトを利用できます。

注意

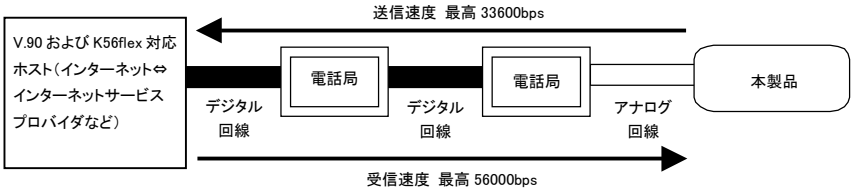
本書には AT コマンドの使い方については記述しておりません。AT コマンドに関しては、「DFML-560EL サポートソフト」CD-ROM 内の manual フォルダ内の Readme.txt ファイルを参照してください。

V.90 および K56flex について

本製品は、ITU-T 標準勧告の V. 90 及び米国ロックウェル社提唱の K56flex を採用しています。V. 90 及び K56flex では、受信時最高 56000bps（理論値）、送信時最高 33600bps（理論値）の通信が可能です。
ただし、56000bps で受信するためには、以下の条件があります。

条件1：ホスト（プロバイダなど）が V.90 および K56flex に対応している。
条件2：使用している電話(通信)回線経路が、ホストから最寄りの電話局までですべてデジタル化されていて、デジタルからアナログへの変換が 1 度しか行われない。

■56000bps 受信が可能な例

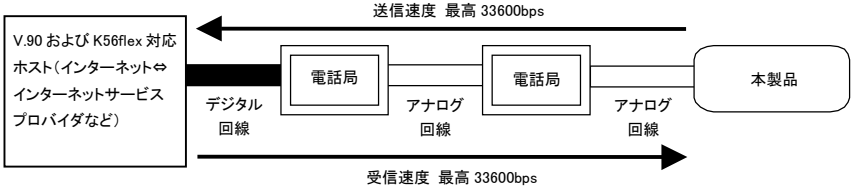


■56000bps 受信ができない例

以下の例では、56000bps 受信は行われません。（送信および受信速度がともに最高 33600bps となります。）

・ホストが V.90 および K56flex に対応していない。
（本製品同士で通信する場合も含みます。）

・ホストから最寄りの電話局までの間にアナログ回線がある。



注意

・PBX(構内交換機)の回線を利用している（内線 0 発信など）場合は、V.90 および K56flex の本来の性能が出ないため、設定回線速度より低い速度で接続することがあります。PBX によっては、NTT 公衆回線網とかなり違いが生じているために、利用できないものがありますので、設置業者などにお問い合わせください。

・ご使用される回線品質によっては、一般公衆回線でも V.90 および K56flex の性能がでない場合があります。また、中継コネクタなどを使用して延長される場合は、使用するモジュラーケーブルを短くしてご利用ください。

注意していただきたいこと

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては、本製品に同梱されている小冊子「安全で快適にお使いいただくために」を必ずお読みください。
ここでは、その小冊子の記載以外の注意点について説明します。

1）以下の取り扱い時の注意事項を守ってお使いください。

●本製品は次のような場所で使用しないでください。
- ・腐食性ガス（Cl_2,H_2S,NH_3,SO_2,NO_xなど）の多い場所
- ・静電気の影響が強い場所
- ・「安全で快適にお使いいただくために」に記載されている使用禁止場所

●落雷の恐れがある場合は、本製品のご使用を中止し、モジュラーケーブルを電話回線から切り離してください。

●本製品のモジュラージャックには、指を入れないでください。
感電の恐れがあります。

2）以下の使用時の注意事項を守ってお使いください。

● 本製品は NTT の一般公衆回線に適合した電話回線用に設計されています。
ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は NTT の電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本製品をこれらの回線に直接接続すると故障の原因となります。接続する前に電話設置メーカーなどにご確認ください。

● 本製品とキャッチホンサービスの併用はお避けください。
NTT のキャッチホンサービスをご利用の場合、キャッチホンの呼び出し音によってデータの正常な通信に支障をきたすことがあります。

● 回線状況や NTT の交換機、宅内配線などにより、設定した回線速度［特に 50000bps 以上の場合］より低い速度で接続する場合があります。また、接続されても回線状況により、リトライが繰り返され、設定回線速度ほどの実効速度が得られない場合があります。

● 本製品には、FAX 通信ソフトは添付しておりません。

- PBX(構内交換機)の回線を利用している(内線(0 発信)などの)場合は、V.90 および K56flex の本来の性能がでません。設定回線速度より低い速度で接続します。
  また、PBX によっては NTT 公衆回線網とはかなり違いが生じているものもあり、この場合は V.90 および K56flex がご利用できません。
- V.90 および K56flex では、33600bps を超える通信速度は受信の場合のみで、送信の場合は最大 33600bps になります。
- V.90 および K56flex で通信するためには、接続先のプロバイダなどが対応している必要があります。プロバイダなどが x2 方式の場合は、最大 33600bps の通信になります。
- V.90 および K56flex 通信は電話回線の状況・品質に敏感です。モジュラーケーブルを設置するときは、次のことにご留意ください。
  ・パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカーからなるべく遠ざける。
  ・AC アダプタの近くは避ける。
  ・なるべくケーブル長を短くする(数十メートル以上は使用しない)。
  ・1本の電話回線を分配機や切替機などで二股に分けない。
- ご使用されるモジュラーケーブルを長くして使用する場合(中継コネクタを使用して延長される場合)、接続される速度が低くなる場合があります。
- 本製品は日本国内でのみ使用可能です。海外では使用できません。

3)本製品の修理は弊社修理係にご依頼ください。
(282 ページ参照)

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会(VCCI)の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

MEMO

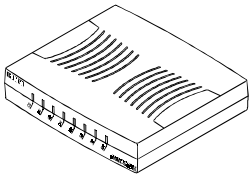
1 ご使用になる前に

箱を開けたら ……2ページ
対応している機種とOS ……4ページ
各部の名称・機能 ……5ページ
使用する前のチェック項目 ……6ページ

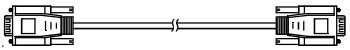
箱を開けたら

箱を開けたら、以下のものが入っているか確認してください。

☐ 本製品(1 台)



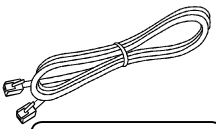
☐ RS-232C ケーブル(1 本)



ケーブル長:約 85cm
(9ピン[オス]⇔9ピン[メス])

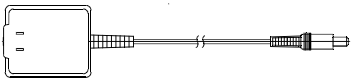
9ピンオス:本製品接続側
9ピンメス:パソコン接続側

☐ 電話回線用モジュラーケーブル (1 本)



ケーブル長:約 2m
(2芯コネクタ)

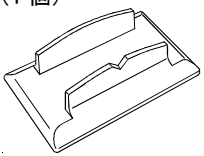
☐ AC アダプタ(1 個)



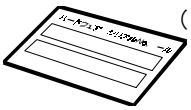
☐ サポートソフト CD-ROM(1 枚)



☐ 縦置き台(1 個)



☐ ハードウェアシリアル No.シール (1 枚)

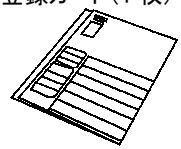


※ハードウェアシリアル No.シールを
ハードウェア保証書とユーザー
登録カードに貼ってください。

☐ ハードウェア保証書(1 枚)



☐ ユーザー登録カード(1 枚)



☑ 取扱説明書(1 冊)



☐ 『安全で快適にお使い
いただくために』(1 冊)

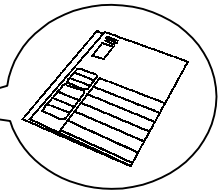


万が一、不足品がございましたら、弊社 PLANT コールセンターまでご連絡ください。

注意

・箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。
・本製品には、通信ソフトウェアなどのアプリケーションは添付しておりませんので、別途ご用意ください。

ユーザー登録は済ませましたか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。



対応している機種と OS

本製品を使用できるパソコンおよび環境は以下の通りです。ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

■ Windows ■

対応機種	CPU が i486 以上の以下の機種 ・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※1（i486SX 以上） ・NEC PC-9800 シリーズ
対応 OS （日本語版）	Windows XP Windows 2000 Windows Me Windows 98（Second Edition を含む） Windows 95 Windows NT 4.0
モデム用 コネクタ	パソコン本体に 9 ピンの RS-232C コネクタが 1 つ必要※2
CD-ROM ドライブ	サポートソフトのインストール時に必要

※1　弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。

※2　NEC PC-9800 シリーズの 25 ピンコネクタの場合は、別途市販の変換コネクタ（25 ピン⇔9ピン）が必要です。
また、既に他の機器をパソコン本体標準の RS-232C コネクタで使用している場合、弊社製拡張 RS-232C ボード［RSA-PCI2 シリーズ］などで拡張することができます。

■ Macintosh ■

対応機種	Apple Macintosh(68040 以上)、Power Macintosh
対応 OS	漢字 Talk 7.5.1～7.5.5 Mac OS 7.6、7.6.1、8.0、8.1、8.5.1、8.6、9.0、9.0.4、9.1、9.2
モデム用 コネクタ	パソコン本体にミニ Din8 ピンまたはミニ Din9 ピンの モデムポートまたはプリンタポートが必要※3
CD-ROM ドライブ	サポートソフトのインストール時に必要

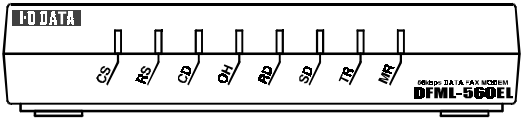
※3　別途、本製品の RS-2332C ケーブルと接続するための市販の変換コネクタが必要です。

注意

本製品には FAX ソフトや通信ソフトなどのアプリケーションは添付しておりませんので、別途ご用意ください。

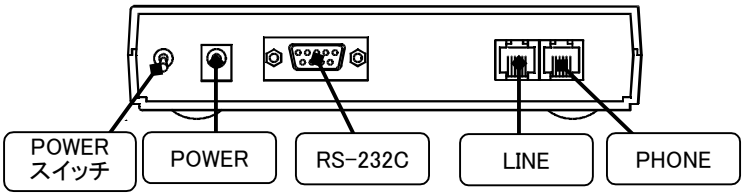
各部の名称・機能

■前面パネル■



ランプ	意味
CS	CTS信号(本製品⇒パソコン)がONで点灯
RS	RTS信号(パソコン⇒本製品)がONで点灯
CD	相手モデムからのキャリアを検出した時に点灯
OH	オフフック(受話器を上げた状態)時に点灯
RD	パソコンが本製品からデータを受信する時に点灯
SD	パソコンが本製品へデータを送信する時に点灯
TR	端末が通信可能な時に点灯
MR	電源がONの状態で点灯、テストモードでは点滅

■背面■



名称	用途
POWERスイッチ	電源のONとOFF
POWER	ACアダプタを接続
RS-232C	RS-232Cケーブルでパソコンのシリアルポートと接続
LINE	モジュラーケーブルで電話回線と接続
PHONE	モジュラーケーブルで電話機と接続

使用する前のチェック項目

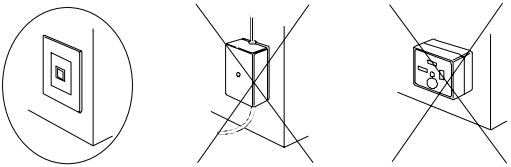
本製品を使用する前に以下のチェックを行ってください。

《チェック項目》

・電話回線の接続口を確認しましたか？
・電話回線は適合していますか？
・キャッチホンを使っていませんか？
・PBX（構内交換機）で使いますか？
・モジュラーケーブルの長さは大丈夫ですか？
・プッシュ回線かダイヤル回線かを確認しましたか？
・お使いのパソコンに内蔵モデムがありますか？
・本製品を縦置きで使用しますか？

電話回線の接続口を確認しましたか？

本製品を接続するためには、モジュラー式のジャックが必要です。



モジュラージャック　ローゼット　3端子ジャック

注意

ローゼットや 3 端子ジャックの場合は、モジュラーケーブルを使用できるようにアダプタや工事が必要です。詳細は、お近くの NTT へご相談ください。

電話回線は適合していますか？

本製品は NTT の一般公衆回線に適合した電話回線用に設計されています。
ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は NTT の電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本製品をこれらの回線に直接接続すると故障の原因となります。接続する前に電話設置メーカーなどにご確認ください。

注意

電話回線が適合していても、回線状況や NTT の交換機、宅内配線などにより、設定回線速度[特に 50000bps 以上]より低い速度で接続する場合があります。また、接続されても回線状況によりリトライが繰り返され、かえって遅い速度の方が速い場合があります。

キャッチホンを使っていませんか？

本製品とキャッチホンサービスの併用はお避けください。
NTT のキャッチホンサービスをご利用の場合、キャッチホンの呼び出し音によってデータの正常な通信に支障をきたすことがあります。

PBX（構内交換機）で使いますか？

PBX(構内交換機)の回線（内線 0 発信など）を利用している場合は、V.90 および K56flex の本来の性能が出ないため、設定回線速度より低い速度で接続することがあります。PBX によっては、NTT 公衆回線網とかなり違いが生じているために、利用できないものがありますので、設置業者などにお問い合わせください。

モジュラーケーブルの長さは大丈夫ですか？

本製品添付のモジュラーケーブルは2mです。電話回線のコネクタから、本製品の置き場所までケーブルが届かない場合は、モジュラーケーブルおよび中継コネクタを別途お買い求めの上、ケーブルを延長してください。
ただし、数十メートル以上の延長は、データ送受信の弊害となりますので、ご注意ください。

プッシュ回線かダイヤル回線かを確認しましたか？

ご使用中の電話機の設定をご確認ください。「PB」ならプッシュ回線（トーン）で、「10」または「20」ならダイヤル回線（パルス）です。
本製品を設定する際に必要な情報です。

お使いのパソコンに内蔵モデムがありますか？

パソコン本体に内蔵モデムがある場合、以下を設定してください。

・PC98-NX シリーズ、DOS/V マシンおよび Macintosh の場合

内蔵モデムが使用している COM ポートは、パソコン本体の BIOS 設定などで使用不可に設定されている可能性があります。

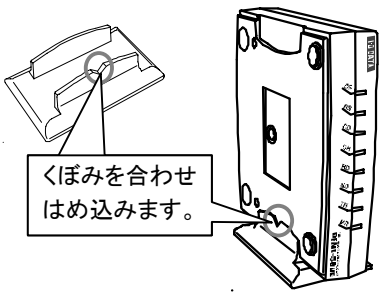
⇒ 本製品を内蔵モデムが使用していない COM ポート（Macintosh の場合は、プリンタポート）に接続するか、または内蔵モデムを取り外して、取り外した COM ポートを使用可能に設定してください。（設定の詳細は、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

・PC-9800 シリーズの場合

特に設定などの変更はありません。そのまま、パソコン本体の RS-232C コネクタへ本製品を接続してください。

本製品を縦置きで使用しますか？

添付の縦置き台を使用することにより縦置きでもご使用になれます。



2 接続する

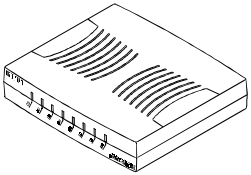
接続する ····· 10ページ

接続する

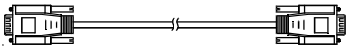
最初に本製品をパソコンやモジュラージャックに接続します。

用意するもの

・本製品



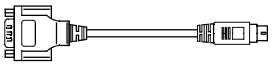
・添付の RS-232C ケーブル



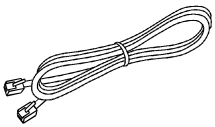
PC-9800 シリーズで RS-232C コネクタが 25 ピンの場合は市販の変換コネクタ(25 ピン⇔9ピン)もご用意ください。



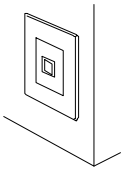
Macintosh でシリアルポート(8ピンまたは9ピンのモデムポート、プリンタポート)の場合は添付の RS-232C ケーブルと接続するための市販の変換コネクタもご用意ください。



・添付のモジュラーケーブル

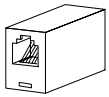


・電話回線(モジュラージャック)

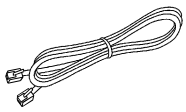


電話回線のモジュラージャックがパソコンから遠くて、添付のモジュラーケーブルだけでは届かない場合は、以下の2つもご用意ください。

・市販の RJ-11 中継コネクタ



・市販の延長用ケーブル

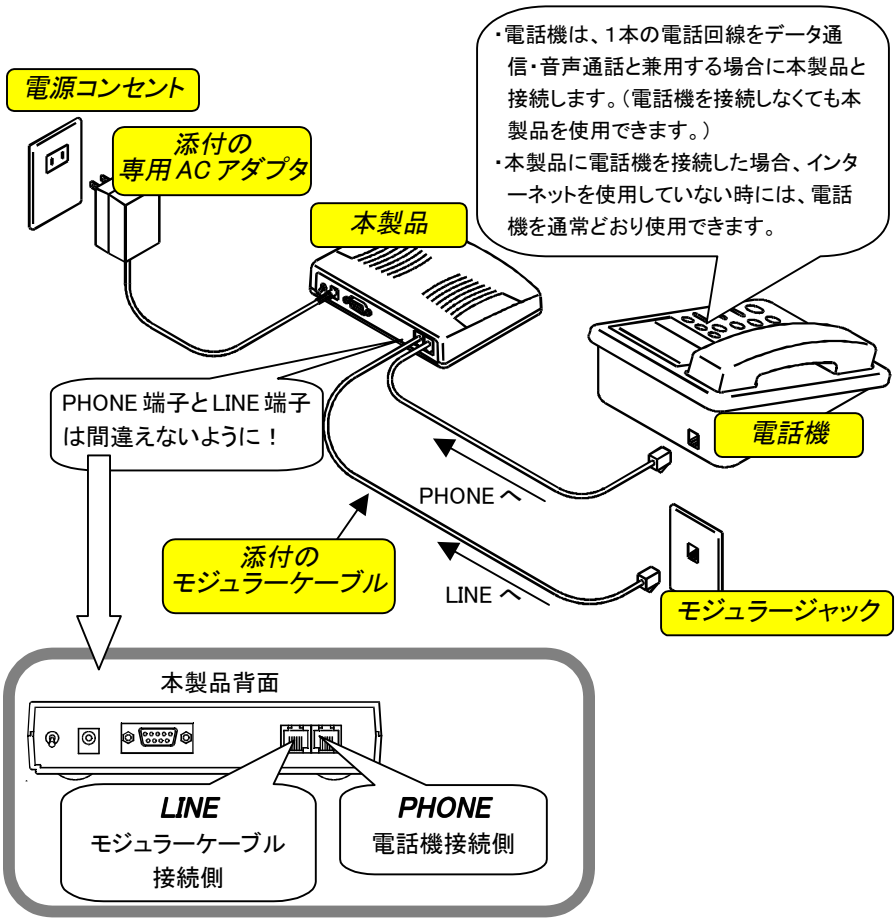


本製品を接続する

最初に、本製品をパソコンやモジュラージャックと接続します。
ここでは、その接続手順について説明します。

1 パソコンの電源を切ります。
電源を入れたまま本製品を接続すると、故障の原因となることがあります。

2 モジュラーケーブル、ACアダプタを本製品に接続します。
モジュラーケーブルをモジュラージャックに接続してください。
ACアダプタは電源コンセントに接続してください。





接続のヒント

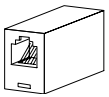
・モジュラーケーブル両端のコネクタはどちらも同じです。
・コネクタは差し込む向きが決まっています。入りにくいときは無理に差し込まず、コネクタの向きをご確認ください。
最後まで差し込むとカチッと音がします。
・本製品の LINE 端子は PHONE 端子と同じ形状なので、差し込み口を間違えないようにご注意ください。
・電話機などを使用する場合は PHONE 端子に接続してください。

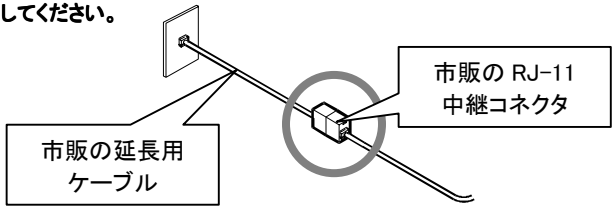


・モジュラーケーブル(電話回線)は、必ず本製品の LINE 端子と接続してください。
・モジュラーケーブルはなるべく以下の点にご注意ください。
①コネクタの上下の向きは決まっています。入りにくい時には、無理に差し込まず向きを確認してから差し込んでください。最後まで差し込むとカチッと音がします。
②パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカー等電化製品の近くを通さないでください。
③AC アダプタの付近に通さないでください。
④1本の電話回線を分配機や切替機等で二股に分けないでください。(分けられた回線を本製品の LINE 端子へ接続しないでください。)
V.90 および K56flex 通信は、電話回線の状況・品質に敏感です。
上記注意を守らないと、電話回線にノイズがのるなど、回線状況・品質の劣化につながる場合があります。
・添付のモジュラーケーブル以外をご使用になる場合は、なるべく短いモジュラーケーブルを使用してください。(数十メートルのモジュラーケーブルは使用しないでください。)
・4線式のビジネスホンなどでは、使用しないでください。

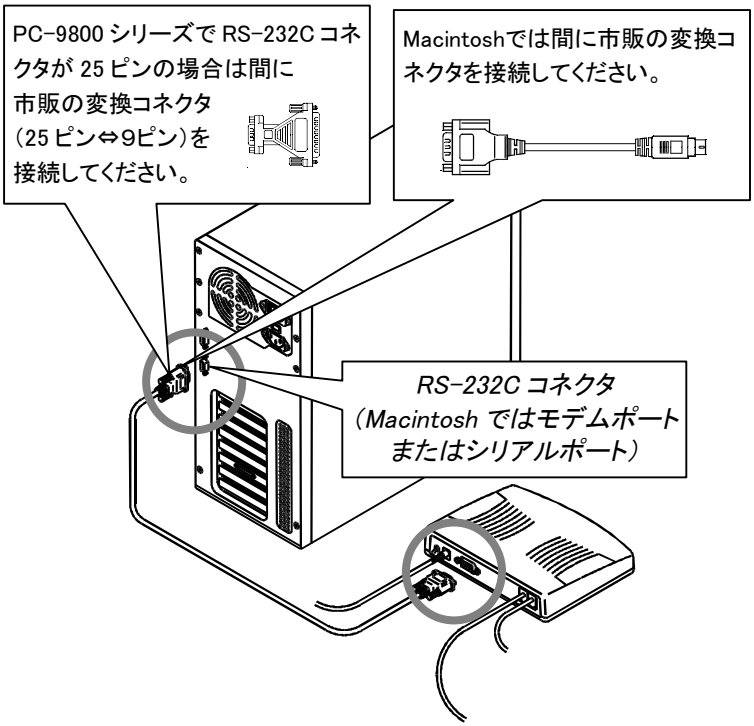
参考

電話回線のモジュラージャックが遠くて、専用ケーブルだけでは届かない場合は、市販の RJ-11 中継コネクタをお使いください。中継コネクタに、モジュラーケーブルの RJ-11 コネクタと、別途お買い求めの延長用ケーブルを差し、延長用ケーブルの RJ-11 コネクタを、電話回線に接続してください。





3 RS-232Cケーブルでパソコンと接続します。



これで接続が完了しました。
次に「サポートソフト」をインストールします。以下のお使いのOSの個所へお進みください。

Windows XP の場合 →【3 Windows XP で使うには】(15 ページ)
Windows 2000 の場合 →【4 Windows 2000 で使うには】(51 ページ)
Windows Me の場合 →【5 Windows Me で使うには】(87 ページ)
Windows 98/95 の場合 →【6 Windows 98/95 で使うには】(123 ページ)
Windows NT 4.0 の場合 →【7 Windows NT 4.0 で使うには】(161 ページ)
Mac OS の場合 →【8 Mac OS で使うには】(185 ページ)
漢字 Talk の場合 →【9 漢字 Talk で使うには】(207 ページ)

3 Windows XP で使うには

～ *準備編* ～

本製品で通信できるまでの流れ ····· 16ページ
ステップ1 インストールする ····· 17ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ 22ページ
ステップ3 端末速度を設定する····· 24ページ
ステップ4 発信情報を設定する····· 31ページ

～ *インターネット接続編* ～

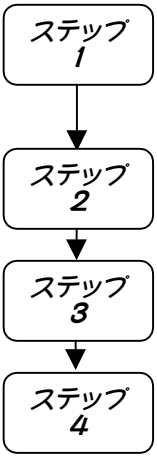
Windows XP でインターネットに
接続するには ··· 34ページ
ステップ1 接続前の準備····· 35ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··· 36ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう ····· 44ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする ····· 17ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。
ここではその手順について説明します。

インストールは正常ですか？ ····· 22ページ
【ステップ2】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

端末速度を設定する ····· 24ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

発信情報を設定する ····· 31ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ 1

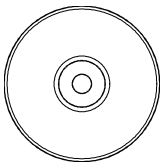
準備編

インストールする

本製品を接続したら、次に「サポートソフト」CD-ROM ディスクのインストールを行います。以下の手順でインストールしてください。

用意するもの

・添付の「サポートソフト」CD-ROM



「サポートソフト」をインストールする

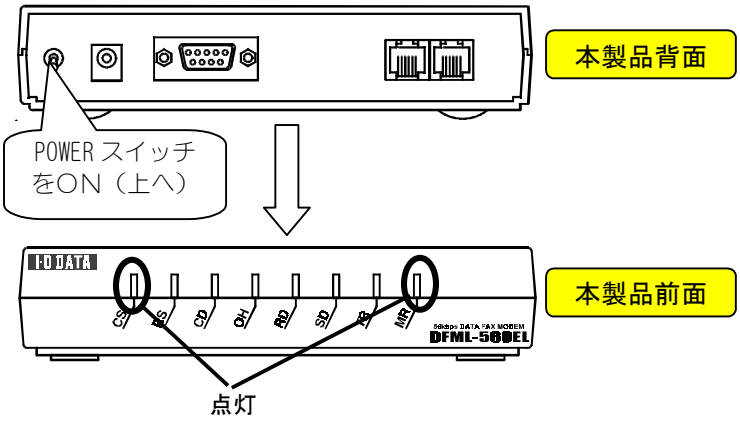
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

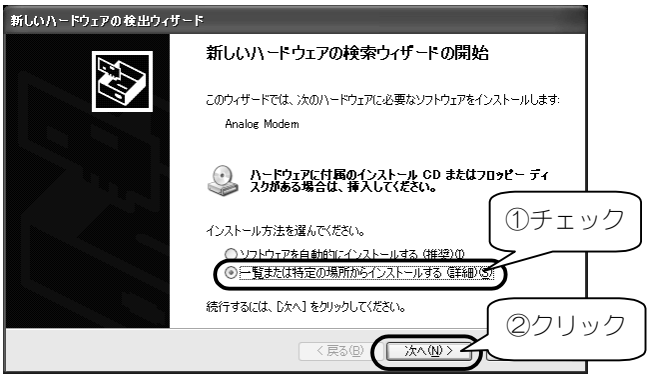
この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Windows XPを起動します。

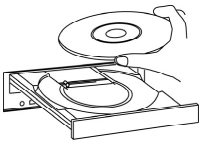
4 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[一覧または特定の場所からインストールする]をチェック後、[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

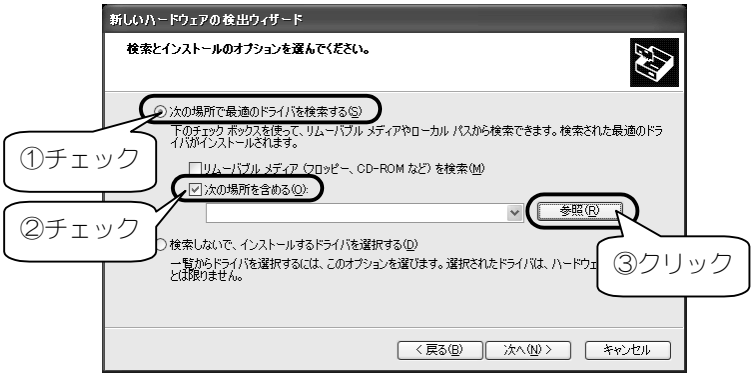
【困ったときには】の
225 ページ
をご参照ください。

5 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

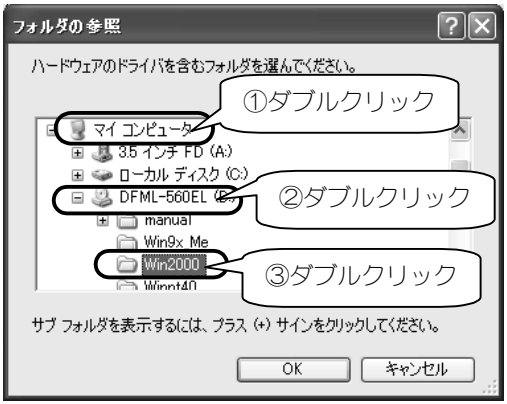


「サポートソフト」CD-ROM

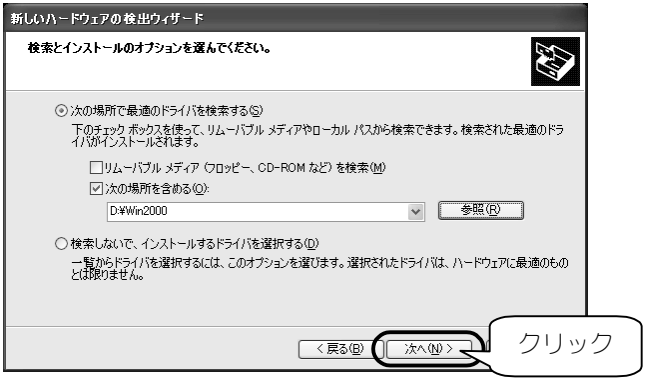
6 [次の場所で最適のドライバを検索する]をチェック後、
[次の場所を含める]のみをチェックして（その他の項目のチェックは外してください）、[参照]ボタンをクリックします。



7 [マイコンピュータ]→[DFML-560EL]（CD-ROMアイコン  ）
→[Win2000]を順にダブルクリックします。

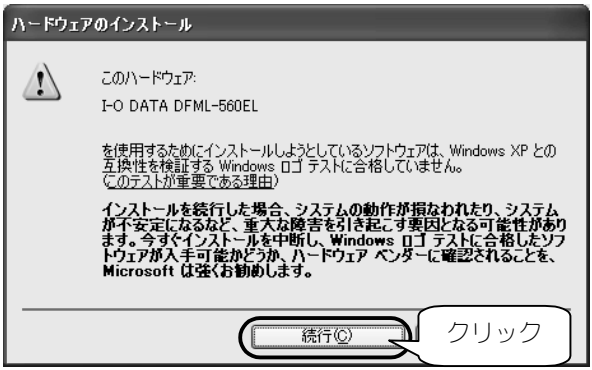


8 [次へ]ボタンをクリックします。



9 [続行]ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。

→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

10 しばらくして以下の画面が表示されたら、
［完了］ボタンをクリックします。



11 しばらくして、***10*** の手順の画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

12 すべての画面を閉じて、本製品を接続したまま、
パソコンを再起動してください。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

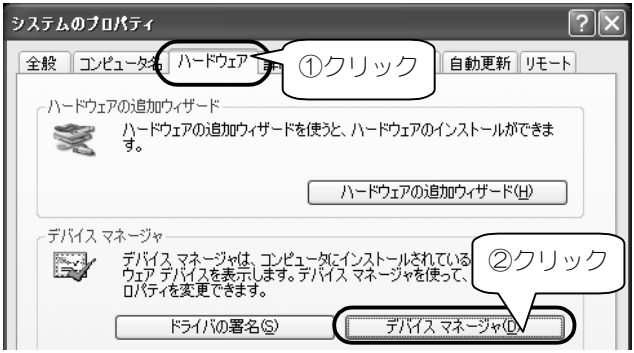
ステップ 2 準備編 インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「*パソコンが本製品を正しく認識しているか*」を Windows 上で確認します。

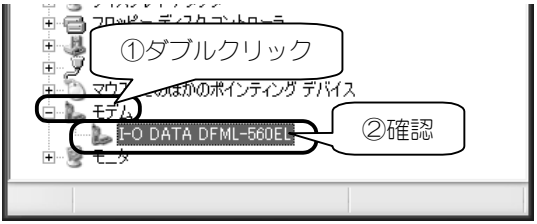
1 [スタート]をクリック後、
[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



2 [ハードウェア]タブをクリック後、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA DFML-560EL]が表示されていることを確認します。また、表示の頭に[！]マークがないことも確認します。



「I-O DATA DFML-560EL」が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の226ページをご参照ください。

4 画面右上の ✕ ボタンをクリックして、画面を閉じます。
前ページ***2***の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度を設定します。次ページへお進みください。

ステップ 3

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、「*正常に本製品とパソコンが通信できるか*」も確認します。
設定と確認は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。

注意

本製品のパフォーマンスを引き出すため、端末速度を 57600bps 以上に設定してください。（28 ページの手順6参照）
57600bps 以上の速度に設定できないパソコンでご使用になる場合は、弊社製高速 RS-232C 拡張ボード「RSA-PCI2 シリーズ」などの高速シリアル通信ボードをご利用いただくことをおすすめします。（その際の設定速度は 230400bps に設定してください。）

参考

使用している RS-232C ケーブルの長さやその周囲の環境、COM ポートの状態などによって、設定した速度では通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちます。あらかじめご了承ください。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］を順にクリックします。



2 [コントロールパネル]が“カテゴリ表示”になっている場合は、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。



3 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。





参考

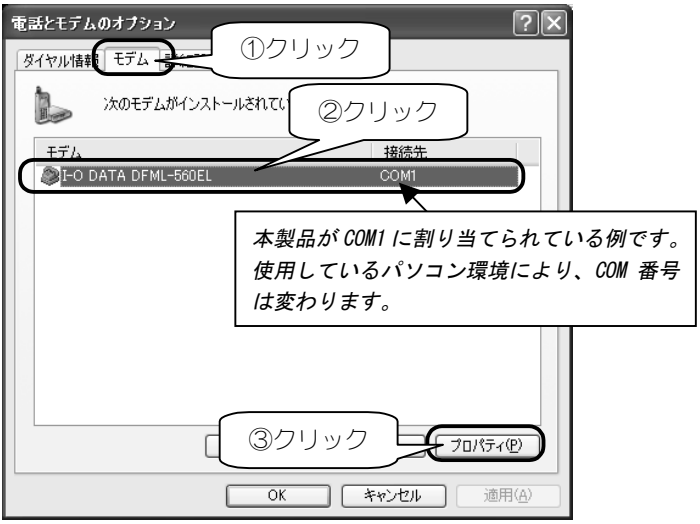
[電話とモデムのオプション]は[カテゴリ表示]からでも選択できます。
[カテゴリ表示]の場合は、[プリンタとその他のハードウェア]をクリック後、「コントロールパネルを選択します」の文字の下に[電話とモデムのオプション]があります。

4 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	国名／地域名	「日本」であることを確認
②	市外局番／エリアコード	ご使用になっている場所の市外局番を入力
③	電話会社の識別番号	指定する必要がある場合に入力 ※詳細はご加入の電話会社にご確認ください。
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



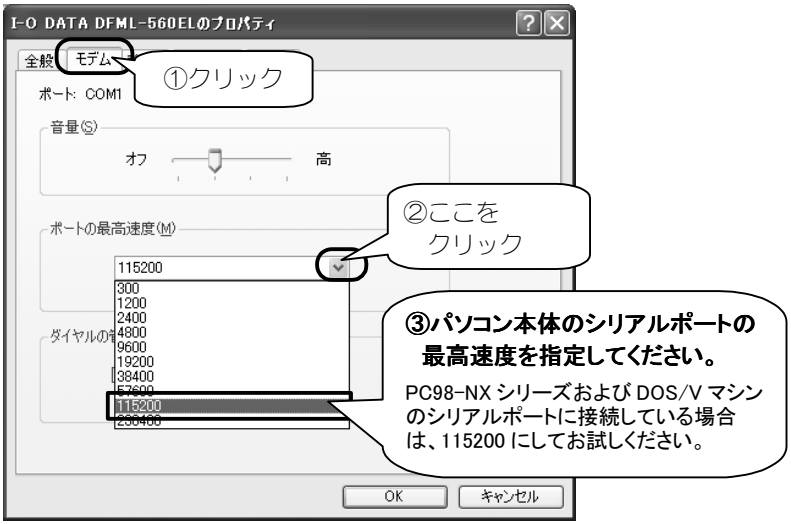
5 [電話とモデムのオプション]画面で[モデム]タブをクリック後、
[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



[I-O DATA DFML-560EL]が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
227 ページ
をご参照ください。

6 端末速度を設定します。
[モデム]タブをクリックし、[ポートの最高速度]を本製品を取り付けたポートが対応している最高速度に設定します。
本製品を取り付けたポートの最高速度については、パソコンの取扱説明書でご確認ください。
※この速度は回線速度ではなくパソコンと本製品間の速度です。



注意

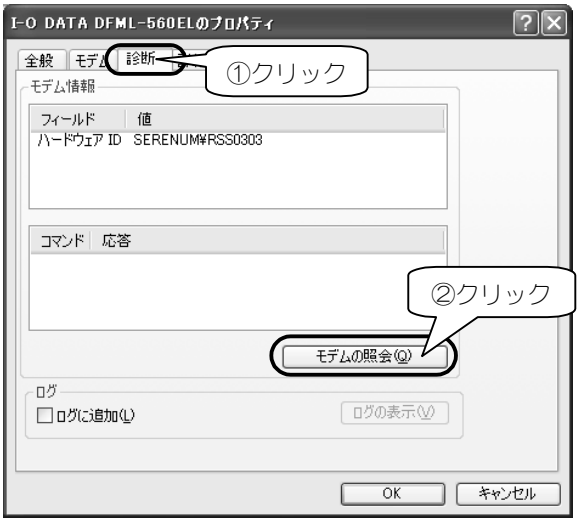
「230400」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せますが、230400bps で利用できるのは、230400bps に対応しているシリアルポートをお使いの場合のみです。最高速度がわからない場合は、115200bps 以下にしてください。

参考

1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

7 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

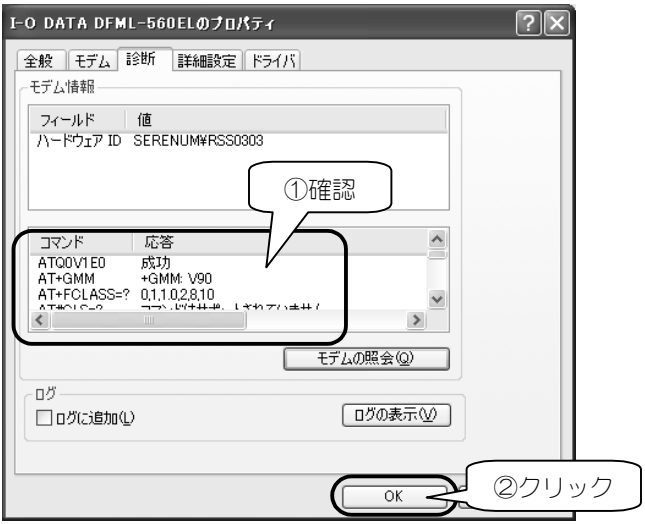
[診断]タブをクリックして、
[モデムの照会]ボタンをクリックします。



8 「お待ちください」と表示されます。
次ページの**9** の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。



9 しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」などと
表示された場合は…

【困ったときには】の
227 ページ
をご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間の通信テストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示されていますが、動作上問題ありません。

10 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。

参考

【ステップ3】で[コントロールパネル]をすでに表示させている場合は、次ページの *3* の手順から行ってください。

1 [スタート]→[コントロールパネル]を順にクリックします。



2 [コントロールパネル]が“カテゴリ表示”になっている場合は、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。





参考

[電話とモデムのオプション]は[カテゴリ表示]からでも選択できます。
[カテゴリ表示]の場合は、[プリンタとその他のハードウェア]をクリック後、「コントロールパネルを選択します」の文字の下に[電話とモデムのオプション]があります。

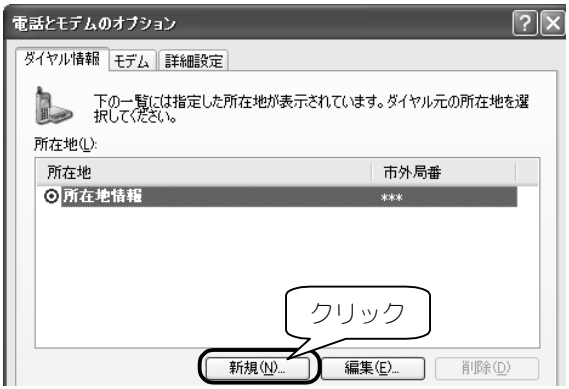
3 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。





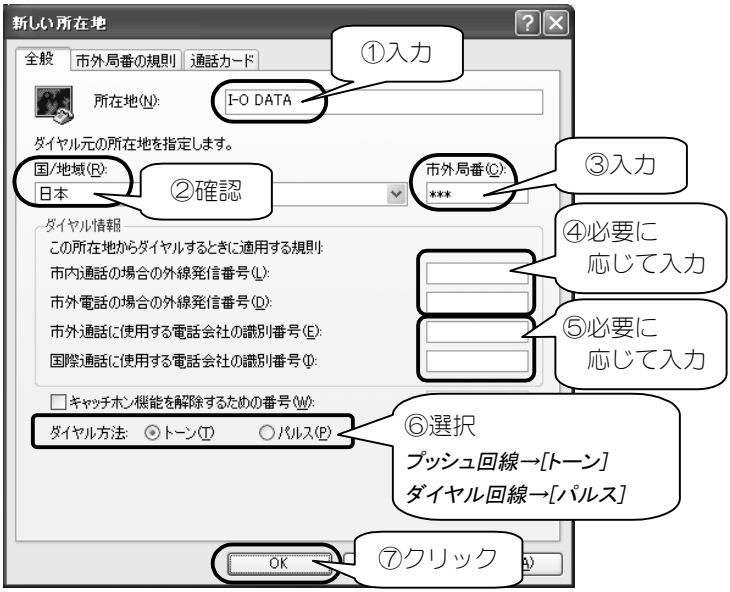
4 [新規]ボタンをクリックします。

以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、
次ページ**6**の手順へ進んでください。
（携帯電話やISDN回線用の所在地とは設定内容が異なります。
この場合は新しく所在地を追加してください。）



5 [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	所在地	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	識別番号	必要に応じて入力 ※詳細はご加入の電話会社にご確認ください。
⑥	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



6 [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

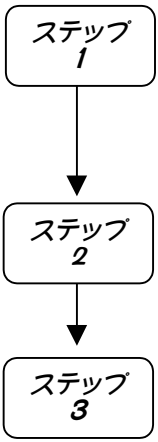
ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。

この後、インターネットをご利用になりたい場合は、次ページへお進みください。

インターネット接続編

Windows XP で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(17 ページ)～【ステップ4】(31 ページ)) の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。



接続前の準備 ····· *35ページ*

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

・プロバイダとの契約
・パソコン、本製品、電話回線の準備

接続に必要なソフトウェア ····· *36ページ*

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

・ダイヤルアップ接続

インターネットを楽しもう ····· *46ページ*

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（次ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】46 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

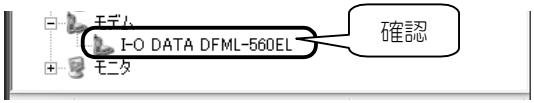
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(17 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(22 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面での以下の表示の確認
・[モデム]の下の[I-O DATA DFML-560EL]の表示



②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

次ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、次ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows XP には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

次ページ以降で[ダイヤルアップ接続]を設定します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップ接続]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア［ダイヤルアップ接続］を設定する必要があります。
はじめて［ダイヤルアップ接続］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、以下の【新しい設定を作るとき】を行います。

参考1

ダイヤルアップとは
→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続すること。

参考2

すでにダイヤルアップ接続（インターネット）の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 42 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

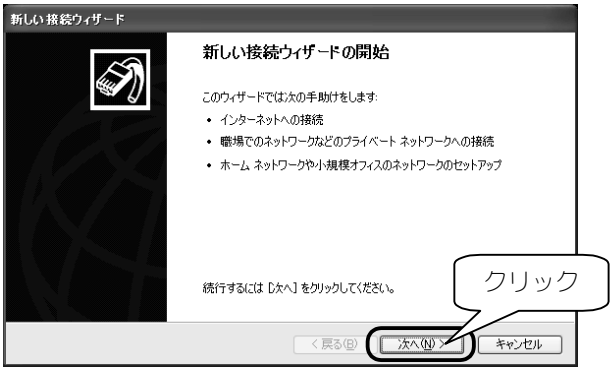
2 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[新しい接続ウィザード]を順にクリックします。



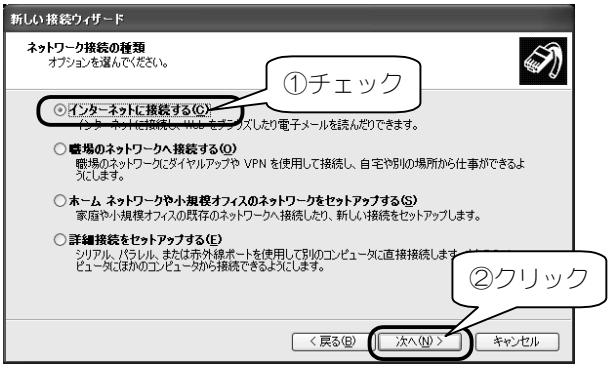
参考

[新しい接続ウィザード]と表示されず、[インターネット接続ウィザード]が表示されている場合は、[インターネット接続ウィザード]をクリックしてください。

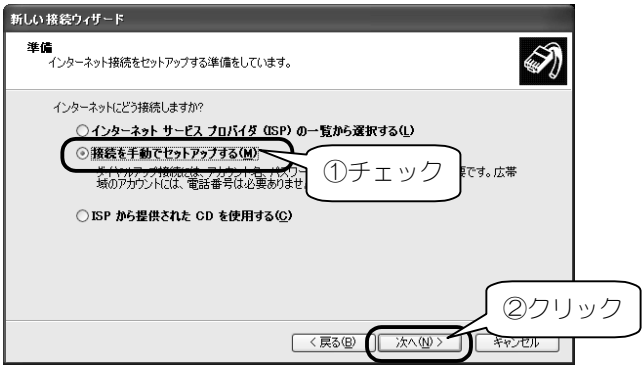
3 [次へ]ボタンをクリックします。



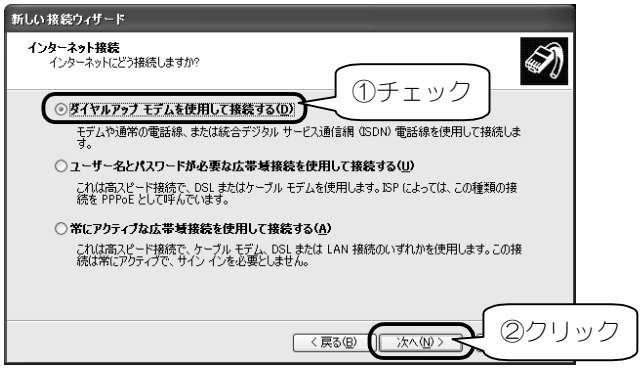
4 [インターネットに接続する]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



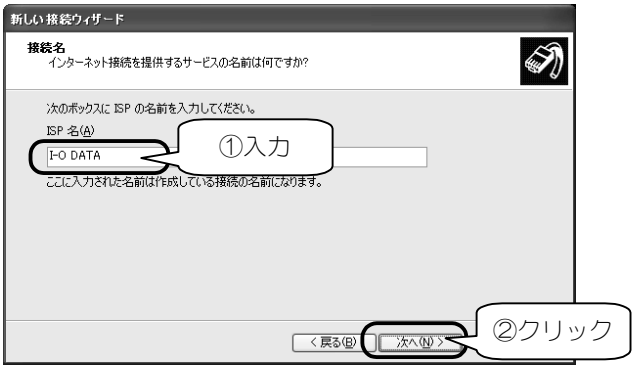
5 [接続を手動でセットアップする]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



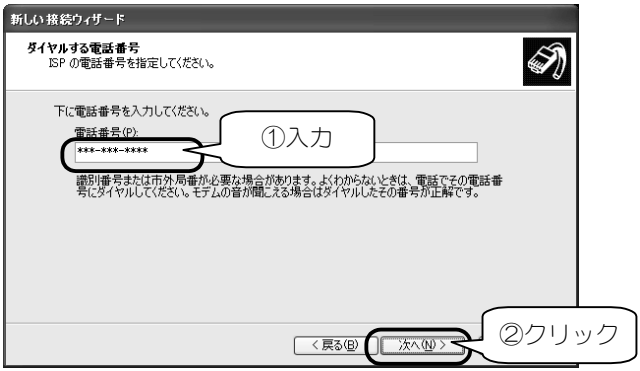
6 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



7 任意の名前(お好きな名前)を入力し、
[次へ]ボタンをクリックします。

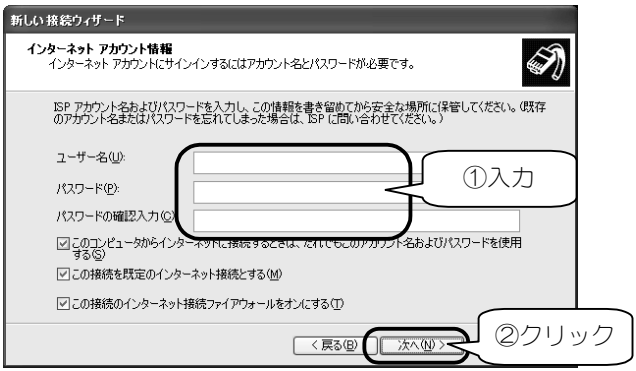


8 接続先（プロバイダ）の電話番号を市外局番から入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



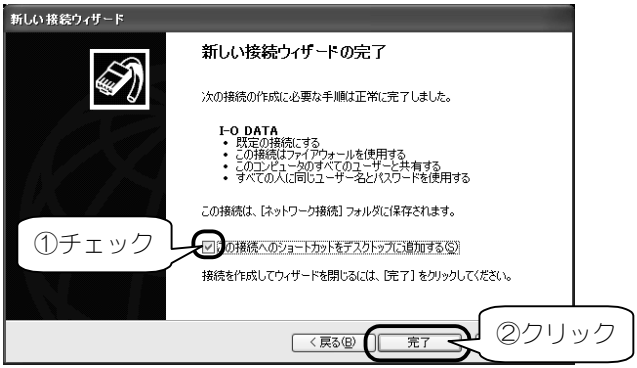
注意 **[電話番号]欄の「***-***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

9 プロバイダから案内された[ユーザー名]や[パスワード]を入力します。
[パスワードの確認入力]にも[パスワード]で入力したものと同じものを入力後、[次へ]ボタンをクリックします。

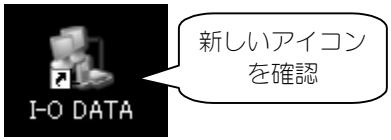


注意 **[パスワード]や[パスワードの確認入力]は[*****]と表示され、入力内容が確認できませんので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

10 [この接続へのショートカット…]をチェック後、[完了]ボタンをクリックします。



11 デスクトップ上に新しく作成された接続アイコンのショートカット（**7**の手順で入力した名前のアイコン）が表示されていることを確認します。



参考

デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成していない場合は、[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]を順にクリックし、表示されている接続のアイコンをご確認ください。

● *プロバイダから[DNS サーバー]を案内されている場合*

次ページ【設定を変更するとき】を参照して[DNS サーバー]を設定してください。

● *プロバイダから[DNS サーバー]の案内がない場合*

以上で[ダイヤルアップ接続]の設定は終了です。

46 ページからの【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

設定を変更するとき

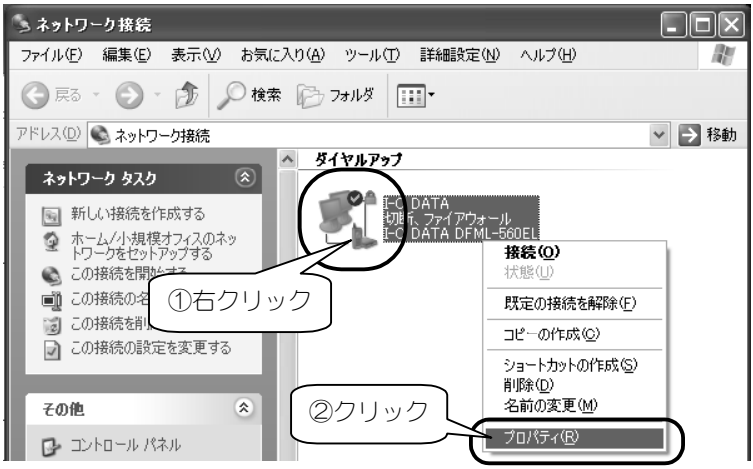
1 変更したい接続のアイコンを右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



（デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成している場合の例）

参考

デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成していない場合は、[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]を順にクリックし、表示されている変更したい接続のアイコンを右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックしてください。



2 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。

設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

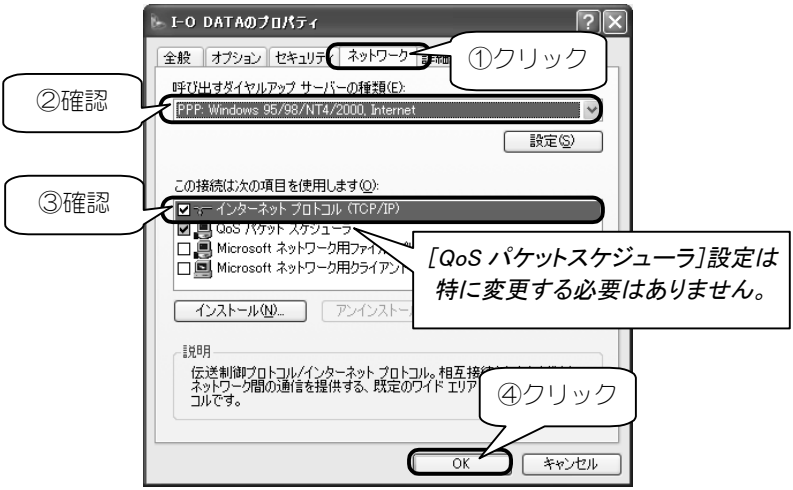
3 [ネットワーク]タブをクリックして、以下を確認します。

・[呼び出すダイヤルアップサーバーの種類]:
[PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet]

・[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。

確認・設定後、[OK]ボタンをクリックします。

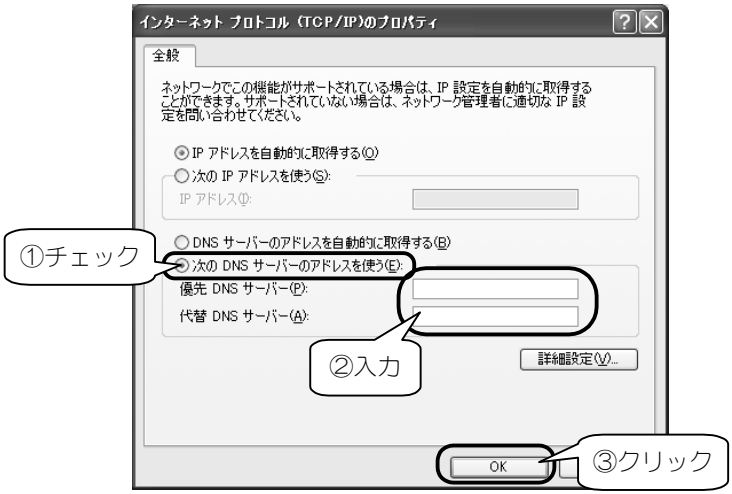


これでダイヤルアップ接続の設定は終了です。
46 ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**3** の手順の画面で、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が選択されている状態で、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 以下の画面が表示されますので、以下の手順で設定します。
①[次の DNS サーバーのアドレスを使う]をチェックします。
②[優先 DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[代替 DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 前ページ**3** の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じてください。

注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

ステップ
3

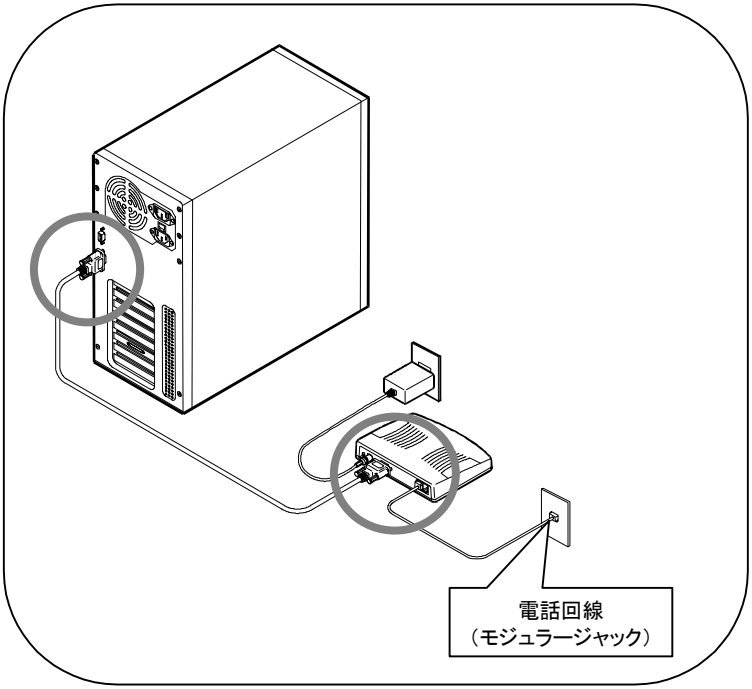
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、毎回以下を確認してからインターネットに接続してください。



チェック：電話回線と本製品、本製品とパソコンの接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品、また本製品とパソコンが接続されていることを確認してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップ接続] を設定する】(37 ページ)で作成した[ダイヤルアップ接続]で行います。

1 デスクトップ上に作成した接続のアイコンをダブルクリックします。





参考

デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成していない場合は、[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]を順にクリックし、表示されている接続のアイコンをダブルクリックしてください。

2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

[ダイヤル]ボタンをクリックすると、指定した電話番号にかかりプロバイダと通信を開始します。



注意

・[ダイヤル]欄の「*-***-****」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**
・パスワードは接続のアイコン設定時に入力したものと異なる場合のみ入力します。またその際、入力した文字は、[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字・小文字などを間違えないように注意してください。
・[次のユーザーが接続するとき……・]をチェックすると、ユーザー単位での設定ができます。
セキュリティの必要に応じて設定してください。

参考

接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合は
【設定を変更するとき】(42 ページ)を参照してください。

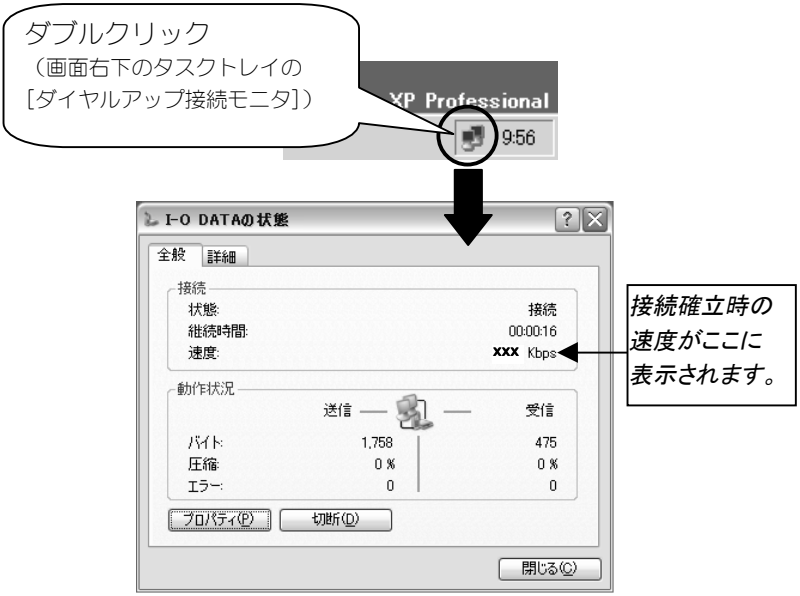
3 しばらくしてディスプレイ画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されたら、接続完了です。



「回線が使用中です」などと表示された場合は… → 【困ったときには】の 229 ページをご参照ください。

[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されない場合は… → 【困ったときには】の 231 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、ずっと[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。

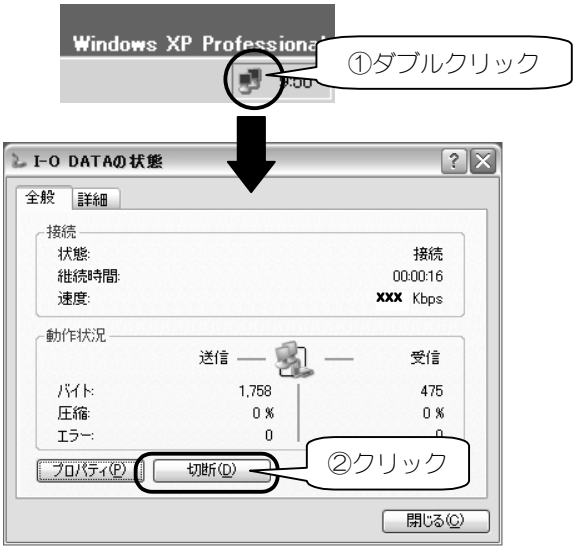
インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えることを必ず確認してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップ接続モニタ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。
これでインターネットが切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えます。



以上で、インターネットは終了できました。

4 Windows 2000 で使うには

～ *準備編* ～

本製品で通信できるまでの流れ ····· 52ページ
ステップ1 インストールする ····· 53ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ 59ページ
ステップ3 端末速度を設定する ····· 61ページ
ステップ4 発信情報を設定する ····· 65ページ

～ *インターネット接続編* ～

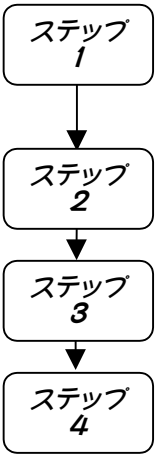
Windows 2000 でインターネットに
接続するには ··· 67ページ
ステップ1 接続前の準備····· 68ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··· 69ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう····· 81ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ1



インストールする ····· *53ページ*
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。
ここではその手順について説明します。

ステップ2

インストールは正常ですか？ ····· *59ページ*
【ステップ2】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ3

端末速度を設定する ····· *61ページ*
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ4

発信情報を設定する ····· *65ページ*
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ 1

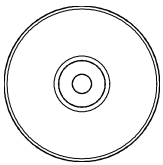
準備編

インストールする

本製品を接続したら、次に「サポートソフト」CD-ROM ディスクのインストールを行います。以下の手順でインストールしてください。

用意するもの

・添付の「サポートソフト」CD-ROM



「サポートソフト」をインストールする

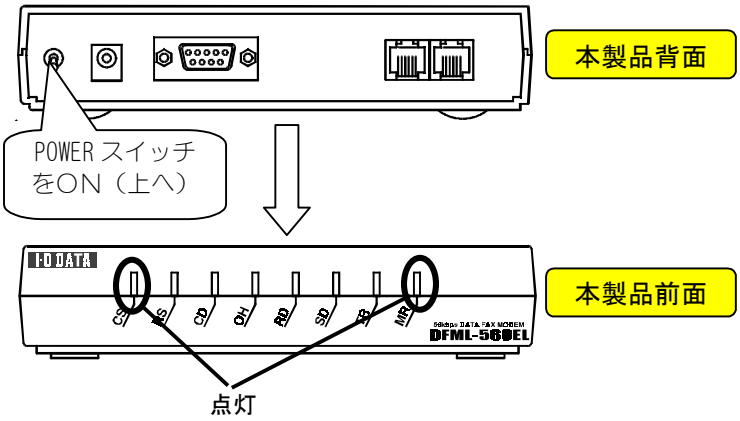
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

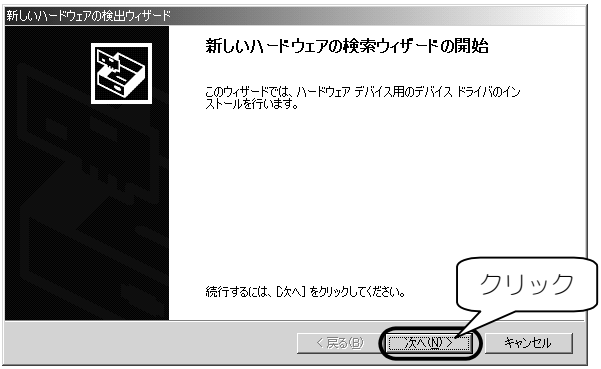
この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Windows 2000を起動します。

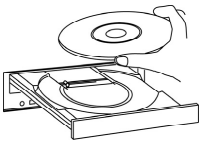
4 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

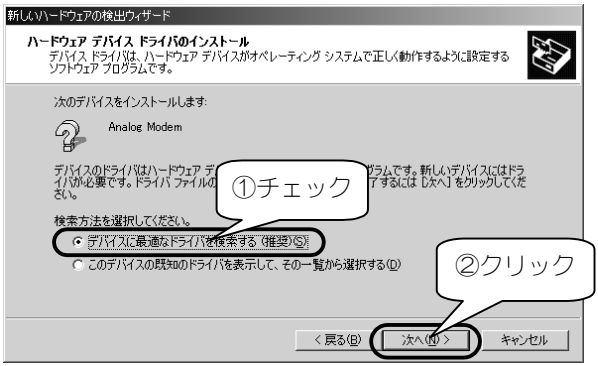
【困ったときには】の
225 ページ
をご参照ください。

5 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

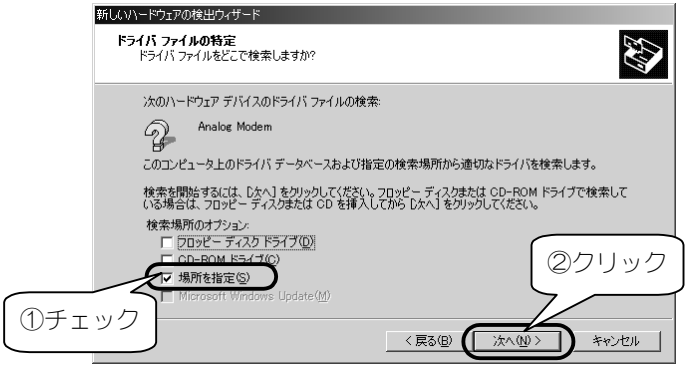


「サポートソフト」CD-ROM

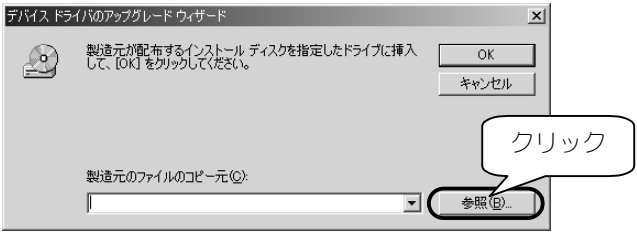
6 [デバイスに最適なドライバを検索する]をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。



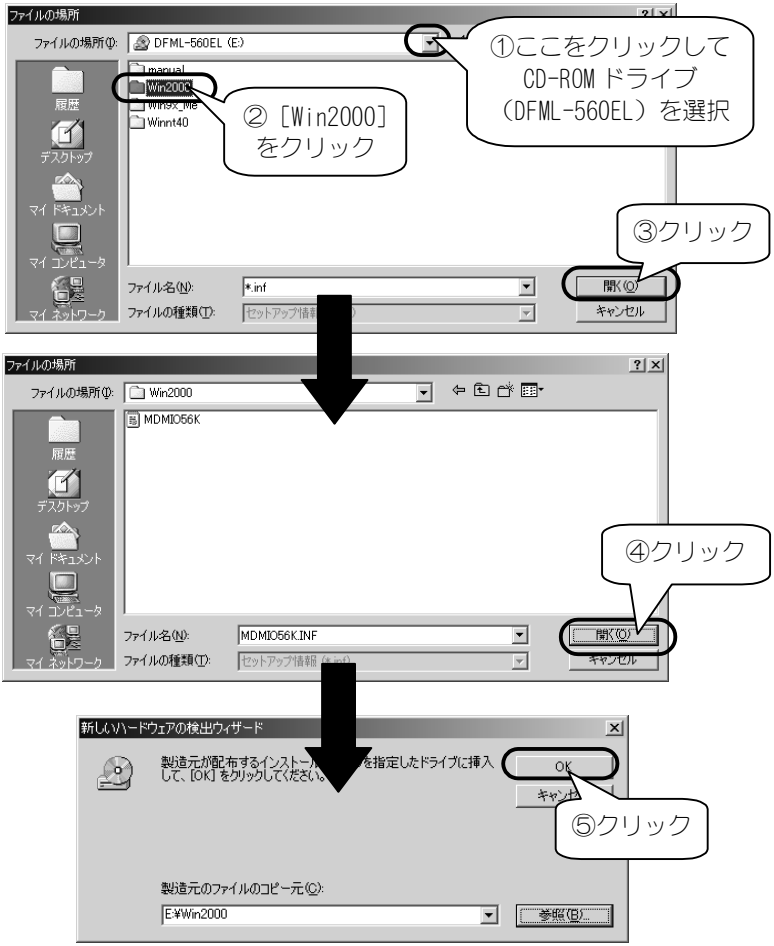
7 [場所を指定]のみをチェックして（その他の項目のチェックは外してください）、[次へ]ボタンをクリックします。



8 [参照]ボタンをクリックします。



9 「サポートソフト」CD-ROM内の[Win2000]フォルダを指定後、[OK]ボタンをクリックします。



10 [次へ]ボタンをクリックします。



11 [はい]ボタンをクリックします。

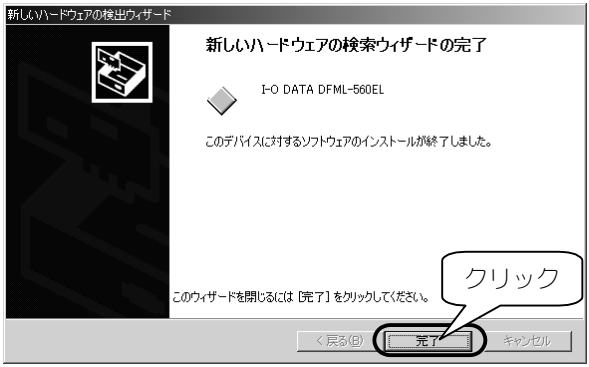


参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。

→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

12 [完了]ボタンをクリックします。

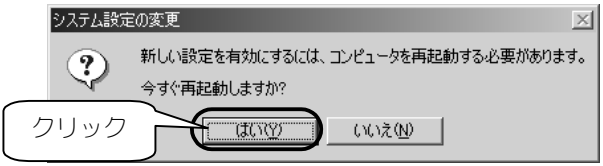


13 しばらくして、*12* の手順の画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出してください。

14 すべての画面を閉じて、本製品を接続したまま、
パソコンを再起動してください。

以下の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。

表示されなかった場合は、手動でパソコンを再起動してください。([スタート]→[シャットダウン]を順にクリックし、表示された画面で[再起動]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。)



以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

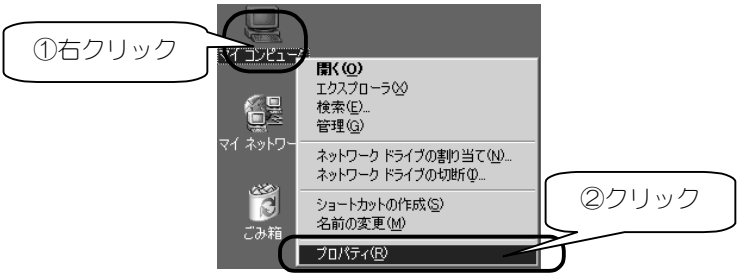
ステップ 2

準備編

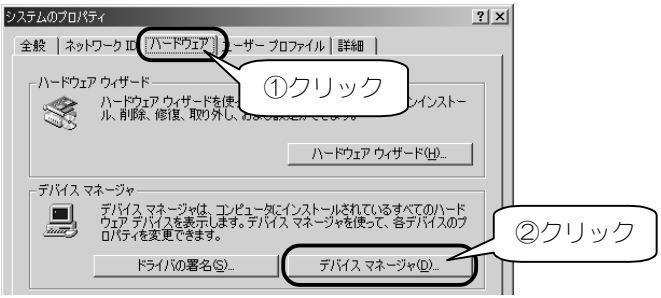
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。

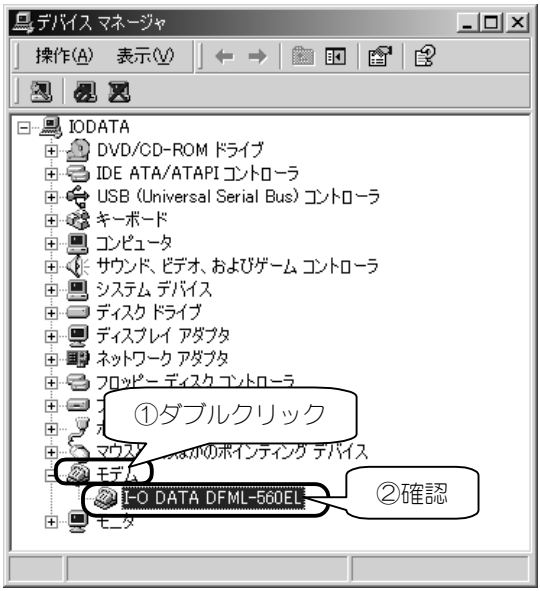
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [ハードウェア]タブをクリックし、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、「I-O DATA DFML-560EL」が表示されていることを確認します。また、表示の頭に[！]マークがないことも確認します。



「I-O DATA DFML-560EL」が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の 226 ページ をご参照ください。

4 画面右上の ✕ ボタンをクリックして、画面を閉じます。
前ページ**2**の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度を設定します。次ページへお進みください。

ステップ 3

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（端末速度）を設定します。
設定後、「*正常に本製品とパソコンが通信できるか*」も確認します。
設定と確認は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。

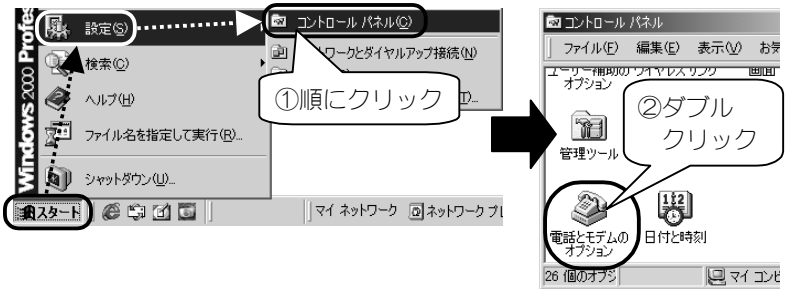
注意

本製品のパフォーマンスを引き出すため、端末速度を 57600bps 以上に設定してください。（次ページ*3*の手順参照）
57600bps 以上の速度に設定できないパソコンでご使用になる場合は、弊社製高速 RS-232C 拡張ボード「RSA-PCI2 シリーズ」などの高速シリアル通信ボードをご利用いただくことをおすすめします。（その際の設定速度は 230400bps に設定してください。）

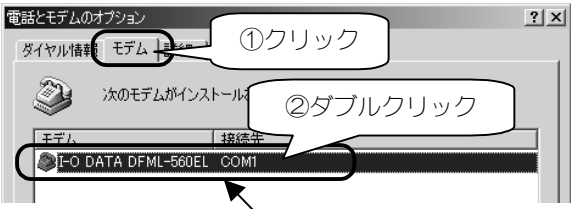
参考

使用している RS-232C ケーブルの長さやその周囲の環境、COM ポートの状態などによって、設定した速度では通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちます。あらかじめご了承ください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



2 [電話とモデムのオプション]画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA DFML-560EL]をダブルクリックします。



本製品が COM1 に割り当てられている例です。使用しているパソコン環境により、COM 番号は変わります。

「I-O DATA DFML-560EL」が表示されない場合は…

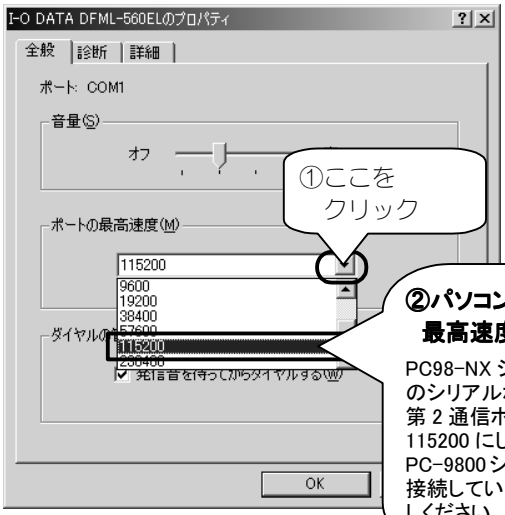
【困ったときには】の 227 ページをご参照ください。

3 端末速度を設定します。

[全般]タブで、[ポートの最高速度]を本製品を取り付けたポートが対応している最高速度に設定します。

本製品を取り付けたポートの最高速度については、パソコンの取扱説明書でご確認ください。

※この速度は回線速度ではなくパソコンと本製品間の速度です。



②パソコン本体のシリアルポートの最高速度を指定してください。

PC98-NX シリーズおよび DOS/V マシンのシリアルポートや PC-9821 シリーズの第 2 通信ポートに接続している場合は、115200 にしてお試しください。
PC-9800 シリーズの通信ポート COM1 に接続している場合は、19200 にしてお試しください。

注意

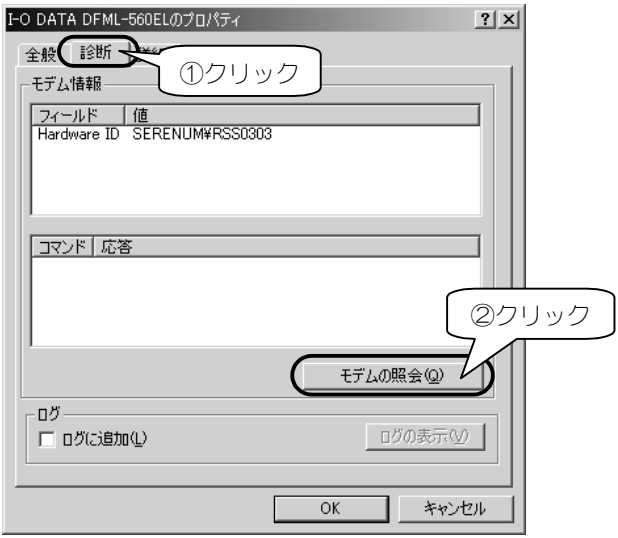
「230400」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せますが、230400bps で利用できるのは、230400bps に対応しているシリアルポートをお使いの場合のみです。最高速度がわからない場合は、115200bps 以下にしてください。

参考

1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

4 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

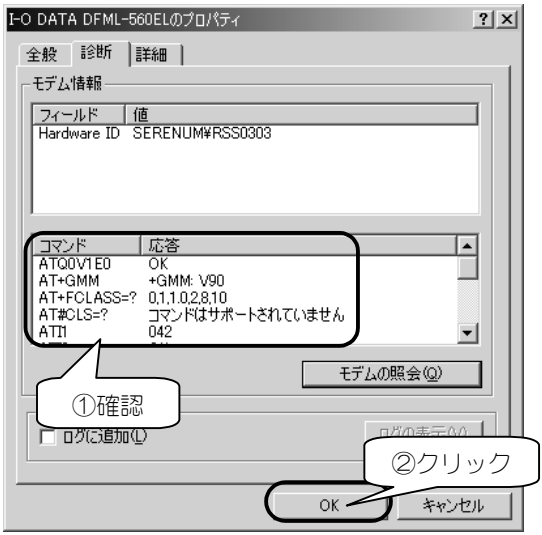
[診断]タブをクリックして、
[モデムの照会]ボタンをクリックします。



5 「お待ちください」と表示されます。
次ページの**6** の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。



6 しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」などと
表示された場合は…

【困ったときには】の
227 ページ
をご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間の通信テストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示されていますが、動作上問題ありません。

7 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

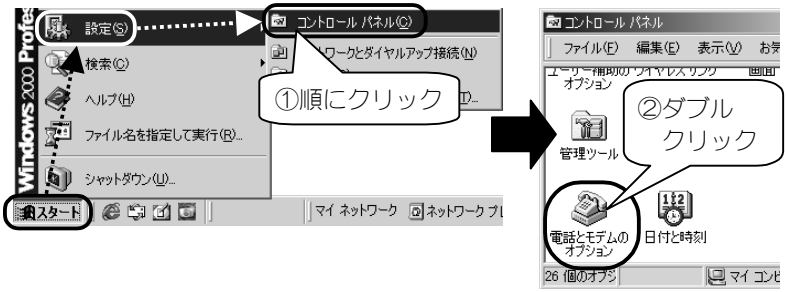
ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。

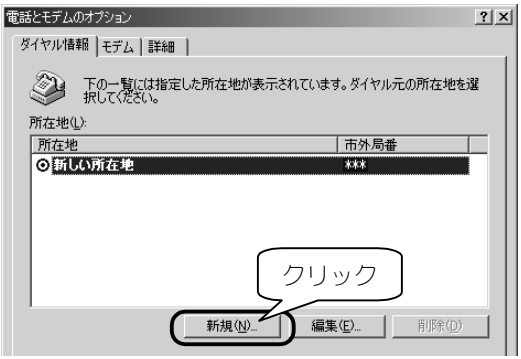
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



2 [新規]ボタンをクリックします。

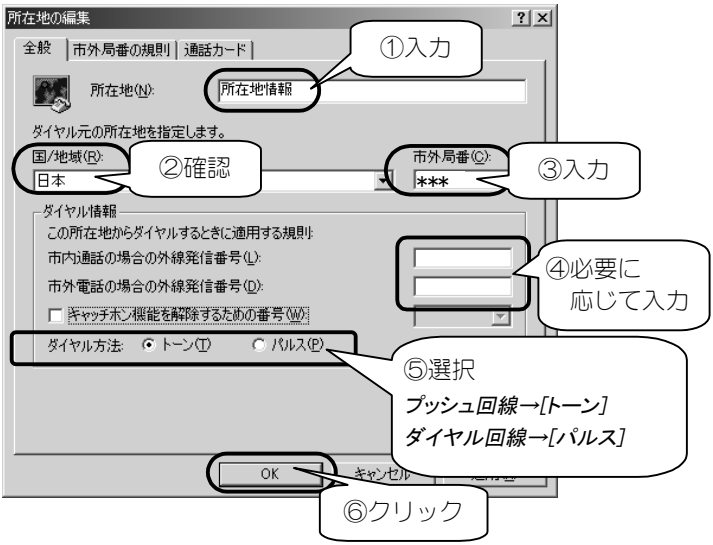
以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、次ページ**4**の手順へ進んでください。

（携帯電話やISDN回線用の所在地とは設定内容が異なります。
この場合は新しく所在地を追加してください。）



3 [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	所在地	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。

この後、インターネットをご利用になる場合は、次ページへお進みください。

インターネット接続編

Windows 2000 で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(53 ページ)～【ステップ4】(65 ページ)) の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 68ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

・プロバイダとの契約
・パソコン、本製品、電話回線の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア ····· 69ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

・ダイヤルアップ接続

ステップ 3

インターネットを楽しもう ····· 81ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（次ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】81 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(53 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(59 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面での以下の表示の確認
・[モデム]の下の[I-O DATA DFML-560EL]の表示



②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

次ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、次ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows 2000 には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

次ページ以降で[ダイヤルアップ接続]を設定します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップ接続]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア［ダイヤルアップ接続］を設定する必要があります。
はじめて［ダイヤルアップ接続］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、以下の【新しい設定を作るとき】を行います。

参考1

ダイヤルアップとは
→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続すること。

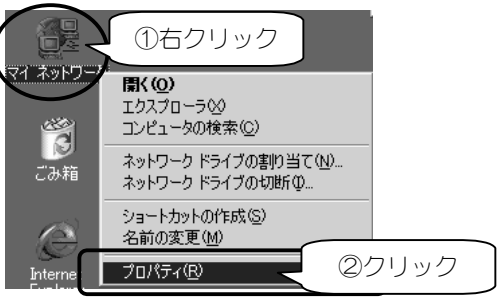
参考2

すでにダイヤルアップ接続（インターネット）の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 77 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

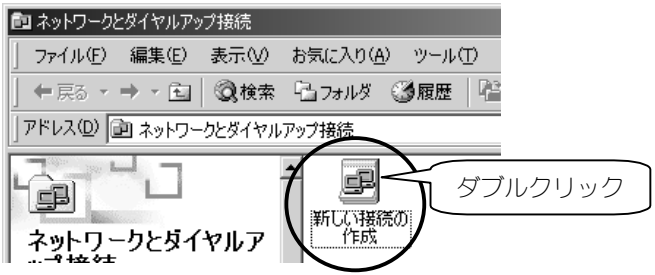
新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

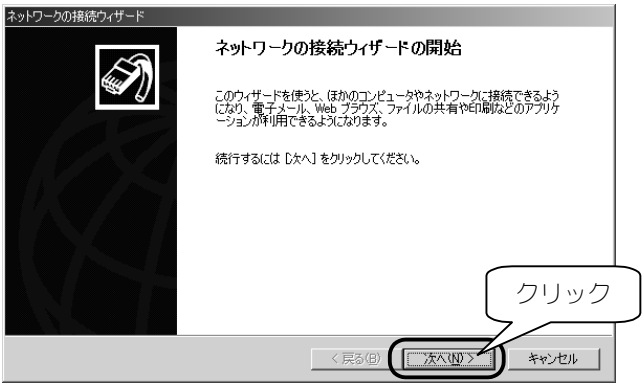
2 [マイネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



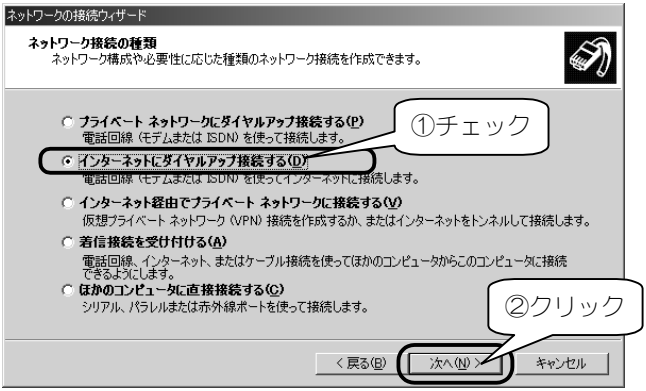
3　[新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックします。



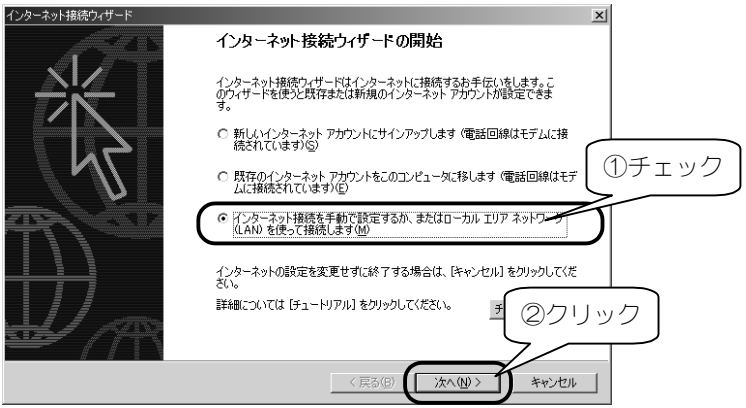
4　[次へ]ボタンをクリックします。



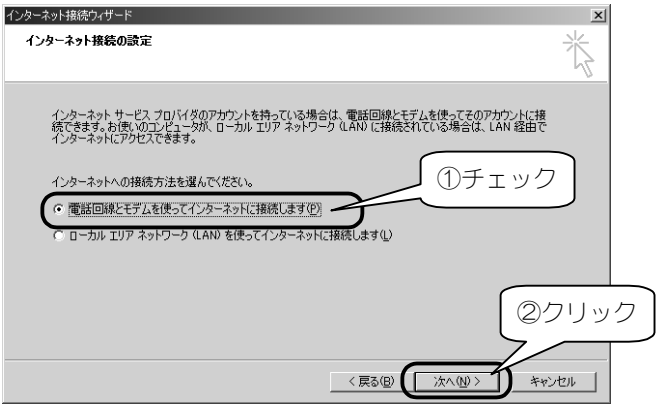
5　[インターネットにダイヤルアップ接続する]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



6 [インターネット接続を手動で設定するか、……]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



7 [電話回線とモデムを使ってインターネットに…]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



8 複数のモデムがインストールされている場合は以下の画面が表示されますので、[I-O DATA DFML-560EL]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

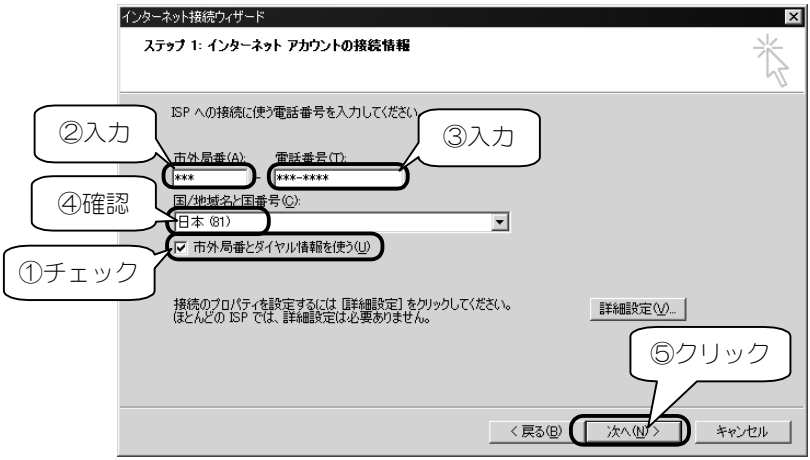


9 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[市外局番とダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国/地域名と国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

[電話番号]以外に、プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照してください。

設定後、[次へ]ボタンをクリックします。



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

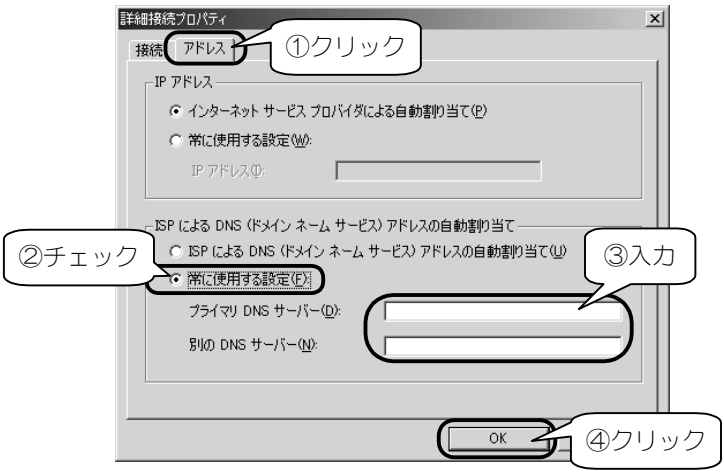
●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ***9*** の手順の画面で、[詳細設定]ボタンをクリックします。

2 [詳細接続プロパティ]画面が表示されますので、以下の手順で設定します。

①[アドレス]タブをクリックします。
②[常に使用する設定]をチェックします。
③[プライマリ DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[別の DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。

設定後、[OK]ボタンをクリックします。

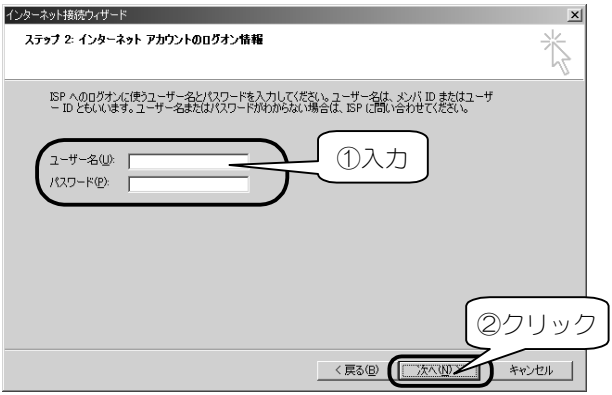


3 前ページ***9*** の手順の画面に戻りますので、[次へ]ボタンをクリックして、次ページ ***10*** の手順へお進みください。

注意

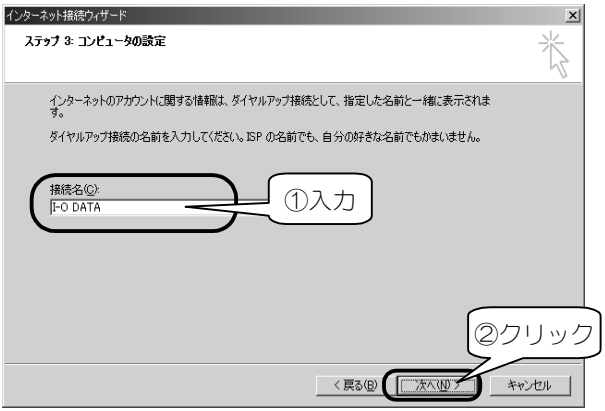
・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

10 プロバイダから案内された[ユーザー名]や[パスワード]を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

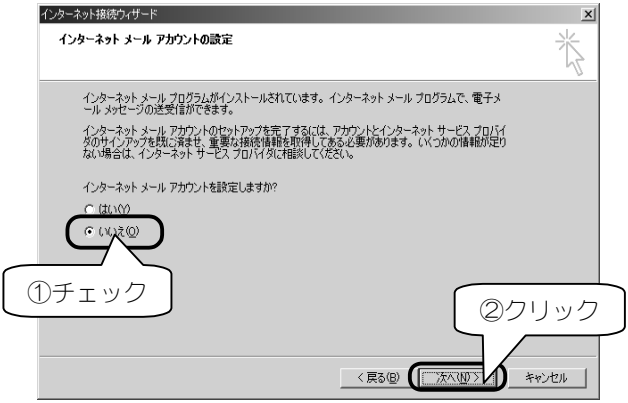


注意 **パスワードは[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

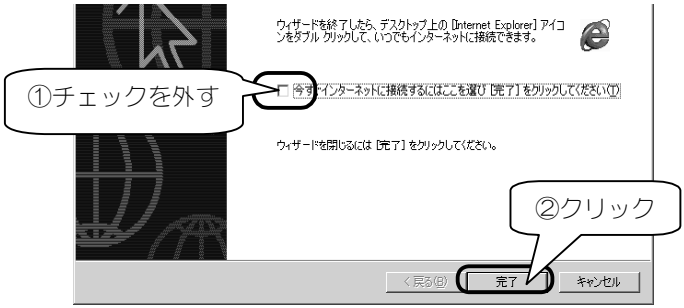
11 [接続名]欄に任意の接続名(お好きな名前)を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



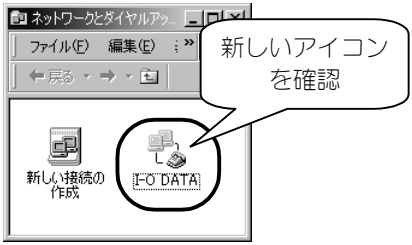
12 [いいえ]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。
メールアカウントの設定はメールソフト側で行えるので、本書では、ここで設定は行いません。



13 [今すぐインターネットに…]のチェックを外して、[完了]ボタンをクリックします。



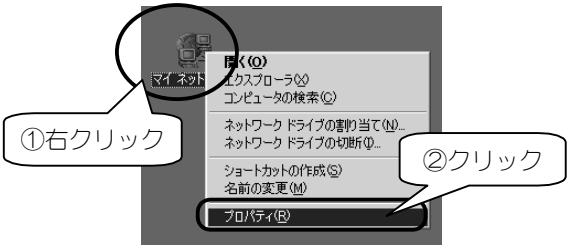
14 新しく作成された接続アイコンを確認します。



以上で、[ダイヤルアップ接続]の設定は終了です。
81 ページからの【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

設定を変更するとき

1 [マイネットワーク]アイコンを右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



2 変更したい接続のアイコンを右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



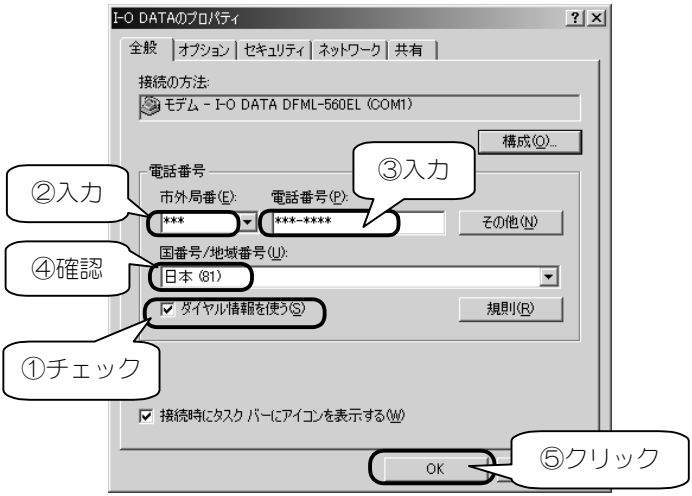
3 [接続の方法]欄に複数のモデムが表示された場合、
本製品のみをチェックします。（他のモデムのチェックは外します。）



4 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。

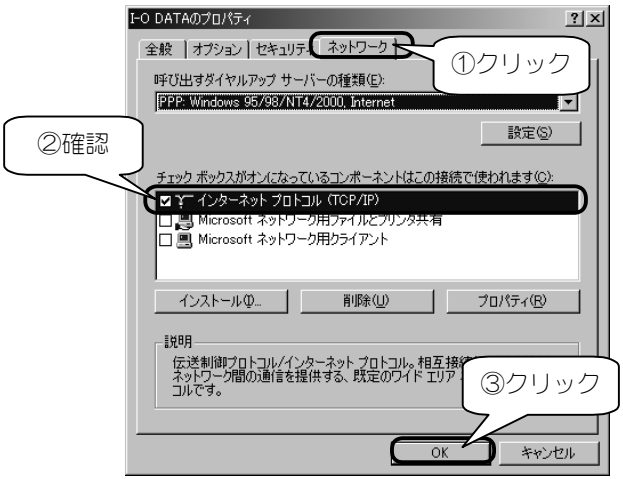
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

5 [ネットワーク]タブをクリックして、
[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のみにチェックが付いていることを確認します。
プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。
[OK]ボタンをクリックします。



これでダイヤルアップ接続の設定は終了です。
81 ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

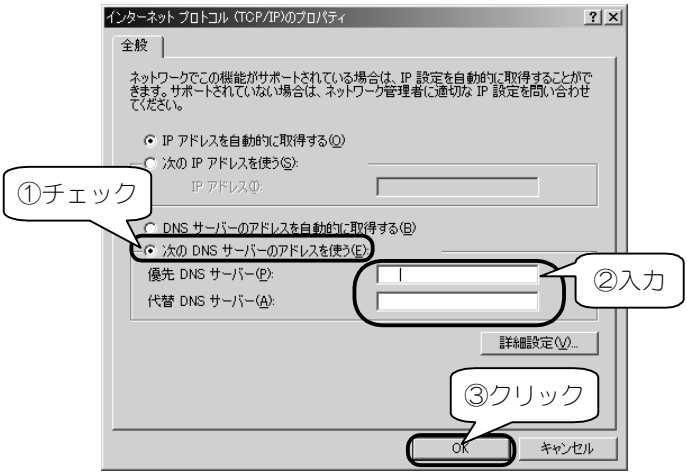
1 前ページ**5**の手順の画面で、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックした後、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 [インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面が表示されますので、以下を設定します。

①[次の DNS サーバーのアドレスを使う]をチェックする

②[優先 DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[代替 DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力する

設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 前ページ**5**の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

ステップ 3

インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

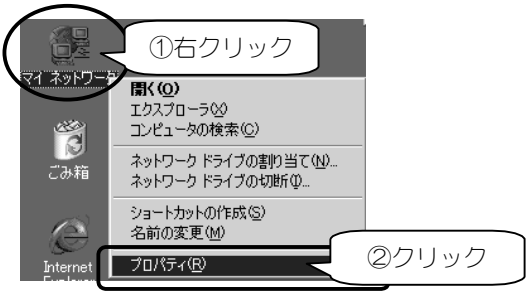
注意

インターネットに接続する際は、毎回、電話回線（モジュラージャック）と本製品、また本製品とパソコンが接続されていることを確認してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップ接続] を設定する】（70 ページ）で作成した[ダイヤルアップ接続]で行います。

1 [マイネットワーク]を右クリックし、
表示された[プロパティ]をクリックします。

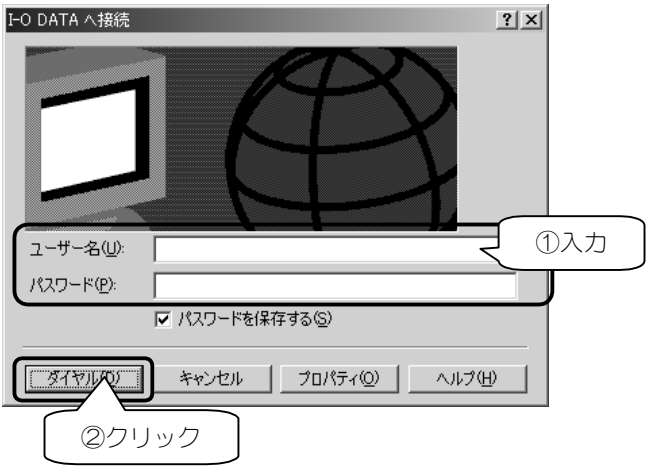


2 新しく作成した接続のアイコンをダブルクリックします。



3 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

[ダイヤル]ボタンをクリックすると、指定した電話番号（次ページの手順で確認できます）にかかりプロバイダと通信を開始します。



注意

・パスワードは[*****]と表示されます。
入力した文字数に関係無く、16 桁表示されますが、Windows 2000 のセキュリティ上の仕様です。
・[パスワードを保存する]をチェックすると、次回からパスワードが[*]印で表示されますので、パスワードを入力する必要がありません。
セキュリティの必要に応じてお使いください。

参考

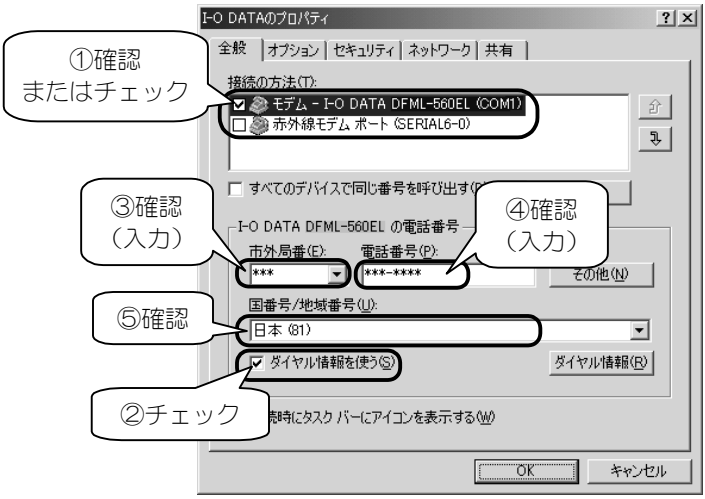
接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合は
→[プロパティ]ボタンをクリックし、次ページを参照してください。

●接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合

1 前ページ**3**の手順の画面で、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 以下の各設定を行います。

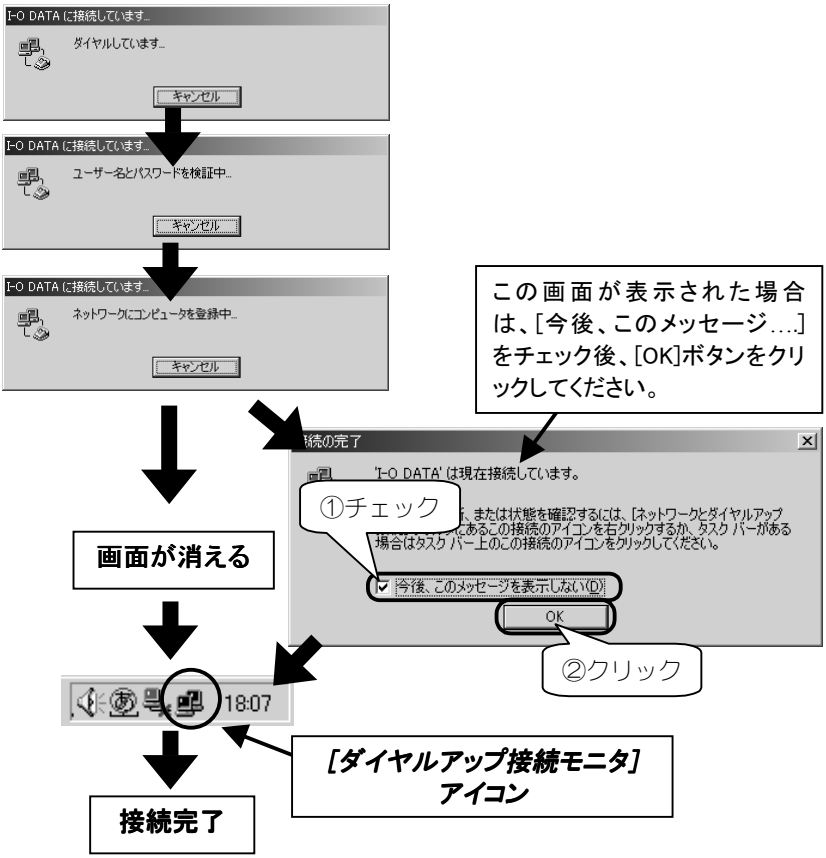
①[接続の方法]欄は、[I-O DATA DFML-560EL]が表示されていること(複数のモデムがある場合は[I-O DATA DFML-560EL]のみがチェックされていること)を確認します。
②[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を確認または入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を確認または入力します。
⑤[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。



3 上記画面の[ダイヤル情報]ボタンをクリックし、[ダイヤル情報]タブで左下の方に[ダイヤルする電話:]として実際に発信される電話番号が表示されますので、間違いないかご確認ください。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。

4 前ページ**3**の手順の画面に戻りますので、[ダイヤル]ボタンをクリックして、インターネットに接続しましょう。

4 しばらくしてパソコンの画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されたら、接続完了です。



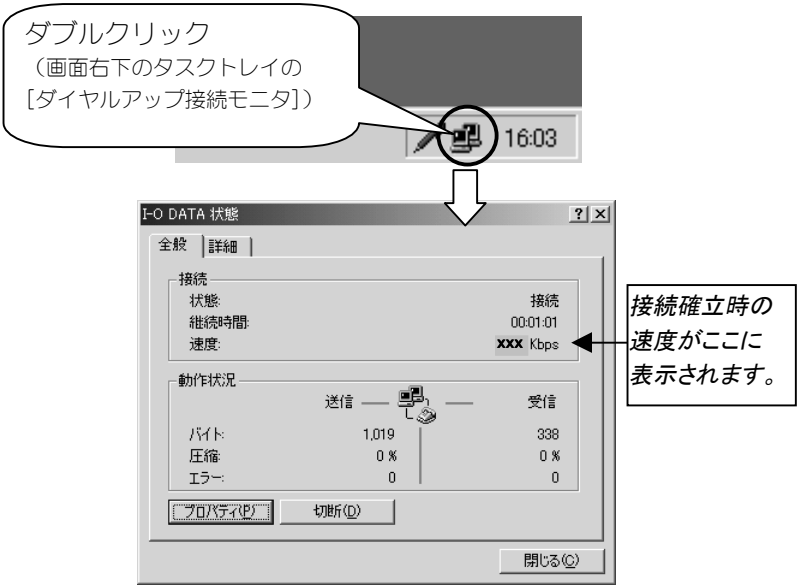
「回線が使用中です」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 229 ページをご参照ください。

[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されない場合は…

【困ったときには】の 231 ページをご参照ください。

5 接続状況は、[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



6 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、ずっと[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。

インターネットを終了する

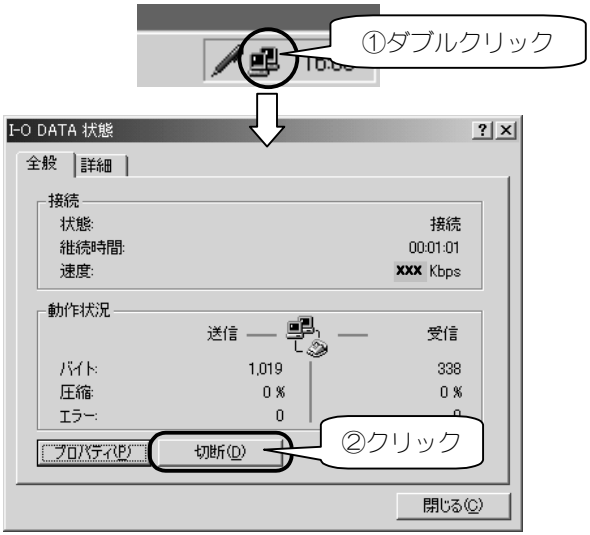
インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えることを必ず確認してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップ接続モニタ]をダブルクリックし、[切断]をクリックします。

これでインターネットが切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えます。



以上で、インターネットは終了できました。

5 Windows Me で使うには

～ *準備編* ～

本製品で通信できるまでの流れ ····· 88ページ
ステップ1 インストールする ····· 89ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ 94ページ
ステップ3 端末速度を設定する····· 96ページ
ステップ4 発信情報を設定する·····100ページ

～ *インターネット接続編* ～

Windows Me でインターネットに
接続するには ··102ページ
ステップ1 接続前の準備·····103ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··104ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう ····113ページ

～ *添付ソフト編* ～

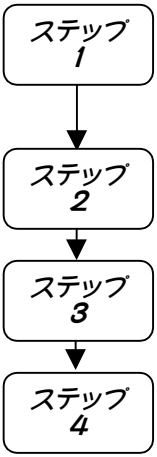
「回線モニター」を使う·····117ページ
（Windows Me/98/95 のみ対応）

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ1



インストールする ····· 89ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。
ここではその手順について説明します。

ステップ2

インストールは正常ですか？ ····· 94ページ
【ステップ2】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ3

端末速度を設定する ····· 96ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ4

発信情報を設定する ····· 100ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ 1

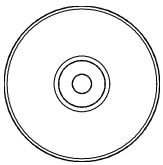
準備編

インストールする

本製品を接続したら、次に「サポートソフト」CD-ROM ディスクのインストールを行います。以下の手順でインストールしてください。

用意するもの

・添付の「サポートソフト」CD-ROM



「サポートソフト」をインストールする

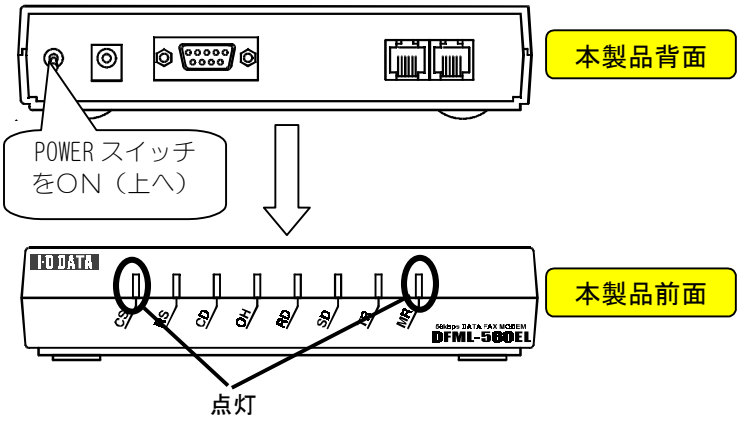
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Windows Meを起動します。

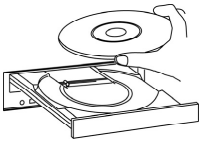
4 しばらくするとパソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[ドライバの場所を指定する]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

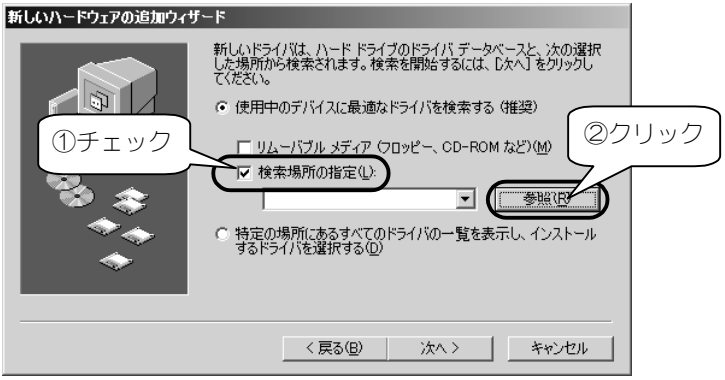
【困ったときには】の
225 ページ
をご参照ください。

5 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

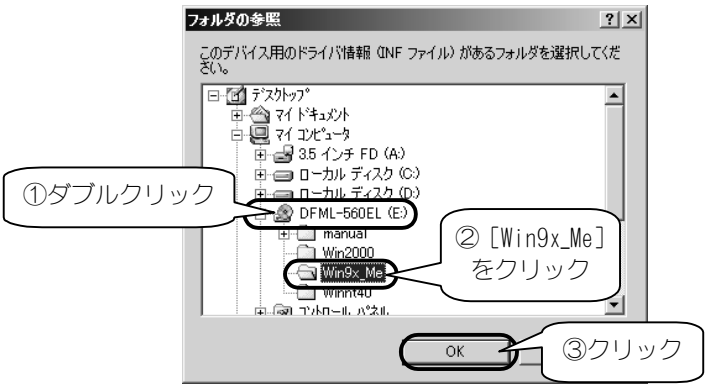


「サポートソフト」CD-ROM

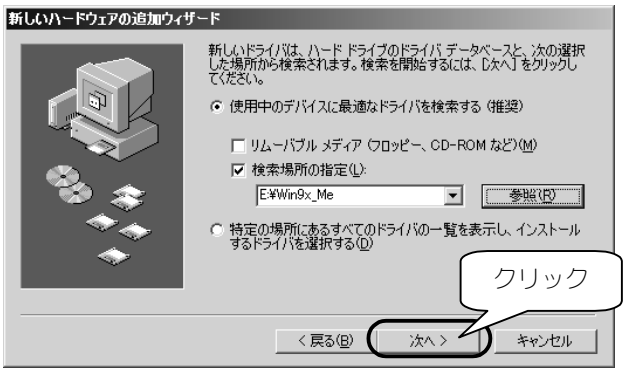
6 [検索場所の指定]のみをチェックして、
[参照]ボタンをクリックします。



7 CD-ROMドライブ(DFML-560EL)の[Win9x_Me]フォルダを指定して、[OK]ボタンをクリックします。



8　[次へ]ボタンをクリックします。



9　[I-O DATA DFML-560EL]と表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



「指定の場所には*お使いのハードウェアに関する情報が見つかりません*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 226 ページをご参照ください。

「*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 226 ページをご参照ください。

10 [完了]ボタンをクリックします。



11 しばらくして表示画面が消えたら、インストールは終了です。
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

12 パソコンを一度再起動してください。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

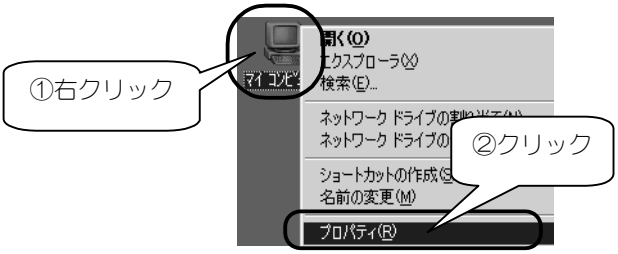
ステップ 2

準備編

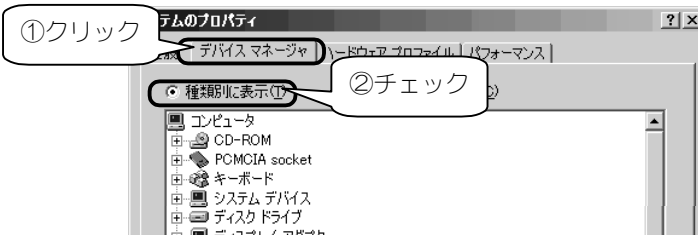
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。

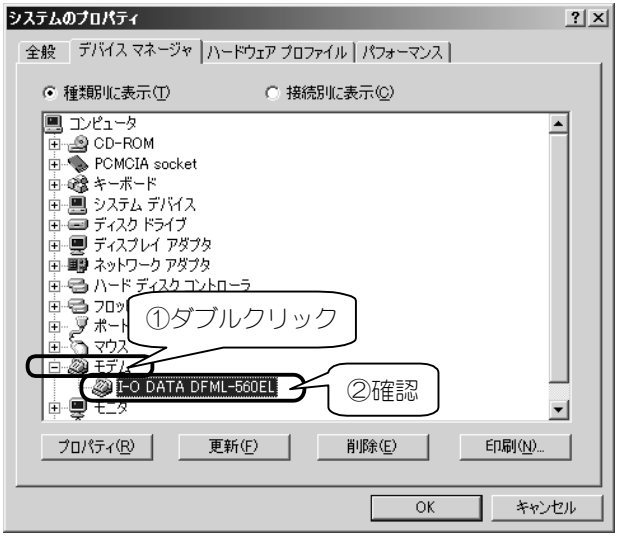
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、
[種類別に表示]をチェックします。



3 [モデム]をダブルクリックして、
[I-O DATA DFML-560EL]が表示されていることを確認します。



「I-O DATA DFML-560EL」が表示されない、
あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の
226 ページ
をご参照ください。

4 [OK]ボタンをクリックして、
[システムのプロパティ]画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ 3

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（端末速度）を設定します。
設定後、「*正常に本製品とパソコンが通信できるか*」も確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。

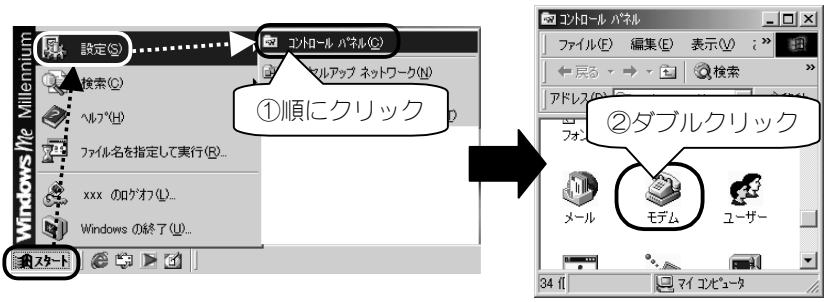
注意

本製品のパフォーマンスを引き出すため、端末速度を 57600bps 以上に設定してください。（次ページ*3*の手順参照）
57600bps 以上の速度に設定できないパソコンでご使用になる場合は、弊社製高速 RS-232C 拡張ボード「RSA-PCI2 シリーズ」などの高速シリアル通信ボードをご利用いただくことをおすすめします。（その際の設定速度は 230400bps に設定してください。）

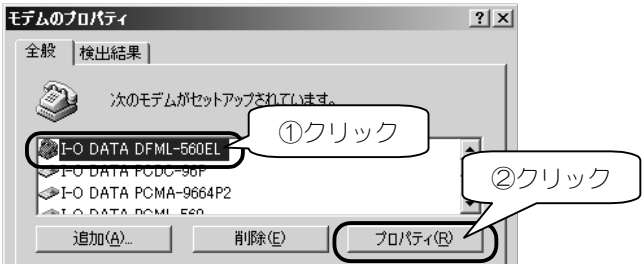
参考

使用している RS-232C ケーブルの長さやその周囲の環境、COM ポートの状態などによって、設定した速度では通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちます。あらかじめご了承ください。

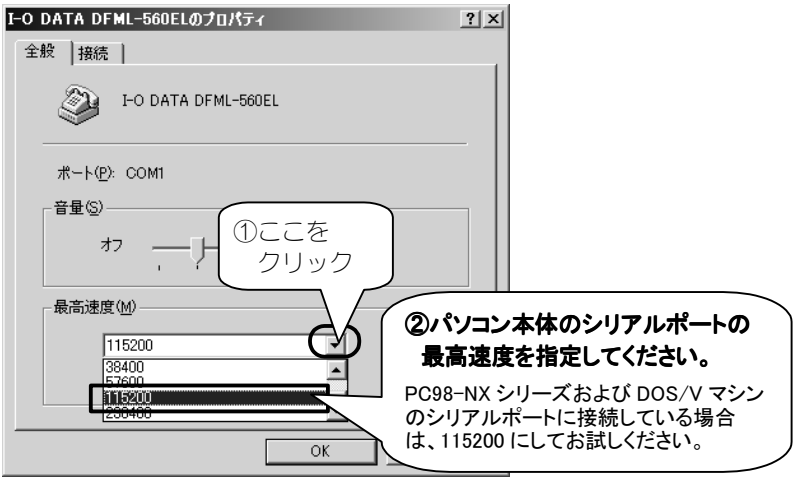
1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開き、［モデム］アイコンをダブルクリックします。



2 [I-O DATA DFML-560EL]をクリック後、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



3 端末速度を設定します。[全般]タブで、[最高速度]を本製品を取り付けたポートが対応している最高速度に設定します。
本製品を取り付けたポートの最高速度については、パソコンの取扱説明書でご確認ください。



注意

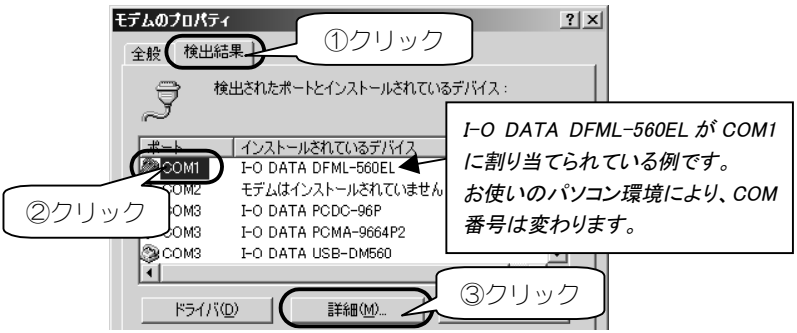
「230400」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せますが、230400bps で利用できるのは、230400bps に対応しているシリアルポートをお使いの場合のみです。最高速度がわからない場合は、115200bps 以下にしてください。

参考

1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

4 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[検出結果]タブをクリックし、
[I-O DATA DFML-560EL]が表示されているポート(画面例では[COM1]の部分)をクリック後、[詳細]ボタンをクリックします。
※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



5 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT‥‥]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 227 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[識別子]に「ハードウェア ID がありません」と表示される場合がありますが、[コマンド][応答]が前ページのように表示されていれば動作上問題ありません。
・ポートの情報には最高速度として「115K ボー」と表示されていますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、97 ページの 3 の手順で指定した速度です。
・[応答]に[ERROR]と表示される場合がありますが、動作上問題ありません。

6 [OK]ボタンをクリックし、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

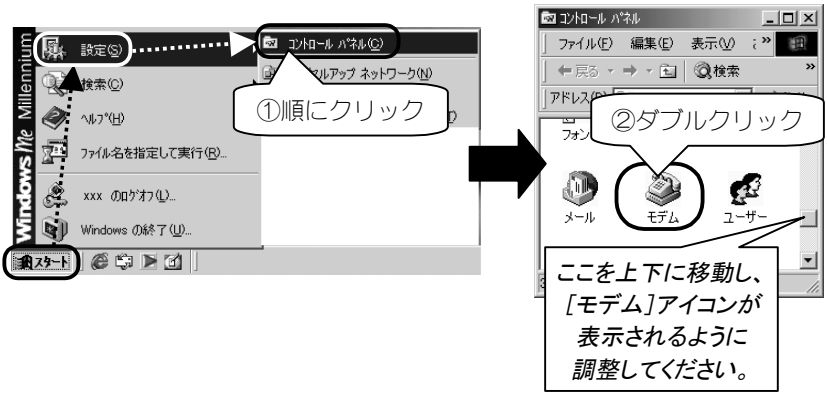
ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

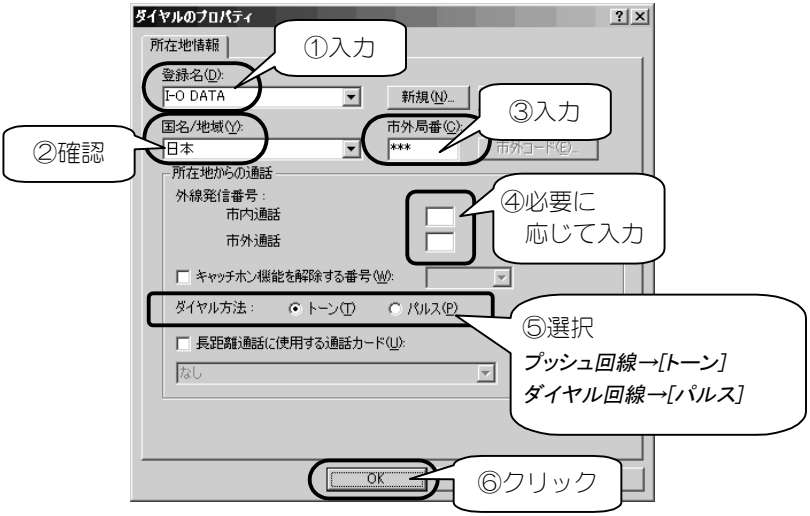


2 [I-O DATA DFML-560EL]をクリック後、
[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除する番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→次ページへお進みください。
通信中の状況や接続時間、また、実際の通信速度を確認したい	→【回線モニターを使う】(117 ページ)へ

インターネット接続編

Windows Me で インターネットに接続するには

【準備編】（【ステップ１】（89 ページ）～【ステップ４】（100 ページ））の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· ***103ページ***

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- パソコン、本製品、電話回線の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア ····· ***104ページ***

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップアダプタ
- TCP/IP
- ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

インターネットを楽しもう ····· ***113ページ***

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップネットワーク］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1:プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（次ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】113 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2:パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック:電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

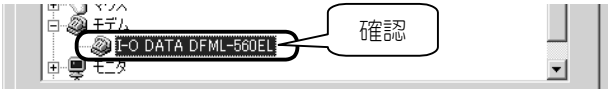
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(89 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(94 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面での以下の表示の確認
・[モデム]の下の[I-O DATA DFML-560EL]の表示



②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

次ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、次ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows Me には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

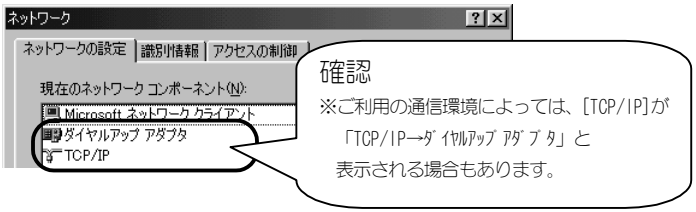
次ページ以降で[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の確認、および、[ダイヤルアップアダプタ]を設定します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]を確認する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP](または[TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ])があることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない場合は…

【困ったときには】の234ページをご参照ください。

[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップネットワーク]を設定する必要があります。

はじめて［ダイヤルアップネットワーク］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、次ページ【新しい設定を作るとき】を行います。



参考1

ダイヤルアップとは

→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者(プロバイダ)に接続すること。



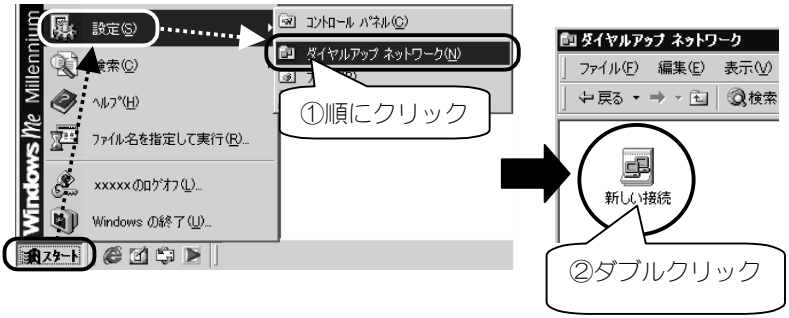
参考2

すでにダイヤルアップ接続(インターネット)の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は110ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

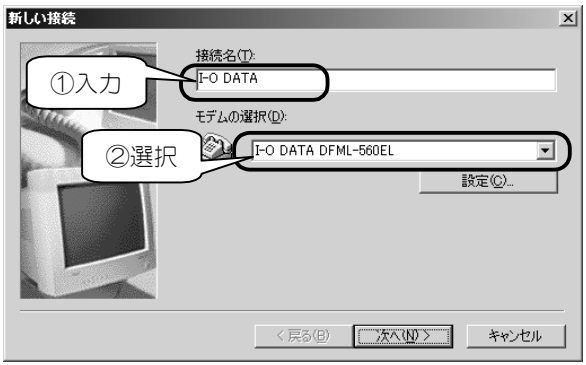
2 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックし、[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない場合は…

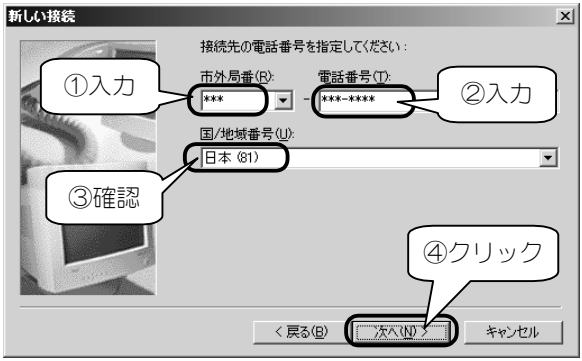
【困ったときには】の 232 ページをご参照ください。

3 [接続名]欄に任意の接続名（お好きな名前）を入力して、[モデムの選択]欄から本製品を選び、[次へ]ボタンをクリックします。



4　以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

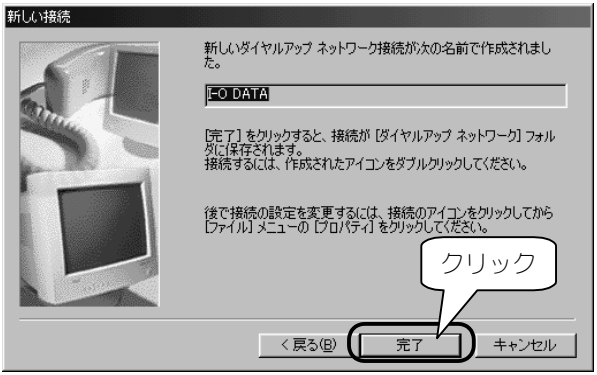
市外局番	接続先（プロバイダ）の市外局番
電話番号	接続先（プロバイダ）の電話番号
国/地域番号	[日本]



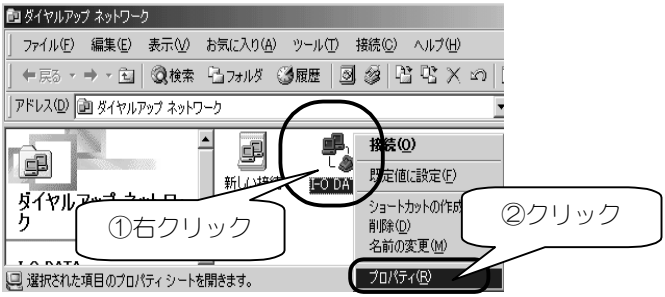
注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

5　[完了]ボタンをクリックします。



6 新しく作成したアイコンが[ダイヤルアップネットワーク]画面に**3**の手順で指定した接続名が表示されます。
新しく作成したアイコンを右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



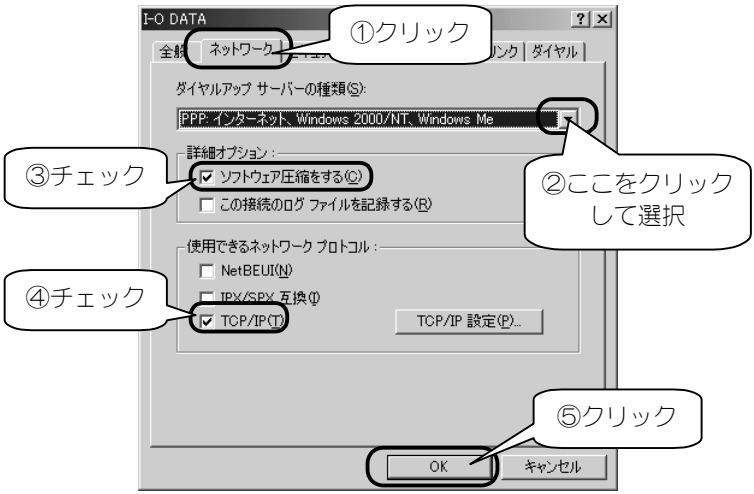
7 [ネットワーク]タブをクリックし、
以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
　[PPP:インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me]を選択

・[詳細オプション]で[ソフトウェア圧縮をする]をチェック

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみをチェック

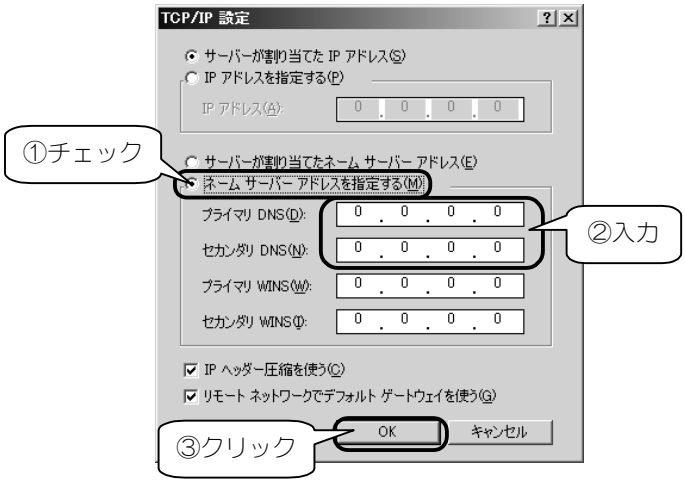
プロバイダからネームサーバーアドレス（プライマリDNS、セカンダリDNS）を案内されている場合は次ページを参照してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**7**の手順の画面で、[TCP/IP 設定]ボタンをクリックします。

2 以下を設定します。
①[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックします。
②[プライマリ DNS]欄にプライマリ DNS を、[セカンダリ DNS]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

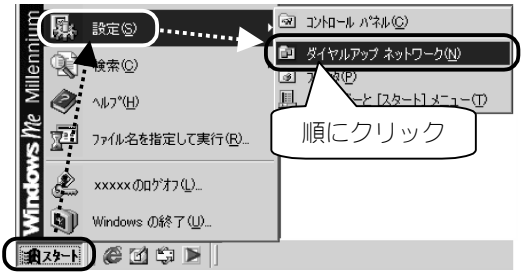
・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

以上でダイヤルアップネットワークの設定は終了です。
【インターネットを楽しもう】(113 ページ)を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

設定を変更するとき

本製品を使用する前に、すでに他のモデムなどを使用していて、［ダイヤルアップネットワーク］の設定を終了している場合には、以下の手順のように、［接続方法］を本製品に切り替えるだけでも設定できます。

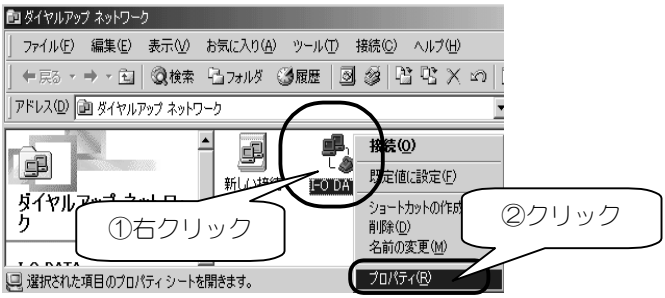
1 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックします。



［ダイヤルアップネットワーク］が表示されない場合は…

【困ったときには】の 232 ページをご参照ください。

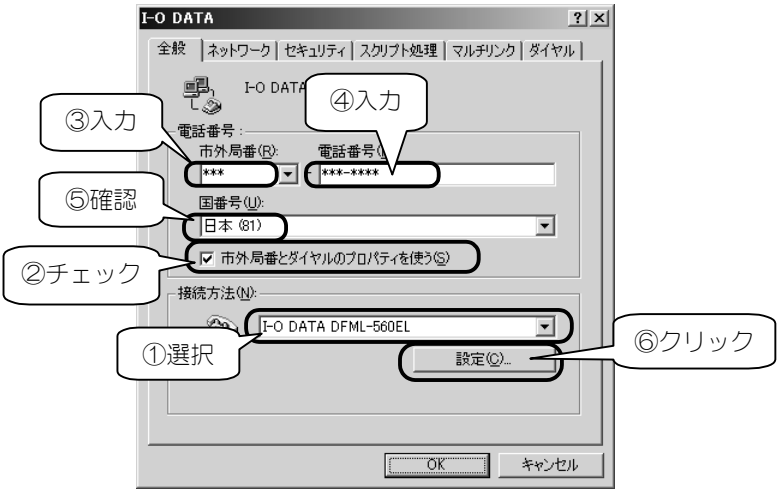
2 変更したい接続のアイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。



3 以下を設定します。

①[接続方法]に本製品を選びます。
②[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
⑤[国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

設定後、[設定]ボタンをクリックします。



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

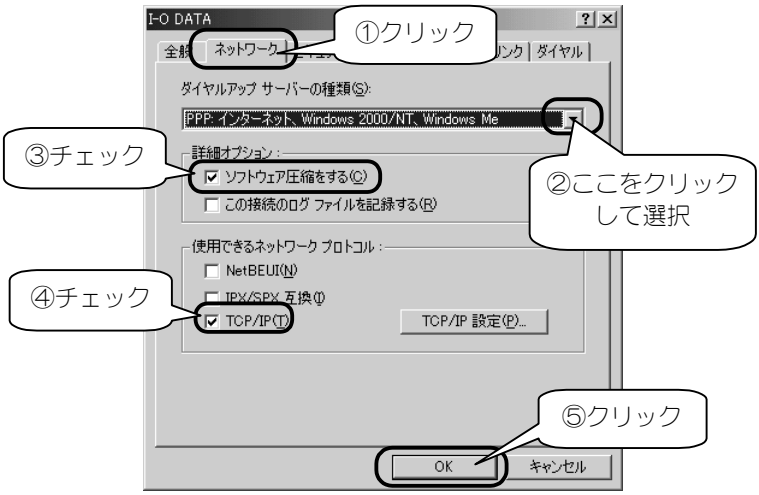
4 [ネットワーク]タブをクリックし、
以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
[PPP:インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me]を選択

・[詳細オプション]で[ソフトウェア圧縮をする]をチェック

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は130ページを参照し、設定してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックして、画面を閉じます。

これでダイヤルアップネットワークの設定は終了です。
【インターネットを楽しもう】(次ページ)を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ
3

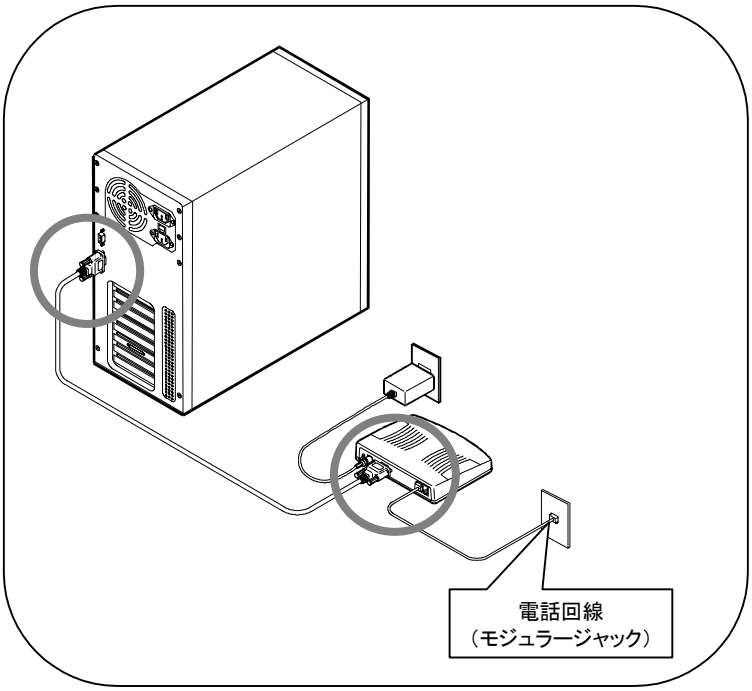
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、毎回以下を確認してからインターネットに接続してください。



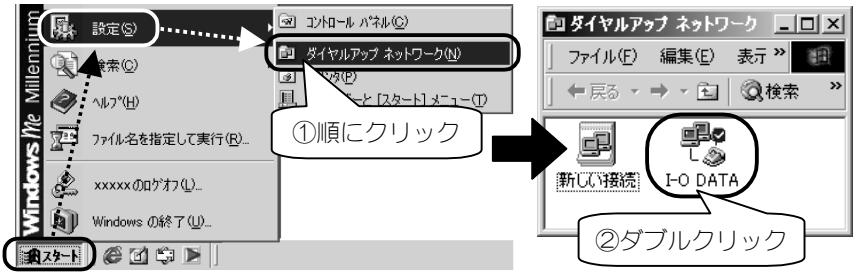
チェック：電話回線と本製品、本製品とパソコンの接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品、また本製品とパソコンが接続されていることを確認してください。

インターネットに接続する

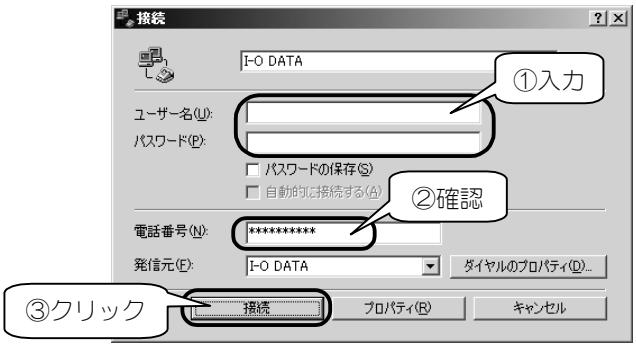
インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(105 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックして、作成した接続のアイコンをダブルクリックします。



2 プロバイダから案内されたユーザー名とパスワードを入力して、[電話番号]欄に発信する番号が表示されていることを確認後、[接続]ボタンをクリックします。

[接続]ボタンをクリックすると、プロバイダと通信を開始します。



注意

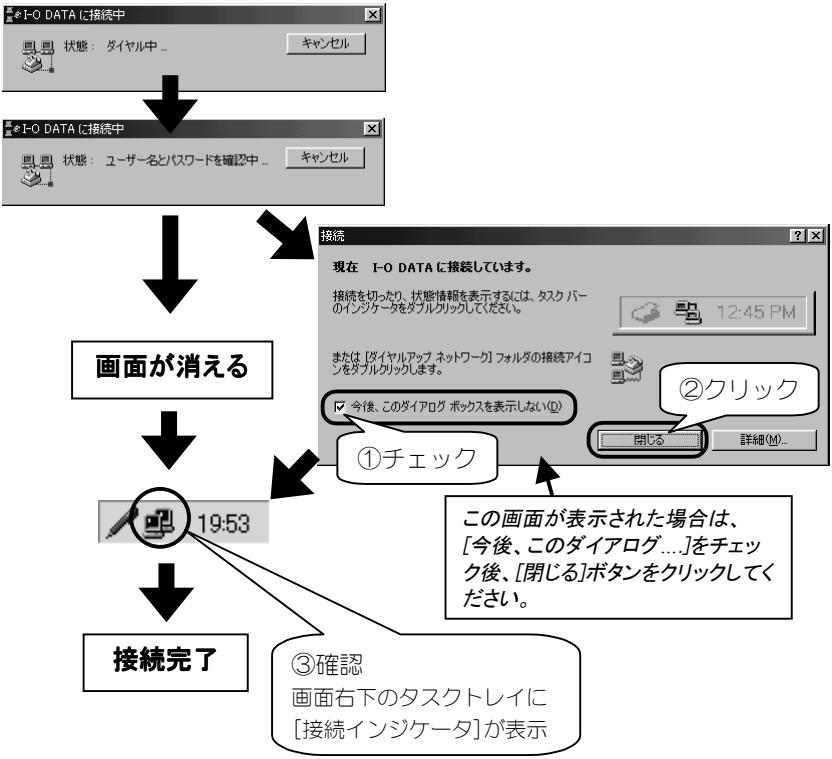
・[電話番号]欄の「********」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**

・パスワードは「***」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

注意

・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されますので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。
・他のモデムも併用している場合、[発信元]欄に本製品用の接続名（101 ページ3 の手順の①で入力した[登録名]）を選択してください。

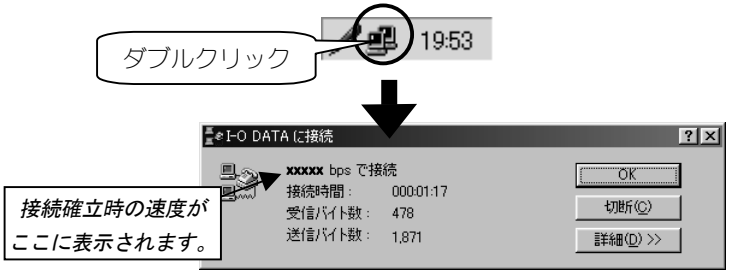
3 しばらくして「. . . に接続中」という画面が消えたら、完了です。
パソコン画面右下のタスクトレイに[接続インジケータ]アイコンが表示されます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…
【困ったときには】の 229 ページをご参照ください。

[接続インジケータ]アイコンが表示されない場合は…
【困ったときには】の 231 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[接続インジケータ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[接続インジケータ]が表示されています。

インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

**ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。**

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[接続インジケータ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。
これで電話回線が切断され、画面右下の[接続インジケータ]が消えます。



以上で、インターネットは終了できました。

添付ソフト編

回線モニターを使う

(Windows Me/98/95 のみ対応)

添付の「サポートソフト」CD-ROM 内にある**「回線モニター」**(*Windows Me/98/95 のみ対応*)を使用すれば、通信中の状況や接続時間や実際の通信速度などを確認できます。

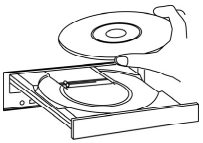
必要に応じて、インストールしてご使用ください。

注意

FAX 通信時は通信中の状況や通信速度などを正しくモニタリングできません。
インターネット接続時やパソコン通信時にご利用ください。

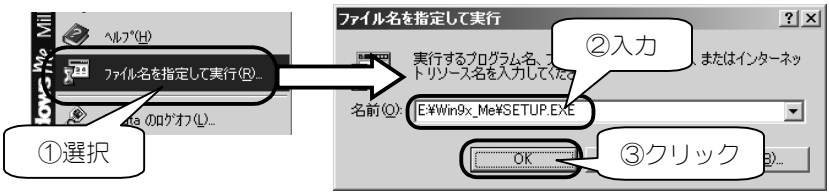
「回線モニター」をインストールする

1 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



「サポートソフト」CD-ROM

2 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選び、[名前]欄に
E:¥Win9x_Me¥SETUP.EXE
(CD-ROM ドライブが E ドライブの場合)
と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

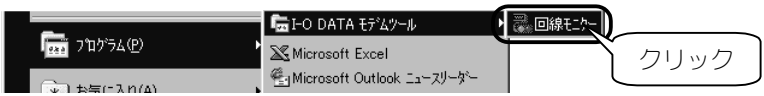


3 画面の指示にしたがって、インストールを進めてください。
途中で[スタートアップへの登録]画面が表示されますが、回線モニターを手動で起動したいときはチェックを外してください。

「回線モニター」の起動と終了

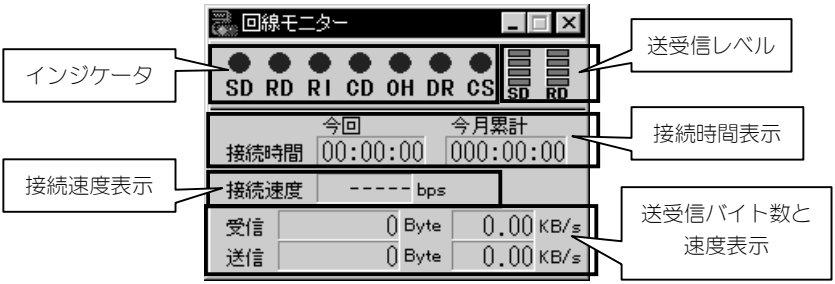
回線モニターは通信を開始する前に起動してください。通信開始後に起動しても、モニタリング（通信状態の監視や時間表示など）しません。

1 [スタート]→[プログラム]→[I-O DATAモデムツール]→[回線モニター]を開きます。



2 回線モニターの画面が表示されます。
この時点ではまだ通信が開始されていないので、今月累計接続時間だけが表示されています。

3 ダイヤルアップネットワークを起動するなど、通信を開始するとモニタリングを始めます。



表示内容		意味
インジケータ	SD	データ送信中に赤ランプ点灯
	RD	データ受信中に赤ランプ点灯
	RI	RING 検出したら赤ランプ点灯
	CD	キャリア検出したら赤ランプ点灯
	OH	オフフック中に赤ランプ点灯
	DR	データセットレディ状態で赤ランプ点灯
	CS	データ送信許可状態で赤ランプ点灯
送受信レベル	SD	送信レベルを緑色のランプで表示
	RD	受信レベルを緑色のランプで表示

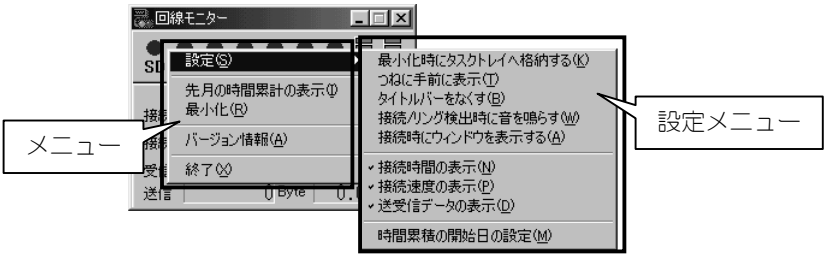
表示内容		意味
接続時間	今回	今回の接続時間(時:分:秒)
	今月 累計	今月になってからの接続時間合計(時:分:秒) ただし、回線モニター起動中の接続時間のみ集計
接続速度		現在、接続している通信速度 パソコンと本製品間の通信速度が表示されます。
受信	Byte	今回の接続の受信データ量(バイト)
	KB/s	現在の受信データの転送速度(K バイト/秒)
送信	Byte	今回の接続の送信データ量(バイト)
	KB/s	現在の送信データの転送速度(K バイト/秒)

4 回線モニターを終了するには、回線モニター画面の[終了]アイコンをクリックします。



「回線モニター」の各種設定

回線モニター画面で右クリックすると、設定などのメニューが表示されます。



■メニュー■

メニュー項目	意味
設定	各種設定メニューを表示します。
先月の時間累計の表示	先月の接続時間合計を表示します (ただし、回線モニター起動時の接続時間のみ対象)。
最小化	回線モニターを最小化します。
バージョン情報	バージョン情報を表示します。
終了	回線モニターを終了します。

■設定メニュー■

メニュー項目の先頭に「レ」印が表示されている状態がONです。

メニュー項目	ONのときの機能
最小化時にタスクトレイへ格納する	最小化したときに、タスクバーでなく、タスクトレイにアイコンを表示します。 《タスクトレイ設定で最小化した時》  このアイコンをダブルクリックすると 回線モニター画面が再表示されます。
	初期値:OFF(=タスクバー設定)
つねに手前に表示	常に他のウィンドウより手前に回線モニター画面を表示します。
	初期値:OFF(=手前表示しない)
タイトルバーをなくす	タイトルバーを非表示にします。
	初期値:OFF(=タイトルバーあり)

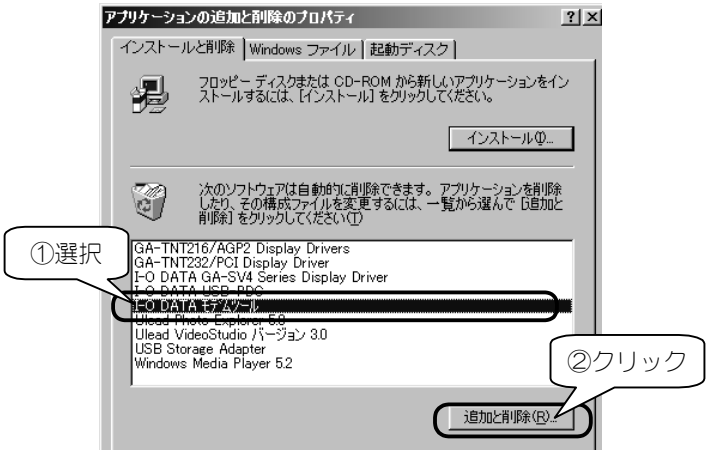
メニュー項目	ONのときの機能
接続/リング検出時に音を鳴らす	接続時(CD/OH 検出時)とリング検出時(RI 検出時)に音を鳴らします。
	初期値:OFF(=音を鳴らさない)
接続時にウィンドウを表示する	接続時(CD/OH 検出時)に本ウィンドウを表示します。
	初期値:OFF(=表示しない)
接続時間の表示	接続時間(今回、今月累計)を表示します。
	初期値:ON(=表示する)
接続速度の表示	接続速度を表示します。
	初期値:ON(=表示する)
送受信データの表示	送受信データ量と転送速度を表示します。
	初期値:ON(=表示する)
時間累積の開始日の設定	接続時間の累計を行うときに、月の開始日を設定します。電話料金計算などの締日と合わせることができます。
	初期値:1日

「回線モニター」を削除する場合

インストールした回線モニターを削除したい場合は、回線モニターが起動されていないことを確認してから、以下の作業を行ってください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、
[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。

2 [I-O DATA モデムツール]を選択し、
[追加と削除]ボタンをクリックします。



3 後は、画面の指示にしたがって、処理を進めてください。

これで「回線モニター」の削除は完了です。

6 Windows 98/95 で使うには

～ 準備編 ～
本製品で通信できるまでの流れ ……124ページ
ステップ1 インストールする ……125ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？138ページ
ステップ3 端末速度を設定する……139ページ
ステップ4 発信情報を設定する……143ページ

～ インターネット接続編 ～
Windows 98/95 でインターネットに
接続するには ‥145ページ
ステップ1 接続前の準備……146ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥147ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう ‥‥157ページ

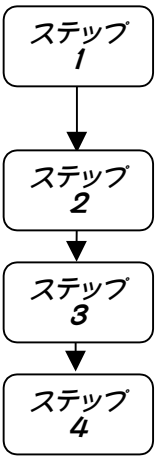
～ 添付ソフト編 ～
「回線モニター」を使う……160ページ
（Windows Me/98/95 のみ対応）

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする ····· *125ページ*
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。
ここではその手順について説明します。

インストールは正常ですか？ ····· *138ページ*
【ステップ2】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

端末速度を設定する ····· *139ページ*
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

発信情報を設定する ····· *143ページ*
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を接続したら、次に「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

ただし、Windows 98 と Windows 95 ではインストール手順が異なります。
以下の該当個所を参照してください。

Windows 98 の場合
→【Windows 98 で「サポートソフト」をインストールする】(本ページ)～
Windows 95 の場合
→【Windows 95 で「サポートソフト」をインストールする】(130 ページ)～

Windows 98 で「サポートソフト」をインストールする

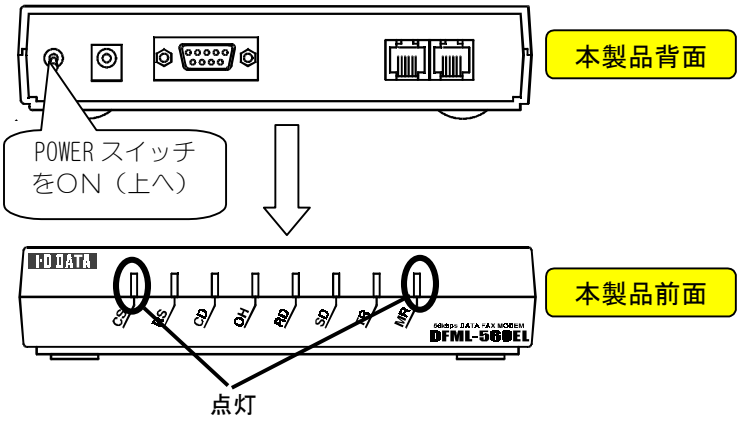
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Windows 98を起動します。

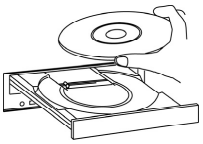
4 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

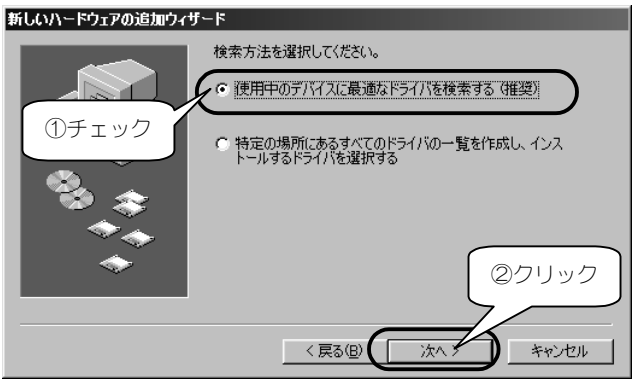
【困ったときには】の
225 ページ
をご参照ください。

5 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



「サポートソフト」CD-ROM

6 「使用中のデバイスに最適な…」をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。



7 [検索場所の指定]のみをチェックし、
[参照]ボタンをクリックします。

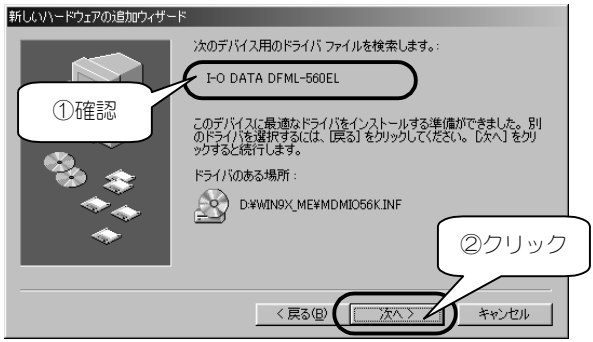


8 CD-ROMドライブ（[DFML-560EL]）の[Win9x_Me]フォルダを指定して、[OK]ボタンをクリック後、[次へ]ボタンをクリックします。



9 [I-O DATA DFML-560EL]が表示されていることを確認後、[次へ]ボタンをクリックします。

コピーを開始します。



「指定の場所には*お使いのハードウェアに関する情報が見つかりません*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 226 ページをご参照ください。

「*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 226 ページをご参照ください。

10 [完了]ボタンをクリックします。



11 しばらくして表示画面が消えたら「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

以上で Windows 98 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
138 ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

Windows 95 で「サポートソフト」をインストールする

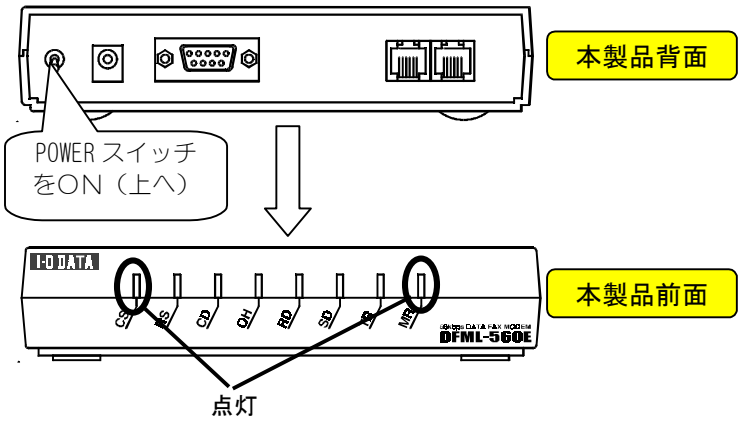
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

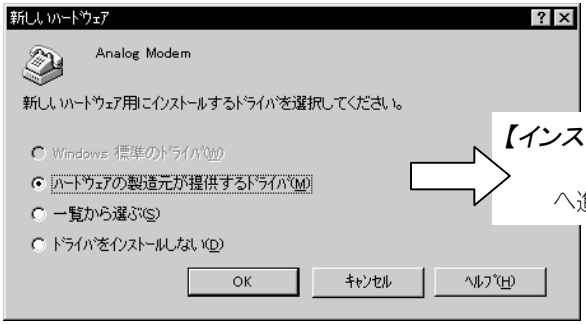
この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Windows 95を起動します。

4 しばらくするとパソコンのディスプレイ上に以下のいずれかの画面が表示されます。
ここで表示される画面によりインストール手順が異なります。
画面をご確認ください。



【*インストール方法−その1−*】
（次ページ）
へ進んでください。



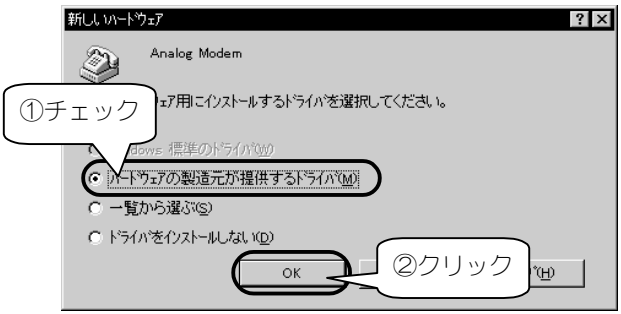
【*インストール方法−その2−*】
（135 ページ）
へ進んでください。

これらのインストール画面が
表示されない場合は…

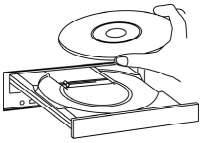
【困ったときには】の
225 ページ
をご参照ください。

インストール方法　ーその1ー

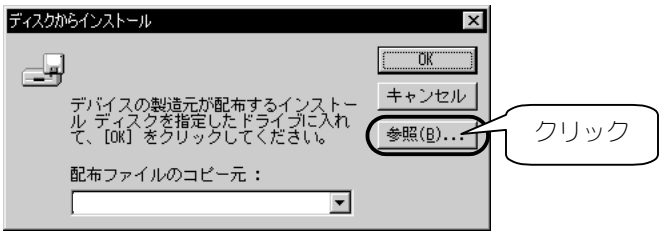
1 「ハードウェアの製造元が…」をチェックして、
[OK]ボタンをクリックします。



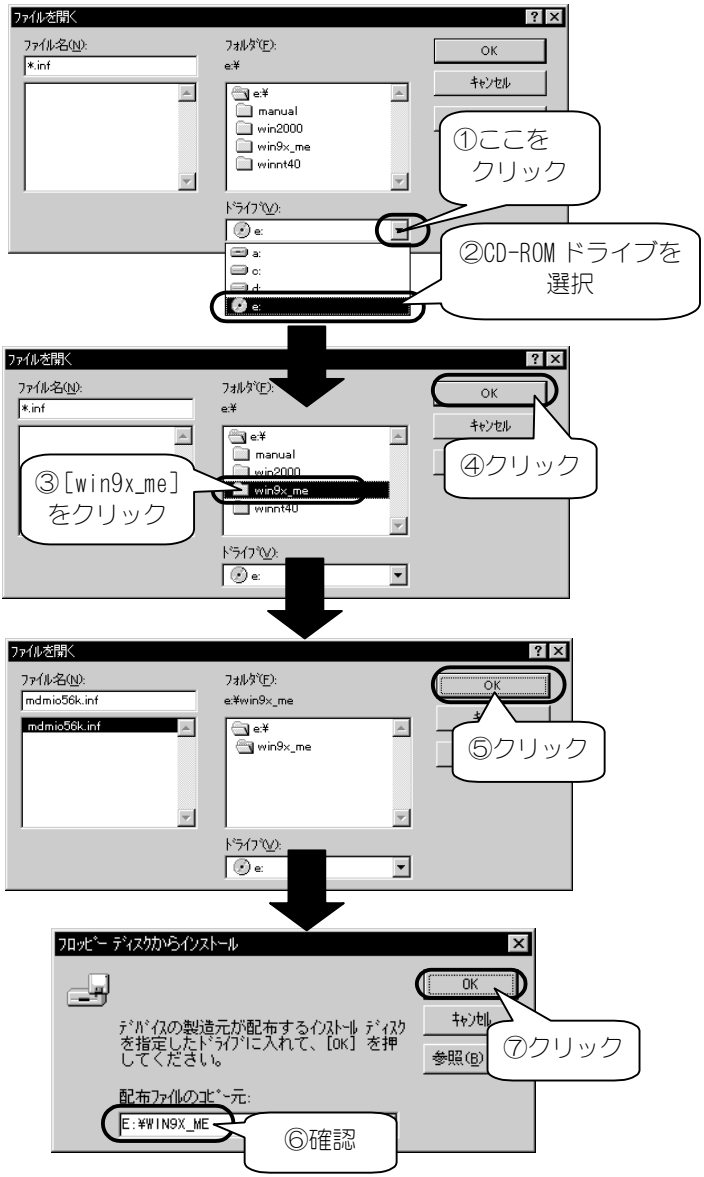
2 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。


「サポートソフト」CD-ROM

3 [参照]ボタンをクリックします。

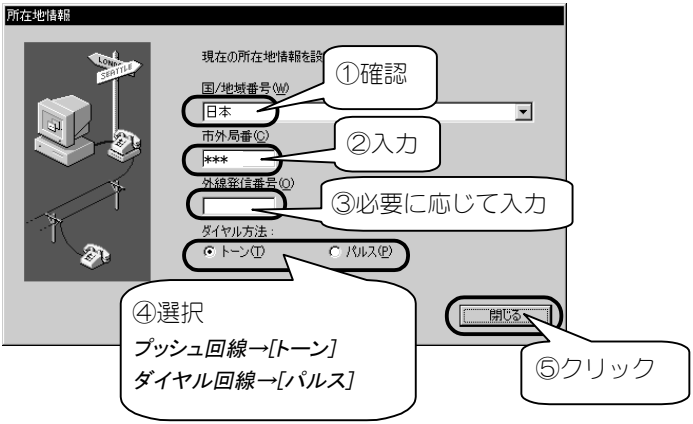


4 CD-ROMドライブ (ここではe:)内の[win9x_me]を指定します。
指定後、[OK]ボタンをクリックします。
コピーを開始します。



5 以下の画面が表示される場合があります。
必要な情報を設定し、[閉じる]ボタンをクリックします。
表示されない場合は、**6** の手順へお進みください。

No.	項目	設定内容
①	国／地域番号	「日本」であることを確認
②	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
③	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力
④	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



6 「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

7 パソコンを一度再起動してください。

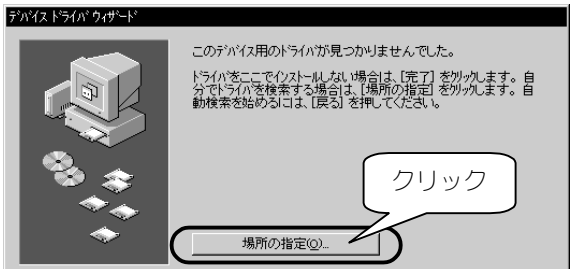
以上で Windows 95 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
138 ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

インストール方法　－その2－

1 [次へ]ボタンをクリックします。



2 以下の画面が表示されます。
[場所の指定]ボタンをクリックします。



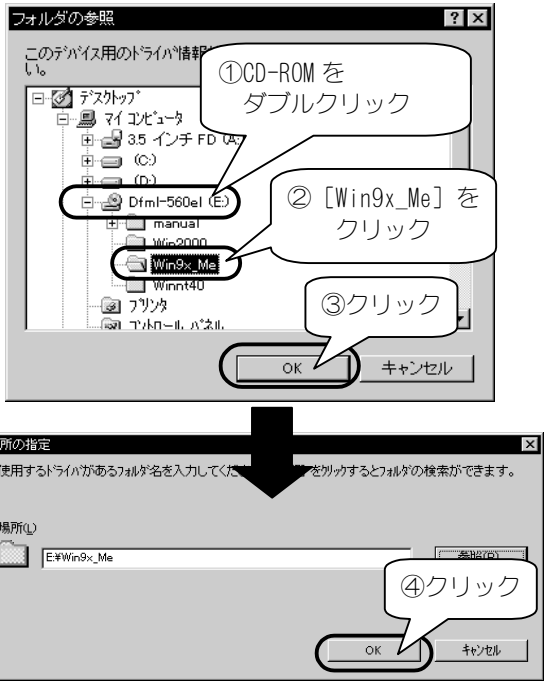
3 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。


「サポートソフト」CD-ROM

4 [参照]ボタンをクリックします。



5 CD-ROMドライブ (Dfml-560el)内の[Win9x_Me]を指定します。
指定後、[OK]ボタンをクリックします。
コピーを開始します。

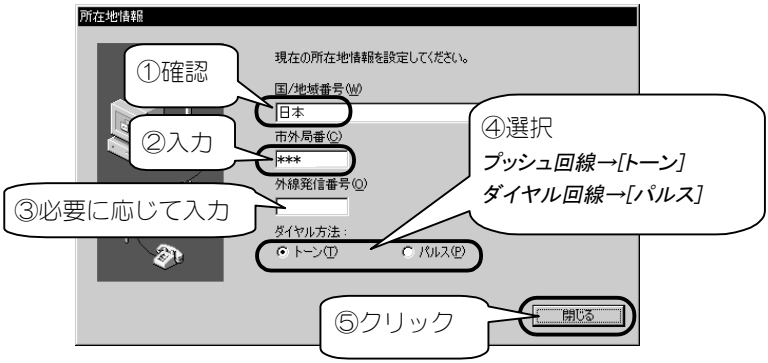


6 [I-O DATA DFML-560EL]と表示されることを確認して、
[完了]ボタンをクリックします。



7 以下の画面が表示される場合があります。
必要な情報を設定し、[閉じる]ボタンをクリックします。
表示されない場合は、***8*** の手順へお進みください。

No.	項目	設定内容
①	国／地域番号	「日本」であることを確認
②	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
③	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力
④	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



8 「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

9 パソコンを一度再起動してください。

以上で Windows 95 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

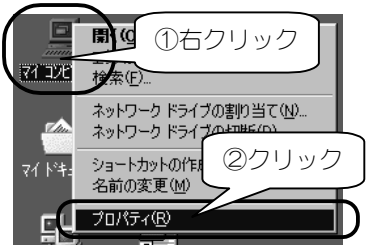
ステップ 2

準備編

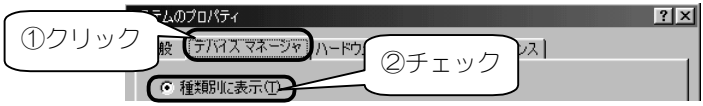
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。ここでは、「*パソコンが本製品を正しく認識しているか*」を Windows 上で確認します。

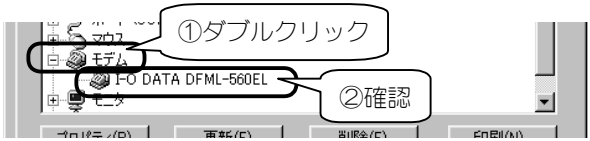
1 [マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックします。



3 [モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA DFML-560EL]が表示されていること*(Windows 95では[Analog Modem]と表示される場合があります)*を確認します。



「I-O DATA DFML-560EL」(または[Analog Modem])が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の 226 ページをご参照ください。

4 [OK]ボタンをクリックして、[システムのプロパティ]画面を閉じます。

これで正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ 3

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（端末速度）を設定します。
設定後、「*正常に本製品とパソコンが通信できるか*」も確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。

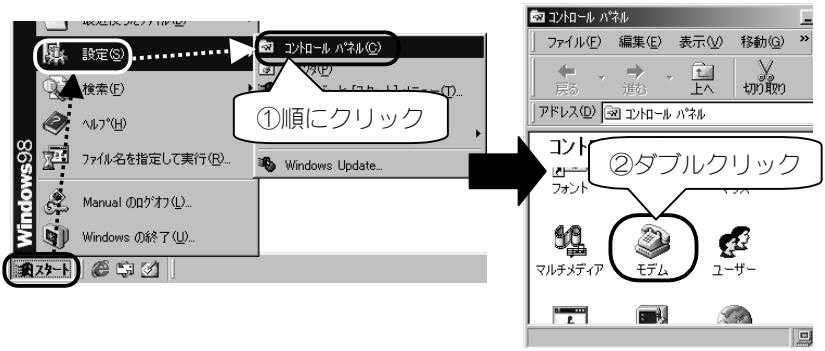
注意

本製品のパフォーマンスを引き出すため、端末速度を 57600bps 以上に設定してください。（141 ページ4の手順参照）
57600bps 以上の速度に設定できないパソコンでご使用になる場合は、弊社製高速 RS-232C 拡張ボード「RSA-PCI2 シリーズ」などの高速シリアル通信ボードをご利用いただくことをおすすめします。（その際の設定速度は 230400bps に設定してください。）

参考

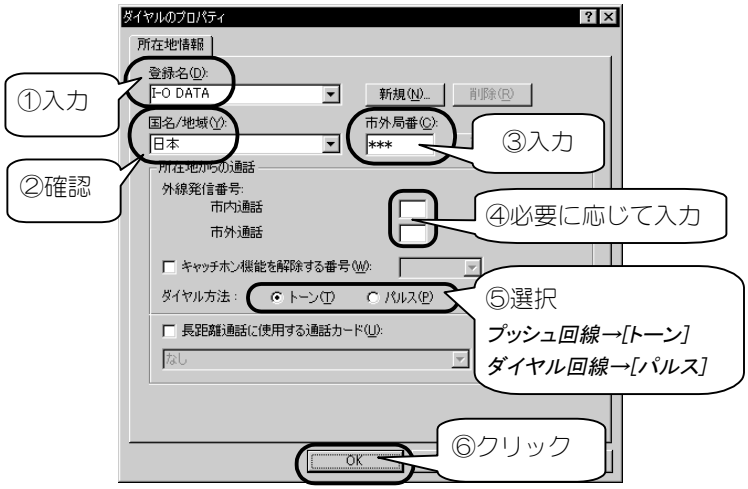
使用している RS-232C ケーブルの長さやその周囲の環境、COM ポートの状態などによって、設定した速度では通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちます。あらかじめご了承ください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開き、［モデム］アイコンをダブルクリックします。



2 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の登録名（お好きな名前）を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除する番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択

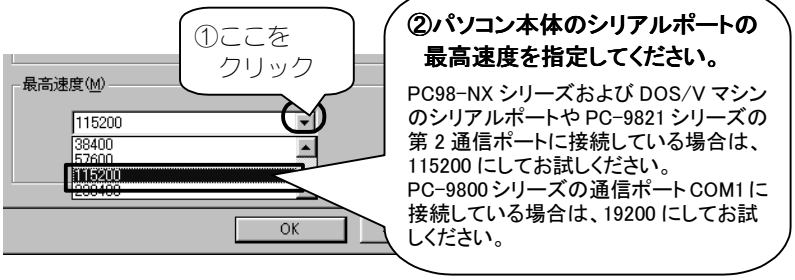


3 [I-O DATA DFML-560EL]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。



4 端末速度を設定します。[全般]タブで、[最高速度]を本製品を取り付けたポートが対応している最高速度に設定します。

本製品を取り付けたポートの最高速度については、パソコンの取扱説明書でご確認ください。



注意

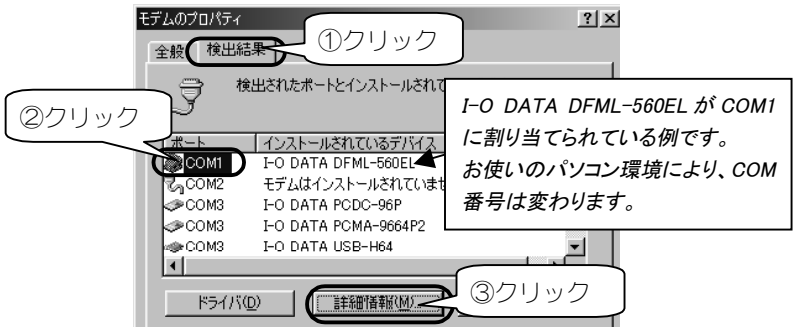
「230400」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せますが、230400bps で利用できるのは、230400bps に対応しているシリアルポートをお使いの場合のみです。最高速度がわからない場合は、115200bps 以下にしてください。

参考

1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

5 次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。[検出結果]タブをクリックします。[I-O DATA DFML-560EL]が表示されているポート(下記例では[COM1]部分)をクリックし、[詳細情報]ボタンをクリックします。

※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



6 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 227 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[識別子]に「ハードウェア ID がありません」と表示される場合がありますが、[コマンド][応答]が上記のように表示されていれば動作上問題ありません。
・ポートの情報には最高速度として「115 K ボー」と表示されていますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、前ページ4 の手順で指定した速度です。
・[応答]に[ERROR]と表示されていますが、動作上問題ありません。

7 [OK]（または[閉じる]）ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

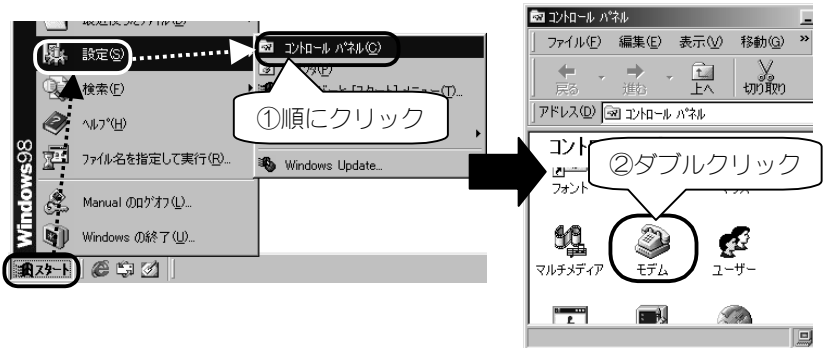
準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。





2 [I-O DATA DFML-560EL]をクリック後、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の登録名（お好きな名前）を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除する番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK]（または[閉じる]）ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→次ページへお進みください。
通信中の状況や接続時間、また、実際の通信速度を確認したい	→【回線モニターを使う】 （117 ページ）へ

インターネット接続編

Windows 98/95 で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ１】(125 ページ)～【ステップ４】(143 ページ)) の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· *146ページ*

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- パソコン、本製品、電話回線の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア ····· *147ページ*

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップアダプタ
- TCP/IP
- ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

インターネットを楽しもう ····· *157ページ*

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップネットワーク］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（次ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】157 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

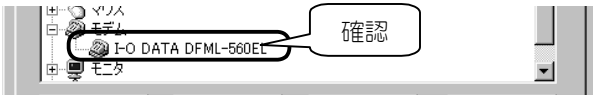
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(125 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(138 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面での以下の表示の確認
・[モデム]の下の[I-O DATA DFML-560EL]の表示
※Windows 95 の場合は[Analog Modem]と表示される場合もあります。



②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

次ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、次ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows 98 や Windows 95 OSR2には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

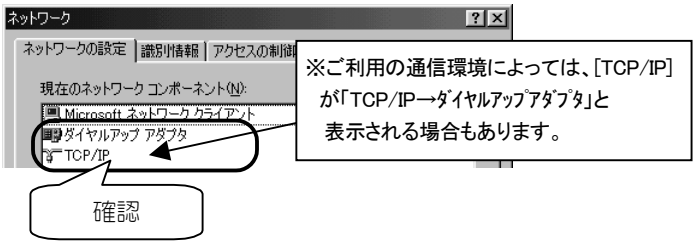
ここでは、次ページ以降で[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の確認、および、[ダイヤルアップアダプタ]を設定します。
はじめてインターネット接続する場合や以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]を確認する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP](または[TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ])があることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 234 ページをご参照ください。

[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップネットワーク]を設定する必要があります。

はじめて［ダイヤルアップネットワーク］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、次ページ【新しい設定を作るとき】を行います。



参考 1

ダイヤルアップとは

→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者(プロバイダ)に接続すること。



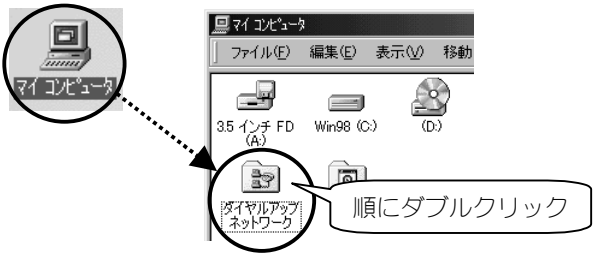
参考 2

すでにダイヤルアップ接続(インターネット)の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 154 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

2 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にダブルクリックします。



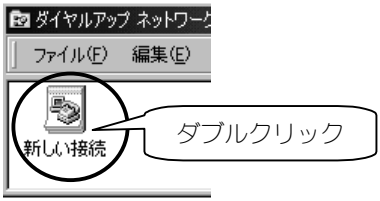
[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 232 ページをご参照ください。

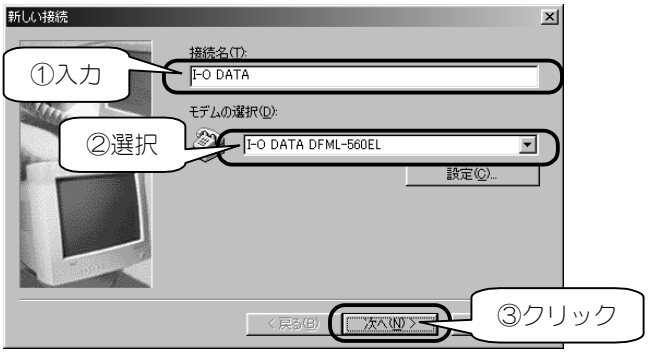
3 以下の画面が表示された場合は、[次へ]ボタンをクリックします。



4 以下の画面が表示された場合は、
[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。

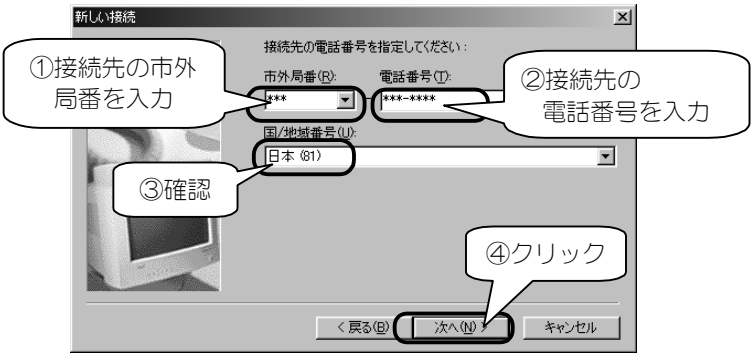


5 [接続名]欄に任意の接続名(お好きな名前)を入力し、
[モデムの選択]欄から[I-O DATA DFML-560EL]を選び、
[次へ]ボタンをクリックします。



6 以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

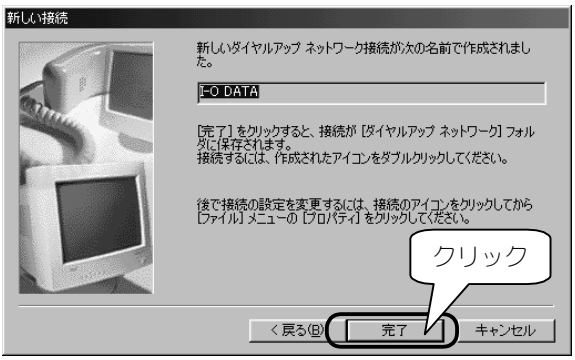
市外局番	接続先（プロバイダ）の市外局番
電話番号	接続先（プロバイダ）の電話番号
国/地域番号	[日本]



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

7 [完了]ボタンをクリックします。



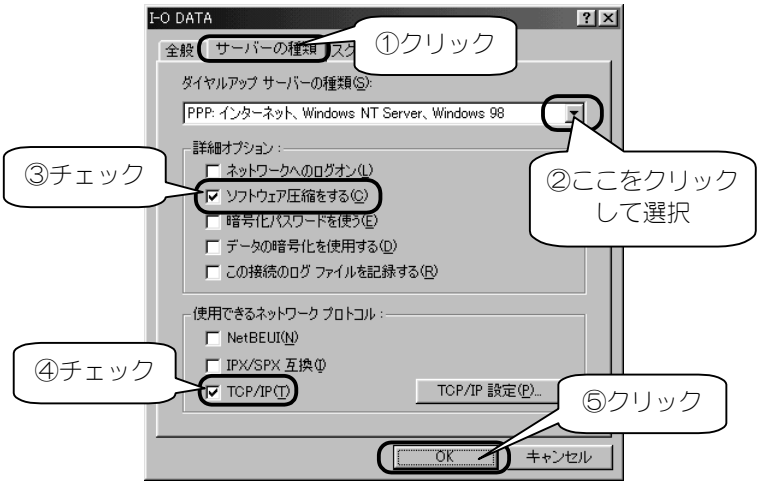
8 新しく作成したアイコンが[ダイヤルアップネットワーク]画面に**5** の手順で入力した[接続名]で表示されます。
新しく作成したアイコンを右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



9 [サーバーの種類]タブをクリックし、以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
　[PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98]を選択
・[詳細オプション]で[ソフトウェア圧縮をする]をチェック
・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。

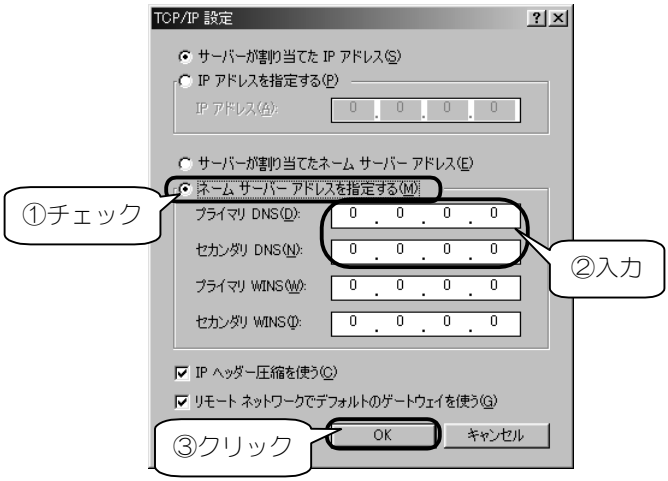


以上でダイヤルアップネットワークの設定は終了です。
【インターネットを楽しもう】(157 ページ)を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**9** の手順の画面で、[TCP/IP 設定]ボタンをクリックします。

2 以下を設定します。
①[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックします。
②[プライマリ DNS]欄にプライマリ DNS を、[セカンダリ DNS]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。

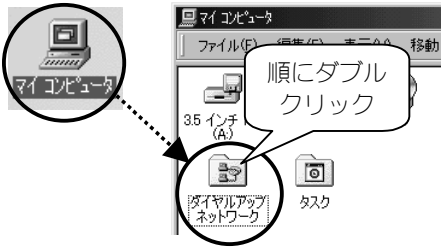


注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

設定を変更するとき

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]アイコンを順にダブルクリックします。



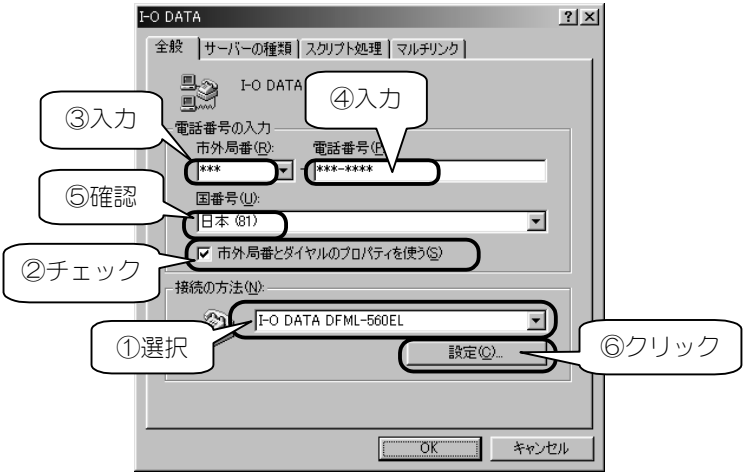
2 変更したい接続のアイコンを右クリックして、表示された[プロパティ]をクリックします。



3 以下を設定します。

①[接続の方法]に本製品を選びます。
②[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
⑤[国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

設定後、[設定]ボタンをクリックします。



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

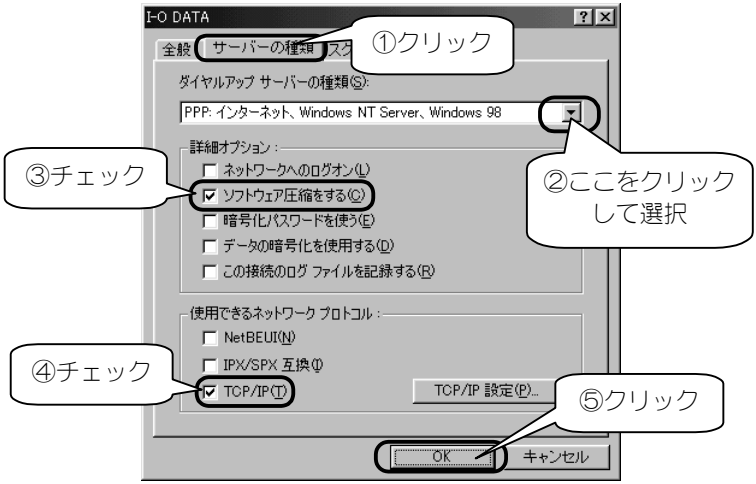
4 [サーバーの種類]タブをクリックし、
以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
[PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98]を選択

・[詳細オプション]で[ソフトウェア圧縮をする]をチェック

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は153ページを参照し、設定してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

これでダイヤルアップネットワークの設定は終了です。
【インターネットを楽しもう】(次ページ)を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 3

インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

注意

インターネットに接続する際は、毎回、電話回線（モジュラージャック）と本製品、また本製品とパソコンが接続されていることを確認してください。

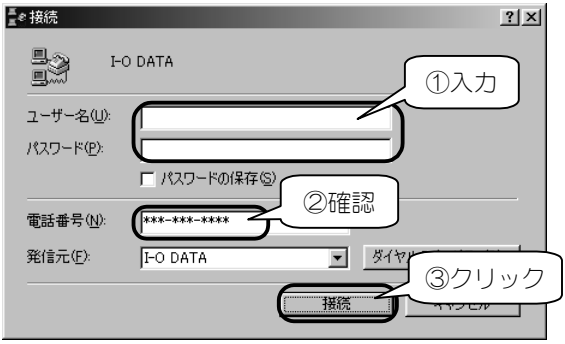
インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(148 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]→作成した接続のアイコンを順にダブルクリックします。



2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力して、[電話番号]欄に発信する番号が表示されていることを確認後、[接続]ボタンをクリックします。



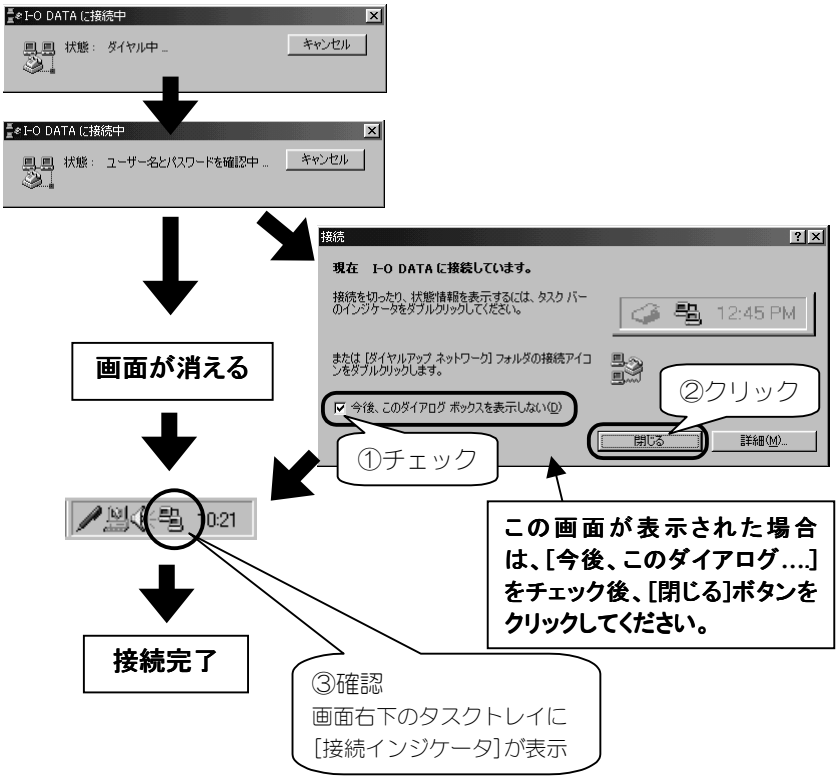
注意

・[電話番号]欄の「********」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**
・パスワードは「***」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

注意

・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されるので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。
・他のモデムも併用している場合、[発信元]欄に本製品用の接続名（144 ページの *3* の手順の①で入力した[登録名]）を選択してください。

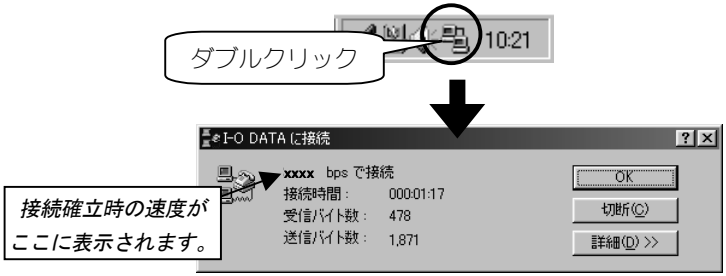
3 しばらくして「. . . に接続中」という画面が消えたら、完了です。
パソコン画面右下のタスクトレイに[接続インジケータ]アイコンが表示されます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…
【困ったときには】の 229 ページをご参照ください。

[接続インジケータ]アイコンが表示されない場合は…
【困ったときには】の 231 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[接続インジケータ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[接続インジケータ]が表示されています。

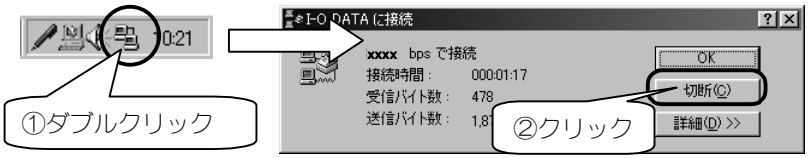
インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

**ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。**

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[接続インジケータ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。
これで電話回線が切断され、画面右下の[接続インジケータ]が消えます。



以上で、インターネットは終了できました。

添付ソフト編

回線モニターを使う

（Windows Me/98/95 のみ対応）

添付の「サポートソフト」CD-ROM 内にある**「回線モニター」***(Windows Me/98/95 のみ対応)*を使用すれば、通信中の状況や接続時間や実際の通信速度などを確認できます。

詳細については、【5 Windows Me で使うには】での【回線モニターを使う】（117 ページ）を参照し、インストールしてご使用ください。

注意

FAX 通信時は通信中の状況や通信速度などを正しくモニタリングできません。
インターネット接続時やパソコン通信時にご利用ください。

7 Windows NT 4.0 で使うには

～ *準備編* ～

本製品で通信できるまでの流れ ……162ページ
ステップ1 インストールする ……163ページ
ステップ2 通信するための設定 ……168ページ

～ *インターネット接続編* ～

Windows NT 4.0 でインターネットに
接続するには ‥171ページ
ステップ1 接続前の準備……172ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥173ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう‥‥182ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。

以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ 1

インストールする ····· 163ページ

本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。
ここではその手順について説明します。

ステップ 2

通信するための設定 ····· 168ページ

パソコンで通信するために必要な設定について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を接続したら、次に「サポートソフト」CD-ROM ディスクのインストールを行います。次ページ以降の手順でインストールしてください。

注意

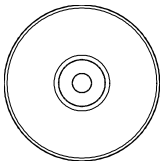
本製品を使用する以前に他のモデムを使用していて、そのモデムが使用していた COM ポートと同一の COM ポートで本製品を使用する場合は、以前のモデムのドライバを以下の手順で削除してください。削除後、パソコンを再起動しなおしてから本製品のサポートソフトをインストールしてください。

《削除方法》

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[モデム]を開き、[モデムのプロパティ]画面の[情報]タブで以前に使用していたモデムを選択後、[削除]ボタンをクリックしてください。

用意するもの

・添付の「サポートソフト」CD-ROM



Windows NT 4.0 で「サポートソフト」をインストールする

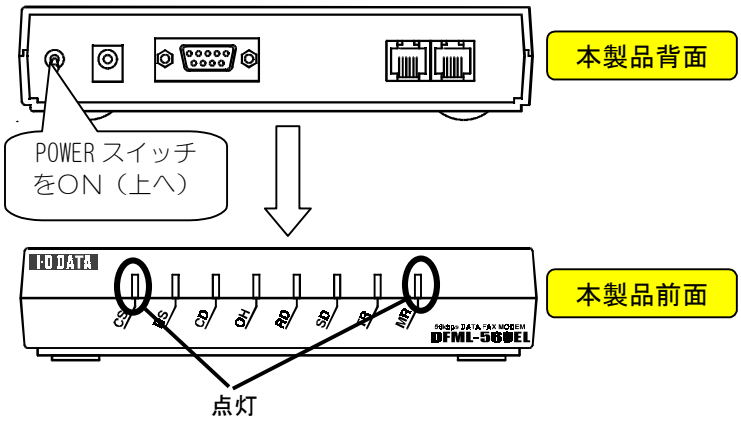
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

この後、本製品の電源を入れますが、サポートソフトをインストールする際、また、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



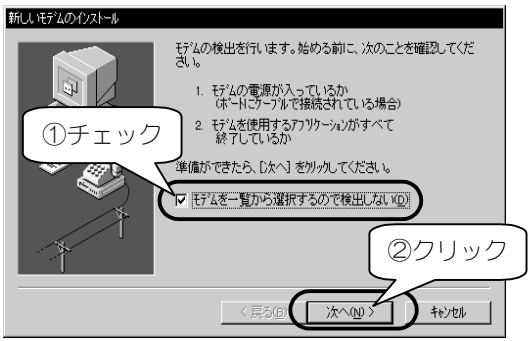
3 パソコンの電源を入れ、Windows NT 4.0を起動します。

4 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

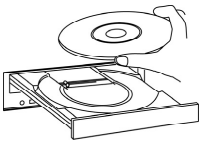


5 [モデムを一覧から…]をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。

※すでに他のモデムがインストールされている場合は、[追加]ボタンをクリックすれば以下の画面が表示されます。

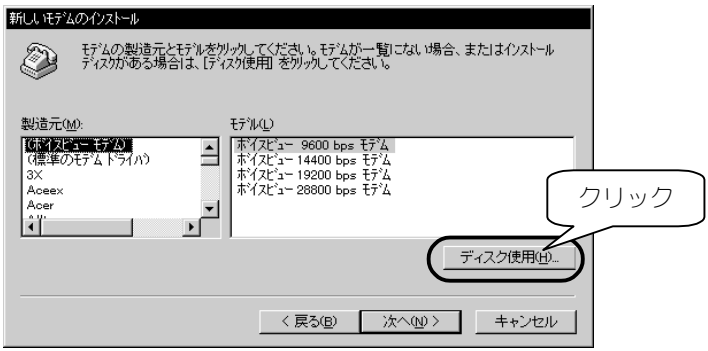


6 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



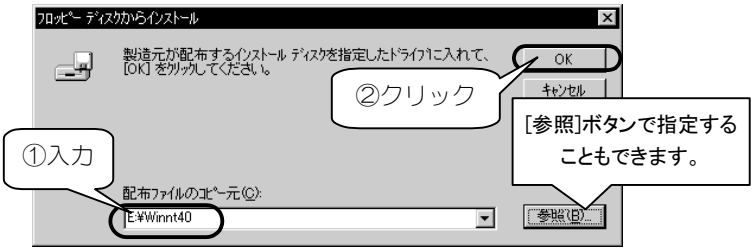
「サポートソフト」CD-ROM

7 [ディスク使用]ボタンをクリックします。



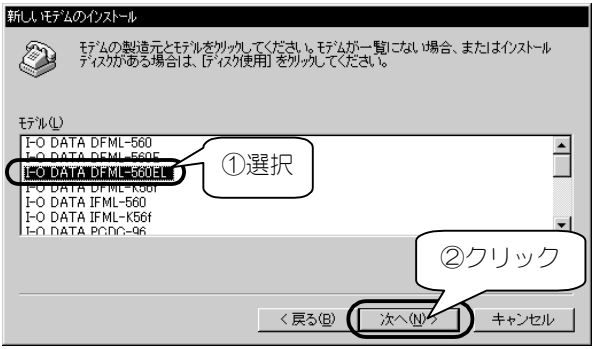
8 以下を入力して[OK]ボタンをクリックします。

E:¥Winnt40　　（CD-ROMドライブがEドライブの場合）



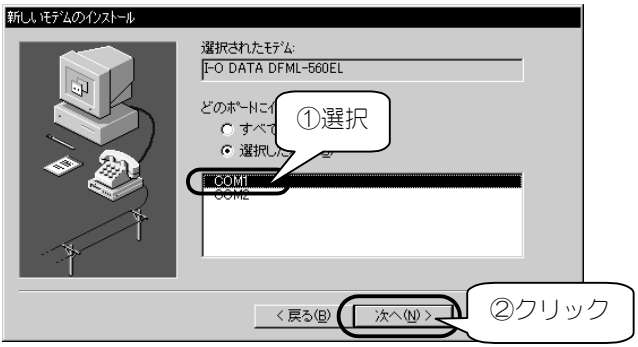
（CD-ROMドライブがEドライブの場合の例）

9 [I-O DATA DFML-560EL]を選択して、
[次へ]ボタンをクリックします。



10 本製品を接続しているパソコンのCOM番号を選択して、
[次へ]ボタンをクリックします。

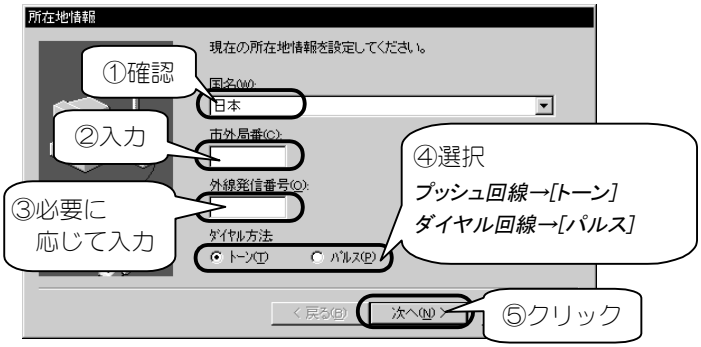
※パソコンのCOM番号についてはパソコンの取扱説明書を参照してください。



11

以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、
[次へ]ボタンをクリックします。

No	項目	設定内容
①	国名	[日本]であることを確認
②	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
③	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力
④	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



12

[完了]ボタンをクリックします。

13

[閉じる]ボタンをクリックして、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

14

パソコンを一度再起動してください。

以上でインストールは終了です。
次に通信の設定を行います。
次ページ【通信するための設定】へお進みください。

ステップ 2

準備編

通信するための設定

インターネットをはじめ通信ソフトを利用するには、パソコンに通信の設定をしておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。

注意

本製品のパフォーマンスを引き出すため、端末速度を 57600bps 以上に設定してください。（次ページ3の手順参照）
57600bps 以上の速度に設定できないパソコンでご使用になる場合は、弊社製高速 RS-232C 拡張ボード「RSA-PCI2 シリーズ」などの高速シリアル通信ボードをご利用いただくことをおすすめします。（その際の設定速度は 230400bps に設定してください。）

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。



2 [I-O DATA DFML-560EL]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。



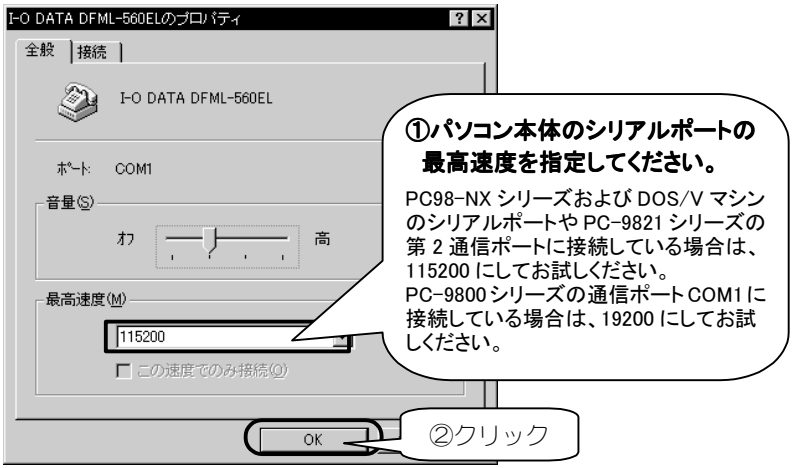
「I-O DATA DFML-560EL」が表示されない場合は…

【困ったときには】の 227 ページをご参照ください。

3 端末速度を設定します。

[全般]タブで、[最高速度]を本製品を取り付けたポートが対応している最高速度に設定後、[OK]ボタンをクリックします。

本製品を取り付けたポートの最高速度については、パソコンの取扱説明書でご確認ください。



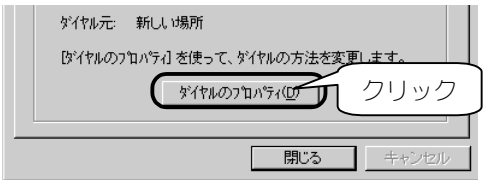
注意

「230400」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せますが、230400bps で利用できるのは、230400bps に対応しているシリアルポートをお使いの場合のみです。最高速度がわからない場合は、115200bps 以下にしてください。

参考

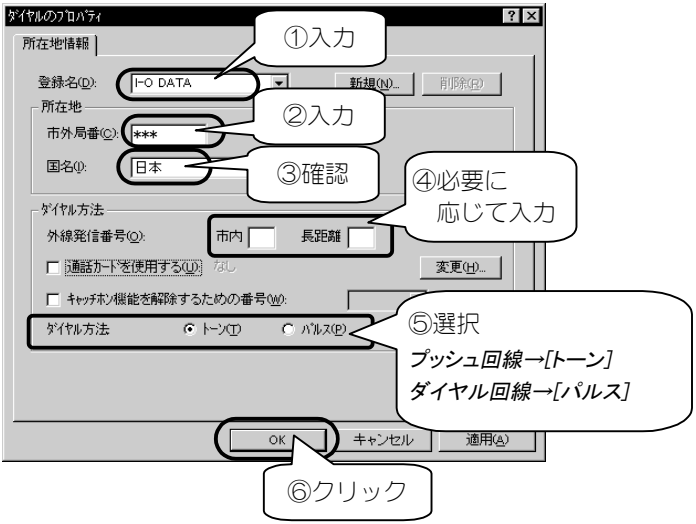
1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

4 [モデムのプロパティ]画面の[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



5　必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
③	国名	「日本」であることを確認
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



ここまでで、通信するための設定は終了です。

この後、インターネットをご利用になる場合は、次ページへお進みください。

インターネット接続編

Windows NT 4.0 で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(163 ページ)～【ステップ2】(168 ページ)) の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 172ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

・プロバイダとの契約
・パソコン、本製品、電話回線の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア····· 173ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

・ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

インターネットを楽しもう ····· 182ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップネットワーク］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネット接続を行うには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（次ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】182 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

本製品経由でインターネット接続を行うには、パソコンに以下のソフトウェアをインストールし、設定する必要があります。

・ダイヤルアップネットワーク

すでに、[ダイヤルアップネットワーク]をインストールしている場合は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(176 ページ)へお進みください。

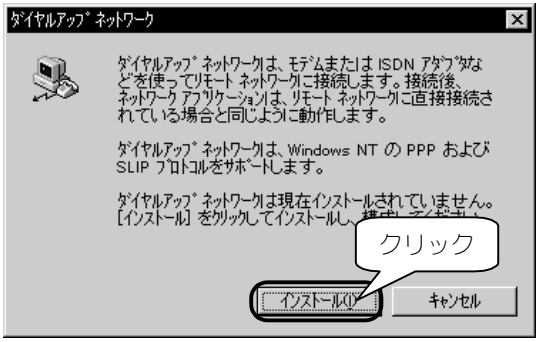
インストールしていない場合は、以下の手順でインストールしてください。

[ダイヤルアップネットワーク]をインストールする

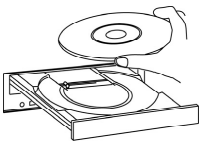
1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [インストール]ボタンをクリックします。



3 Windows NT 4.0 の CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。



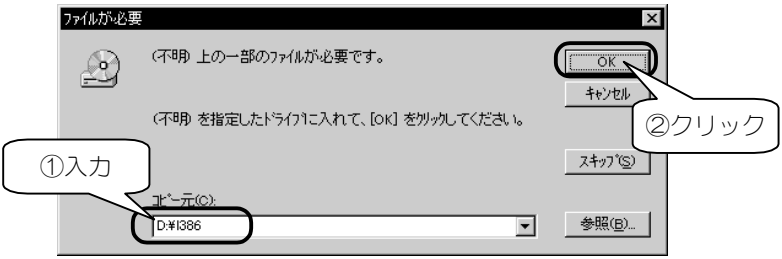
「Windows NT 4.0」CD-ROM

4 以下の画面が表示された場合は、
以下を入力して[OK]ボタンをクリックします。

「D:¥i386」　（DOS/V マシン、NEC PC98-NX シリーズ）

「D:¥Pc98」　（NEC PC-9821 シリーズ）

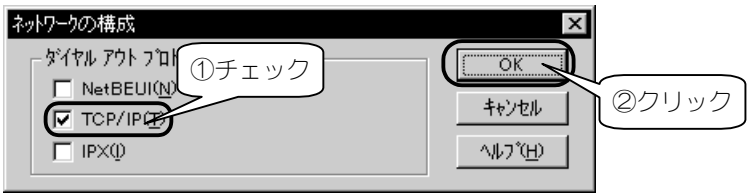
（ともにCD-ROMドライブがDドライブの場合の入力例です。）



5 [RASデバイスの追加]画面で、
本製品を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

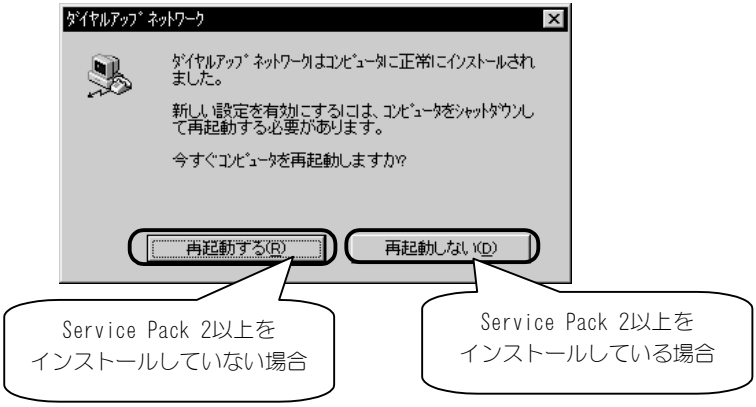
6 [リモートアクセスセットアップ]画面が表示されますので、
[ネットワーク]ボタンをクリックします。

7 [ネットワークの構成]画面が表示されますので、
[TCP/IP]のみをチェックして、[OK]ボタンをクリックします。



8 [リモートアクセスセットアップ]画面に戻りますので、
[続行]をクリックします。

9 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻ります。



- ***Service Pack 2以上をインストールしている場合***
  [再起動しない]をクリックしてService Packをもう一度インストールしてから再起動してください。
- ***Service Pack 2以上をインストールしていない場合***
  ［再起動する］をクリックしてパソコンを再起動してください。

以上で、インストールは終了です。
次に【[ダイヤルアップネットワーク]を設定する】(次ページ)へお進みください。

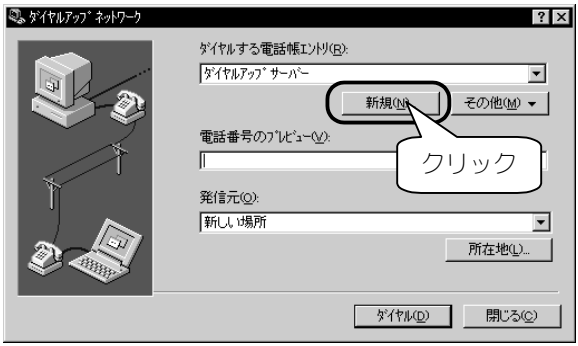
[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、さらに以下の［ダイヤルアップネットワーク］を設定する必要があります。

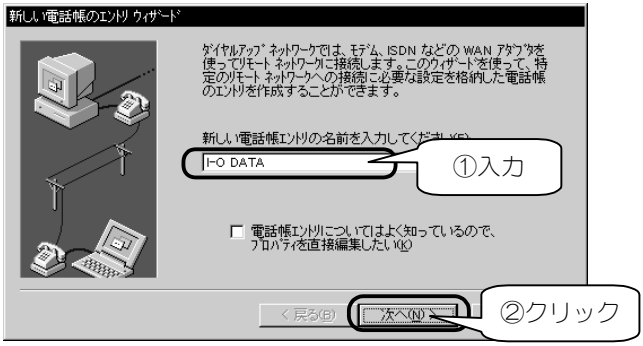
1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックし、以下の画面で[OK]ボタンをクリックします。



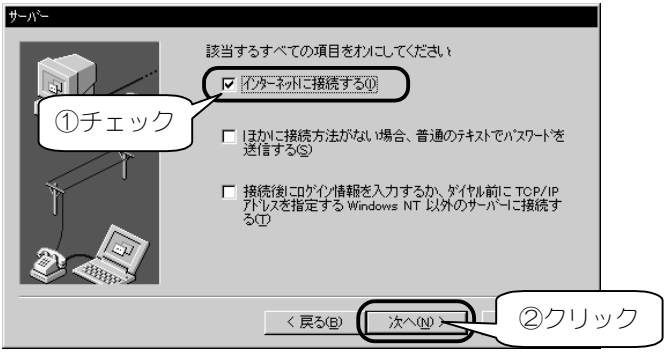
（既に「ダイヤルアップネットワーク」がインストールならびに設定されている場合は、以下の画面が表示されますので、[新規]ボタンをクリックしてください。）



2 電話帳に登録する名前（任意）を入力し、[次へ]をクリックします。



3 [インターネットに接続する]をチェックして、
[次へ]をクリックします。



4 [テレフォニーダイヤルのプロパティを使う]をチェックし、
以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

国/地域番号	[日本(81)]
市外局番	接続先(プロバイダ)の市外局番
電話番号	接続先(プロバイダ)の電話番号



注意

[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**

5 [完了]ボタンをクリックします。



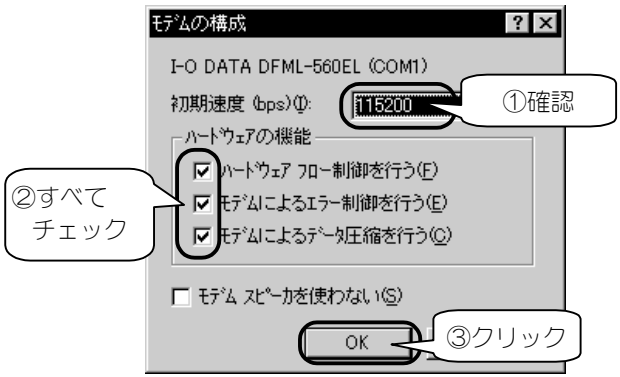
6 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻りますので、
[その他]をクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]をクリックします。



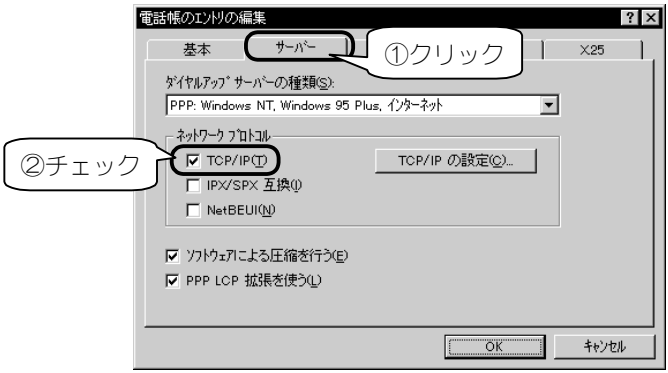
7 [基本]タブで、[ダイヤル方法]に
[I-O DATA DFML-560EL]を選択し、[構成]ボタンをクリックします。



8 [初期速度]が[115200]となっていることを確認後、[ハードウェアの機能]の項目をすべてチェックし、[OK]ボタンをクリックします。



9 [サーバー]タブをクリックし、[ネットワークプロトコル]の[TCP/IP]をチェックします。
プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は、次ページを参照し、設定してください。



●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

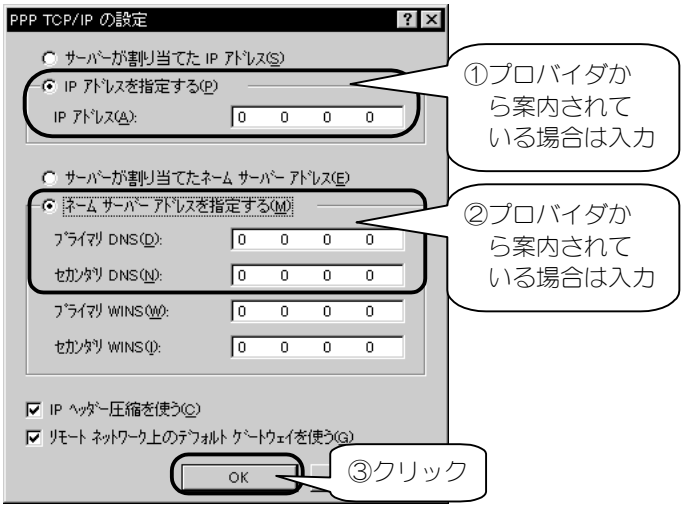
1 前ページ**9** の手順の画面で、[TCP/IP の設定]ボタンをクリックします。

2 以下を設定します。

①プロバイダからパソコンの IP アドレスを指定されている場合は、[IP アドレスを指定する]をチェックし、[IP アドレス]に IP アドレスを入力します。

②[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェック後、[プライマリ DNS]欄にプライマリ DNS を、[セカンダリ DNS]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。

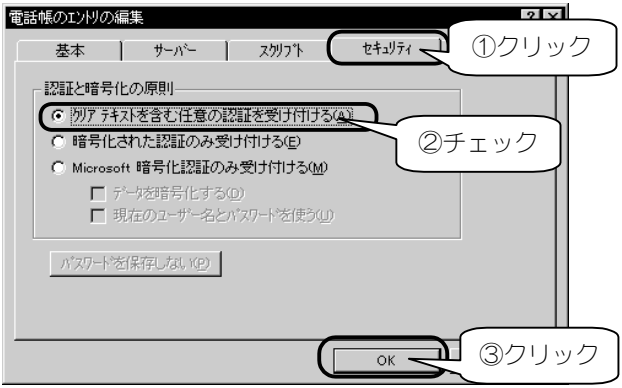
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

10 [電話帳のエントリの編集]画面に戻ったら、今度は[セキュリティ]タブをクリックし、[クリア テキストを含む任意の認証を受け付ける]をチェックします。
チェック後、[OK]ボタンをクリックします。



11 [閉じる]ボタンをクリックします。



これで[ダイヤルアップネットワーク]の設定は終了です。
次ページからの【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ
3

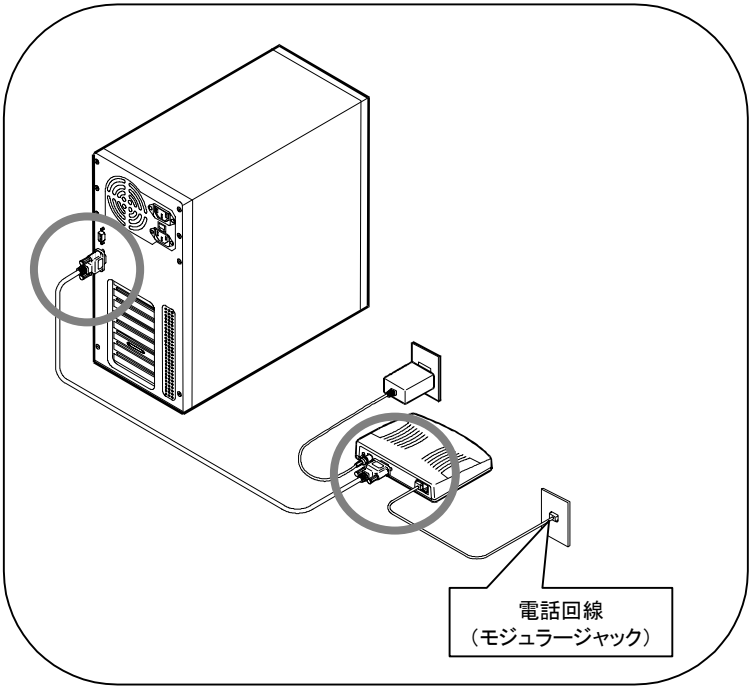
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、毎回以下を確認してから、インターネットに接続してください。



チェック：電話回線と本製品、本製品とパソコンの接続

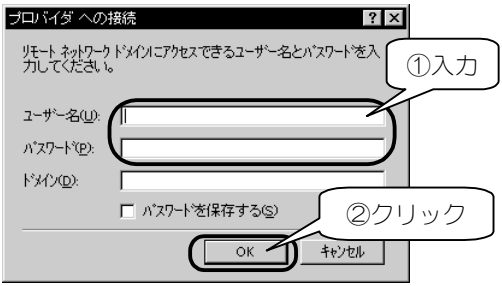
電話回線（モジュラージャック）と本製品、また本製品とパソコンが接続されていることを確認してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(176 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]を開き、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力して、[OK]ボタンをクリックします。



注意

・パスワードは[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。
・[パスワードを保存する]をチェックすると、次回からパスワードが[*]印で表示されるのでパスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。

3 インターネットに接続されます。
ディスプレイ画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンが追加され、ダブルクリックすると接続状況を確認できます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 229 ページをご参照ください。

4 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[ダイヤルアップネットワークモニタ]が表示されています。

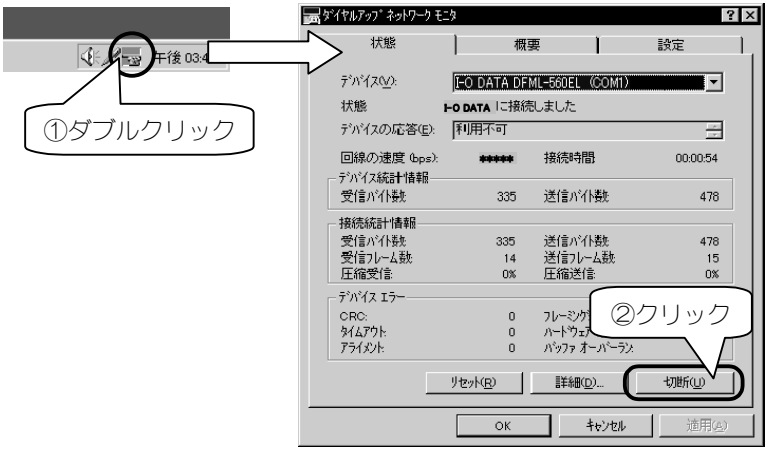
インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[ダイヤルアップネットワークモニタ]が消えることを必ず確認してくださ

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップネットワークモニタ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。



これで電話回線が切断され、画面右下の[ダイヤルアップネットワークモニタ]が消えます。
以上で、インターネットは終了できました。

8 Mac OS で使うには

～ 準備編 ～
本製品で通信できるまでの流れ ……186ページ
ステップ1 本製品の電源を入れる ……187ページ
ステップ2 設定ファイルをコピーする ‥188ページ

～ インターネット接続編 ～
Mac OS でインターネットに
接続するには ‥190ページ
ステップ1 接続前の準備……191ページ
ステップ2 接続するための手順 ……192ページ
［インターネット接続アシスタント］
での接続……194ページ
［PPP ダイヤラ］での接続……200ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、本製品をパソコンに接続し、「サポートソフト」CD-ROM 内の「モデム設定ファイル」（CCL ファイル）をパソコンにコピーする必要があります。
以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ 1

本製品の電源を入れる・・・・・・・・・・・・・・ *187ページ*
本製品の電源を入れます。

↓

ステップ 2

設定ファイルをコピーする・・・・・・・・・・・・ *188ページ*
本製品を使用するためのモデム設定ファイルをコピーする手順について説明します。

ステップ 1

準備編

本製品の電源を入れる

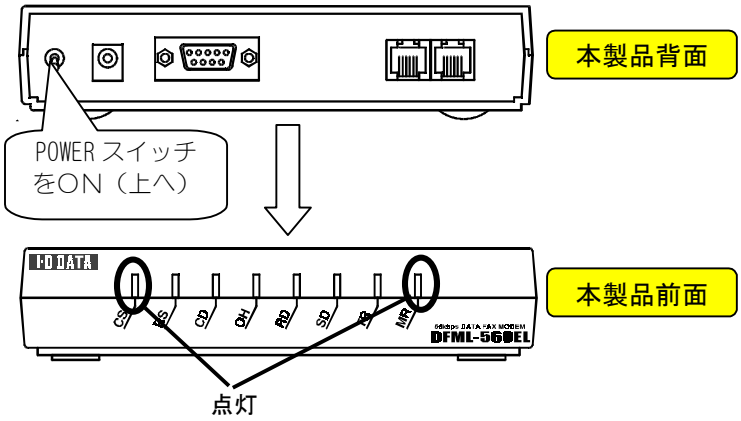
接続が終了したら、最初に本製品の電源を入れます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

この後、本製品の電源を入れますが、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動します。

次に「サポートソフト」CD-ROM内の設定ファイルをパソコンにコピーします。次ページへお進みください。

ステップ 2

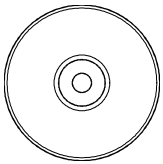
準備編

設定ファイルをコピーする

本製品を取り付けたら、次に「サポートソフト」CD-ROM 内の「モデム設定ファイル」（CCL ファイル）をパソコンにコピーします。

用意するもの

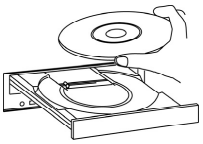
・添付の「サポートソフト」CD-ROM



「モデム設定ファイル」をコピーする

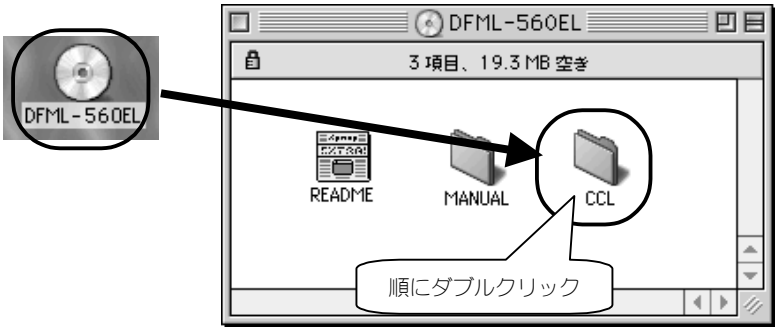
以下の手順は、初めて本製品を使うときだけ行います。

1 「サポートソフト」CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。



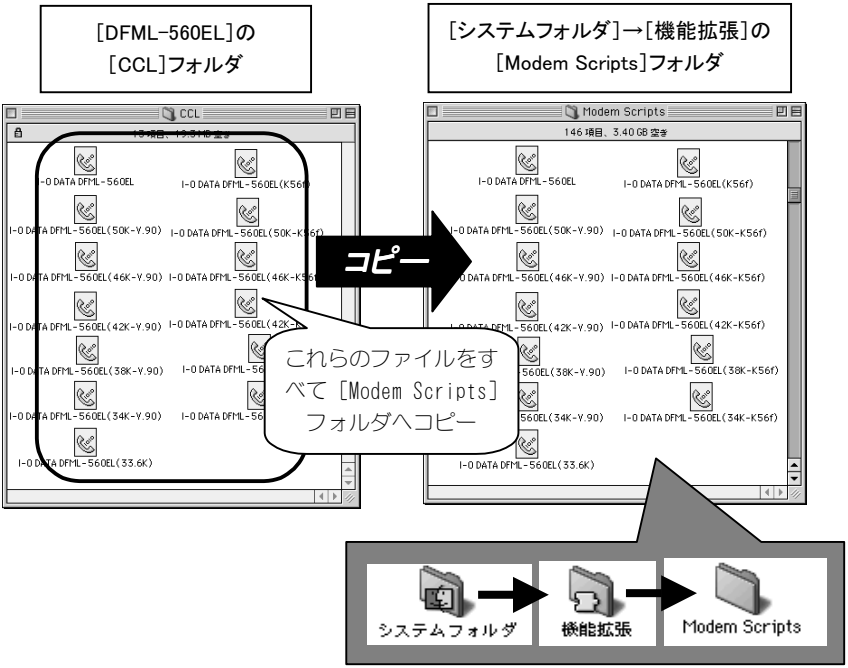
「サポートソフト」CD-ROM

2 デスクトップ上に表示された[DFML-560EL]アイコン、続けて[CCL]フォルダを順にダブルクリックします。



3 [CCL]フォルダにあるすべての CCL ファイル（このファイルが「モデム設定ファイル」です）を[機能拡張]フォルダ※の[Modem Scripts]フォルダへコピーします。

※[機能拡張]フォルダは、Mac OSをインストールしたドライブの[システムフォルダ]の中にあります。



以上で「モデム設定ファイル」のコピーは終了です。
この後、インターネットをご利用になる場合は、次ページへお進みください。

インターネット接続編

Mac OS で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(187 ページ)～【ステップ2】(188 ページ)) の設定をすべて終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· ***191ページ***

インターネットに接続する上で必要な
確認事項について説明します。

・プロバイダとの契約
・パソコン、本製品、電話回線の準備

ステップ 2

接続するための手順 ····· ***192ページ***

Mac OS でインターネットに接続
する2つの方法について説明します。

インターネット接続

実際にインターネットに接続する手順について
説明します。
接続には、以下の2つの方法があります。

・***接続方法1:[インターネット接続アシスタント]での接続*** ····· ***194ページ***

・***接続方法2:[PPP ダイアラ]での接続*** ····· ***200ページ***

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイアルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際、また、インターネットに接続する際に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ
2

インターネット接続編

接続するための手順

インターネットに接続するには、以下の２通りの方法があります。

接続方法１:[インターネット接続アシスタント]での接続

[インターネット接続アシスタント]を使って、インターネット接続のために必要な設定を順番に行っていきます。
この設定を行うとき、プロバイダから教えてもらったユーザー名などの情報が必要になります。

接続方法２:[PPP ダイアラ]での接続

「TCP/IP プロトコル」（本書例は「Open Transport」）および「PPP ダイアラ」を使って、インターネット接続のために必要な設定を順番に行います。
この設定を行うとき、プロバイダから教えてもらったユーザー名などの情報が必要になります。

[インターネット接続アシスタント]での手順の方が楽に設定できますが、お使いのパソコンの OS によって、パソコンに[インターネット接続アシスタント]がある場合と、ない場合があります。
次ページの手順で確認してください。

接続手順を確認する

インターネットへ接続するためには、パソコン本体に[インターネット接続アシスタント]があるかどうかによって手順が異なります。
以下の手順で確認してください。

1 アップルメニューから[インターネットアクセス]をクリックし、メニュー内に[インターネット接続アシスタント]があるかどうかを確認します。

（Mac OS 9.0 の場合は、起動ディスク(例えば Macintosh HD)→[インターネット]フォルダに[インターネット接続アシスタント]アイコンがあるかを確認してください。）

※確認後は、メニューを閉じてください。



[インターネット接続アシスタント]が……

ある場合は… → 次ページ【[インターネット接続アシスタント]での接続】へ進んでください。

ない場合は… → 【[PPP ダイアラ]での接続】(200 ページ)へ進んでください。

インターネット接続編

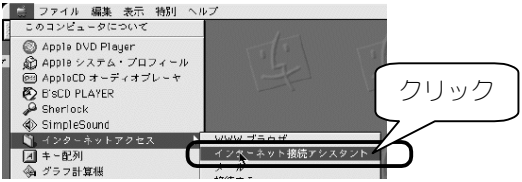
[インターネット接続アシスタント]での接続

ここでは、Mac OS の[インターネット接続アシスタント]でのインターネット接続手順について説明します。

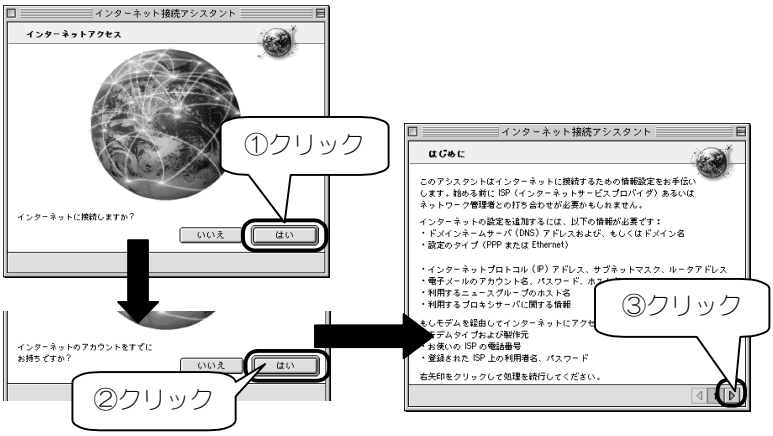
接続のための設定

1 アップルメニューから、[インターネットアクセス]→[インターネット接続アシスタント]を起動します。

Mac OS 9.0の場合は、起動ディスク(例えばMacintosh HD)→[インターネット]フォルダ→[インターネット接続アシスタント]アイコンを順にダブルクリックして起動します。



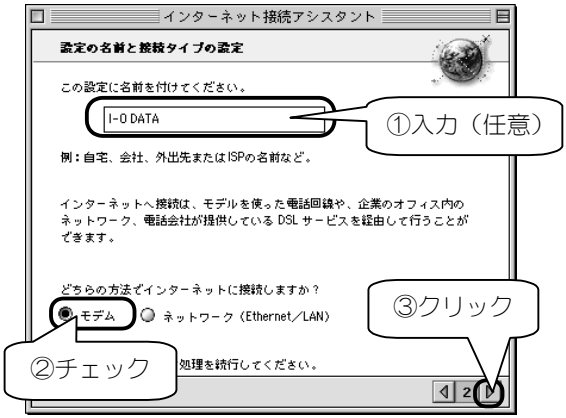
2 [はい]ボタンをクリックして処理を進め、[はじめに]が表示されたら、内容を確認して、[▶]ボタンをクリックします。



「情報がないか不適切」と表示された場合は…

【困ったときには】の 238 ページをご参照ください。

3 [設定の名称と接続タイプの設定]を以下のように設定し、
[▶]ボタンをクリックします。



4 [モデム設定]を以下のように設定し、
[▶]ボタンをクリックします。

①	モデム	[I-O DATA DFML-560EL]を選択します。
②	ポート	本製品を接続したシリアルポート ([モデムポート]または[プリンタポート])
③	[トーン][パルス]	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合　→　[トーン] ・ダイアル回線をお使いの場合　→　[パルス]

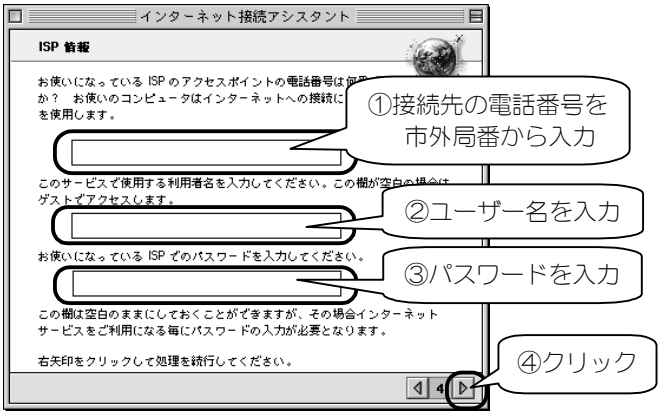


[モデム]に[I-O DATA DFML-560EL]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 238 ページをご参照ください。

5 [ISP情報](プロバイダからの通知情報)を以下のように設定し、[►]ボタンをクリックします。

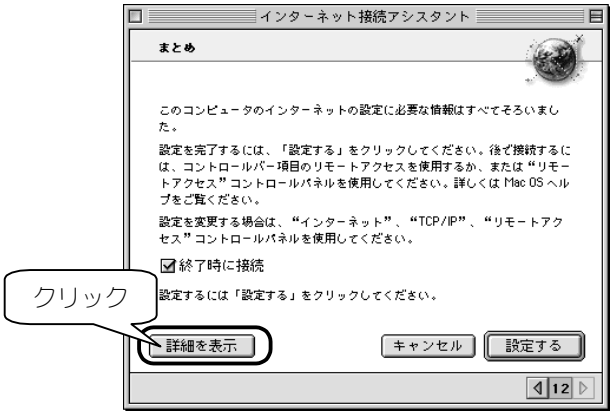
入力内容がわからないときは、プロバイダにお問い合わせください。



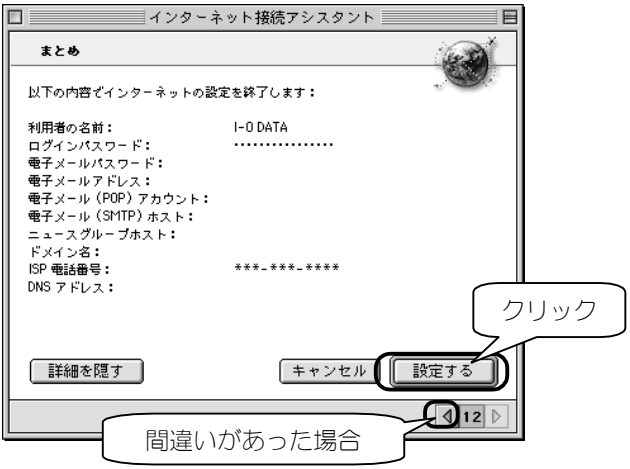
6 後は画面の指示にしたがって、適切な内容を設定してから、[►]ボタンをクリックして、処理を進めてください。

入力内容がわからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

7 以下の画面が表示されたら、[詳細を表示]ボタンをクリックします。



8 以下の画面が表示されたら、設定した内容を確認後、[設定する]ボタンをクリックします。
内容に間違いがあった場合は、[◀]ボタンをクリックして、必要な設定画面に戻り、内容を修正してください。



これで、インターネット接続の準備は完了しました。
7 の手順の画面で[終了時に接続]がチェックされているので、この後は、自動的に接続画面が表示されます。次ページ***2*** の手順へ進んでください。
なお、次回接続時からは次ページ***1*** の手順から始めてください。

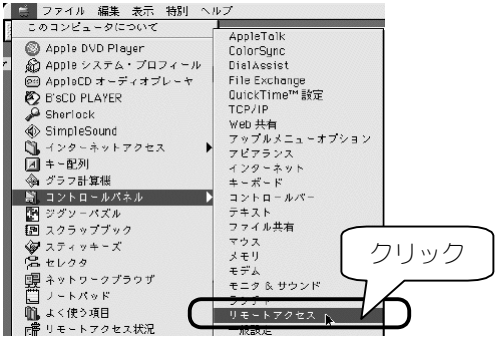
参考

ここで設定した内容を、後で見直したい場合は、【[PPP ダイアラ]での接続】(200 ページ)の手順を参照してください。

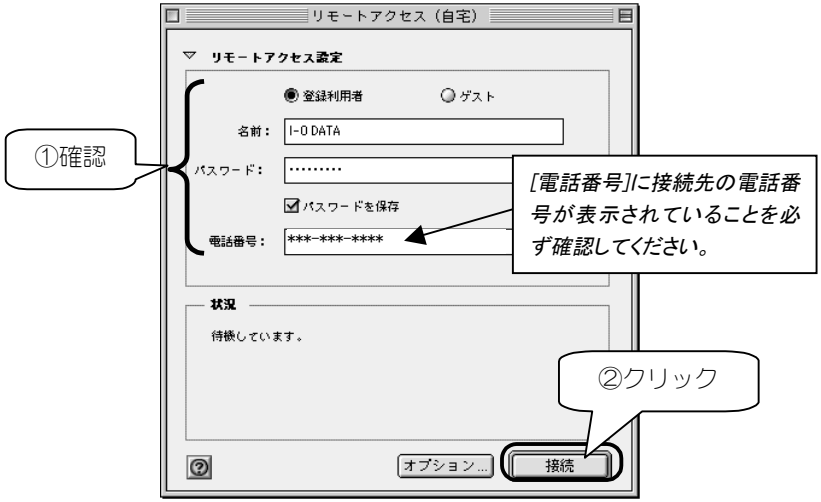
インターネットを楽しもう

前ページの設定から引き続き行っているときは、以下の**2** の手順から始まります。

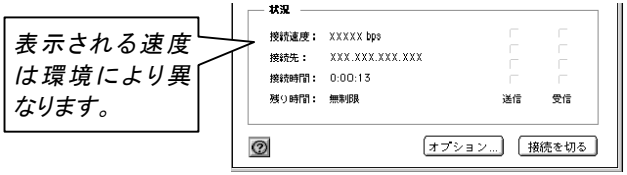
1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[リモートアクセス]を起動します。



2 内容を確認して、[接続]ボタンをクリックします。



3 状況欄に以下のように表示されたら、接続完了です。

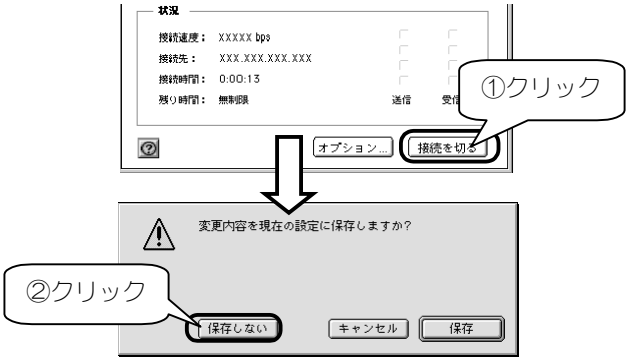


状況欄に「この電話番号は話し中です」と表示される場合は…

【困ったときには】の 237 ページをご参照ください。

4 ブラウザや電子メールを開いて、インターネットをお楽しみください。

5 インターネット利用が終わったら、[接続を切る]ボタンをクリックします。これで電話回線が切断され、通信が終了します。



注意

・変更内容とは、前ページ2 の手順の内容です。接続先の電話番号やユーザー名（名前）、パスワードなどを変更してから接続した場合は[保存]ボタンをクリックしてください。次回からその内容が最初に表示されます。
・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず[接続を切る]ボタンをクリックし、[状況]が[待機しています。]となることを必ずご確認ください。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。

インターネット接続編

[PPP ダイアラ]での接続

ここでは、Mac OS に[インターネット接続アシスタント]が無い場合のインターネット接続手順（PPP ダイアラでの接続手順）について説明します。



参考

ここでの設定は、[インターネット接続アシスタント]で行った設定の確認としても参照することができます。

接続のための設定

[インターネット接続アシスタント]が無い場合に、インターネット接続をするためには、下記のソフトウェアが必要となります。
お使いのパソコンにインストールされていることを確認してください。

- *TCP/IP プロトコル*　（インターネットに必要な通信手順）
- *PPP ダイアラ*　（電話回線を用いてプロバイダにダイアルアップ IP 接続するためのソフトウェア）

ここでは、PPP ダイアラとして[OpenTransportPPP]を例にして説明します。



・本製品には[TCP/IP プロトコル]および[PPP ダイアラ]は付属しておりません。パソコン本体に無い場合はお客様各自でご用意願います。
・TCP/IP プロトコル最新版の入手方法に関しては、アップルコンピュータ株式会社のアップルカスタマーアシスタントセンター(CAC)にお問い合わせください。

TCP/IP を設定する

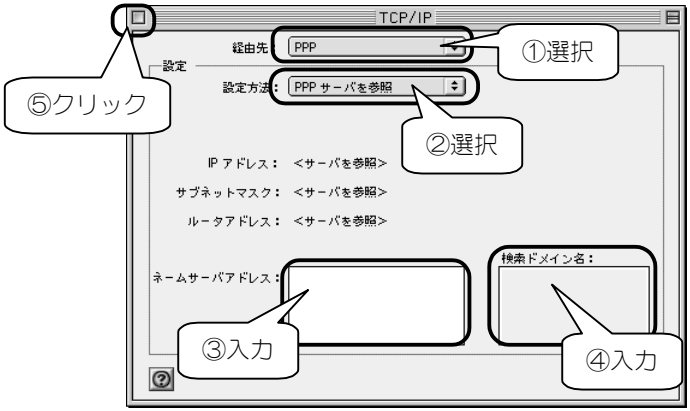
1 [システム]フォルダ内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[TCP/IP]アイコンをダブルクリックします。



2 [TCP/IP]画面が表示されたら以下の各設定を行います。
設定が終わったら、[TCP/IP]画面を閉じます。

①	経由先	プルダウンメニューからご利用になる[PPP]を選択します。
②	設定方法	[PPP サーバを参照]を選択します。
③	ネームサーバアドレス	ご契約したプロバイダから案内されている IP アドレス(DNS アドレス)を入力します。
④	検索ドメイン名	ご契約したプロバイダから案内されているドメイン(DNS サーバ名称)を入力します。

※③④の設定内容の詳細については、プロバイダにご確認ください。



これで TCP/IP プロトコルの設定は終わりです。
引き続き、次ページ【PPP ダイアラを設定する】へ進んでください。

PPP ダイアラを設定する

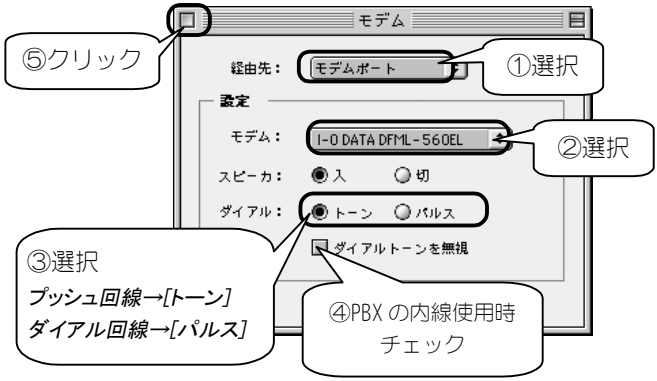
ここでは PPP ダイアラとして、OpenTransportPPP を使用する場合の手順を説明します。

1 [システム]フォルダ内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[モデム]アイコンをダブルクリックします。

2 [モデム]画面が表示されたら、以下の各設定を行います。
設定が終わったら、[モデム]画面を閉じます。

①	経由先	本製品を接続したシリアルポート ([モデムポート]または[プリンタポート])
②	モデム	[I-O DATA DFML-560EL]を選択します。
③	ダイアル	以下を選択します。 ・プッシュ回線をお使いの場合 → [トーン] ・ダイアル回線をお使いの場合 → [パルス]
④	ダイアルトーンを無視	チェックボックスには、PBX の内線(0 発信)を使用している場合のみ、チェックしてください。

※③④の設定内容の詳細については、お使いの電話回線がどのような回線かをご確認ください。



[モデム]に[I-O DATA DFML-560EL]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 238 ページをご参照ください。

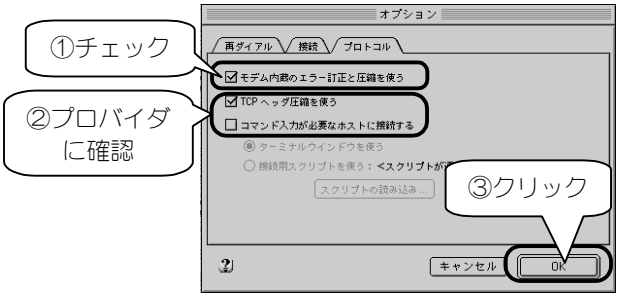
3 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[PPP]アイコン(または[リモートアクセス]アイコン)をクリックし、[PPP]画面(または[リモートアクセス]画面)で[オプション]ボタンをクリックします。

4 以下の設定を行います。

①[モデム内蔵のエラー訂正と圧縮を使う]にチェックします。

②[TCP ヘッダ圧縮を使う]および[コマンド入力が必要なホストに接続する]のチェックは、各プロバイダに確認してください。

③設定後、[OK]ボタンをクリックします。



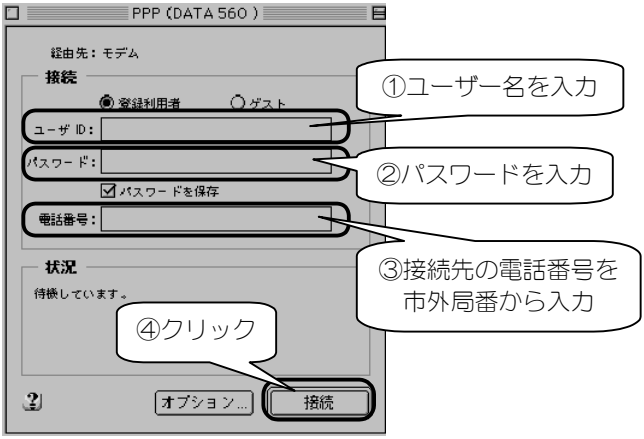
5 設定が終わったら、[PPP]画面を閉じます。

これで、インターネット接続の準備は完了しました。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

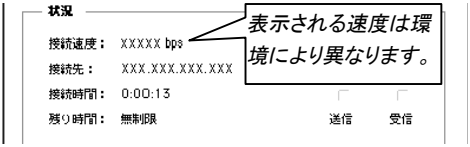
インターネットを楽しもう

1 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[PPP]（または[リモートアクセス]）をクリックします。

2 ISP情報（プロバイダからの情報）を以下のように設定し、[接続]ボタンをクリックします。



3 状況欄に以下のように表示されたら、接続完了です。



状況欄に「この電話番号は話し中です」と表示される場合は…

【困ったときには】の 237 ページをご参照ください。

4 ブラウザや電子メールを開いて、インターネットをお楽しみください。

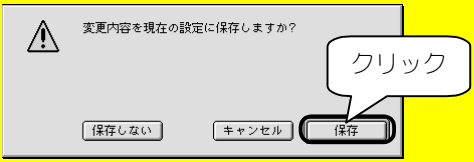
5 インターネットの使用が終わったら、[解除]ボタン※をクリックします。

これで電話回線が切断され、通信が終了します。

※ご使用のPPPによっては[切断]ボタンや[接続を切る]ボタンなどの場合があります。

注意

・変更内容とは、前ページ2 の手順の内容です。接続先の電話番号やユーザー名、パスワードなどを変更してから接続した場合は[保存]ボタンをクリックしてください。次回からその内容が最初に表示されます。



・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず[解除]ボタンをクリックし、[状況]が[待機しています。]となることを必ずご確認ください。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。

MEMO

9 漢字 Talk で使うには

～ *準備編* ～
ステップ1 本製品の電源を入れる‥‥208ページ

～ *インターネット接続編* ～
漢字 Talk でインターネットに
接続するには‥209ページ
ステップ1 接続前の準備 ‥‥‥‥‥‥210ページ
ステップ2 接続するための手順 ‥‥‥211ページ
[ConfigPPP]での接続‥‥‥‥‥‥‥‥‥212ページ
[FreePPP]での接続 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥216ページ

ステップ 1

準備編

本製品の電源を入れる

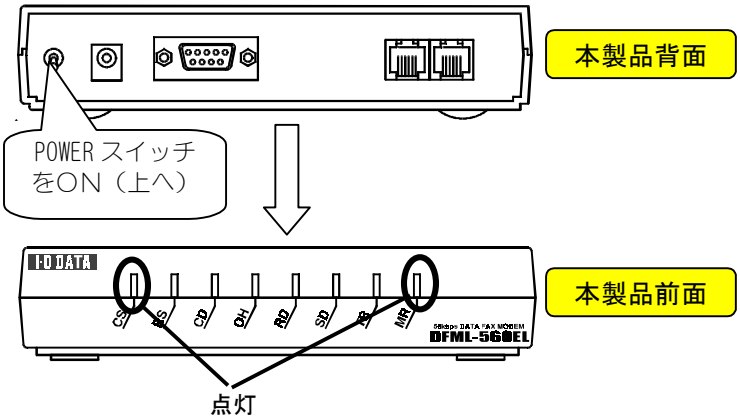
接続が終了したら、最初に本製品の電源を入れます。

1 本製品と電話回線(モジュラージャック)およびパソコンとの接続を確認します。
また、パソコンの電源が切れていることも確認します。

注意

この後、本製品の電源を入れますが、本製品を使用する際には、必ず本製品の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後に本製品の電源を入れた場合は本製品を使用できない場合があります。

2 本製品の電源を入れます。
電源を入れると、本製品前面の[MR]ランプ、[CS]ランプが点灯します。



3 パソコンの電源を入れ、漢字Talkを起動します。

この後、インターネットを楽しみたい場合は、次ページへお進みください。

インターネット接続編

漢字 Talk で インターネットに接続するには

パソコンへの接続が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。



ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、プロバイダとダイアルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際、また、インターネットに接続する際に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

準備2：パソコン、本製品、電話回線の準備

パソコン、本製品、電話回線（モジュラージャック）があればインターネットに接続できます。

ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャック）と本製品が接続されていることを確認してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続するための手順

インターネットに接続するには、以下の２通りの方法があります。

接続方法１:[ConfigPPP]での接続 → 次ページへ

[TCP/IP]（本書例は[OpenTransport]）と[ConfigPPP]の PPP ダイアラを使って、インターネット接続のために必要な設定を順番に行っていきます。この設定を行うとき、プロバイダから教えてもらったユーザー名などの情報が必要になります。

接続方法2:[FreePPP]での接続 → 216ページへ

[TCP/IP]（本書例は[OpenTransport]）と[FreePPP]の PPP ダイアラを使って、インターネット接続のために必要な設定を順番に行っていきます。この設定を行うとき、プロバイダから教えてもらったユーザー名などの情報が必要になります。

注意

・本製品には[TCP/IP]および[PPP ダイアラ]は付属しておりません。パソコン本体に無い場合はお客様各自でご用意願います。
・TCP/IP 最新版の入手方法に関しては、アップルコンピュータ株式会社のアップルカスタマーアシスタントセンター(CAC)にお問い合わせください。
・バージョンによっては画面や操作が異なる場合があります。

参考

[TCP/IP]とはインターネット接続に必要な通信ソフトウェアです。
[PPP ダイアラ]とは、電話回線を用いてプロバイダにダイアルアップ IP 接続するためのソフトウェアです。本書では、[PPP ダイアラ]として、[ConfigPPP]と[FreePPP]を使った手順についてそれぞれ説明しています。

インターネット接続編

[ConfigPPP]での接続

ここでは、ConfigPPP でのインターネット接続手順について説明します。

TCP/IP の設定

最初に TCP/IP の設定を行います。

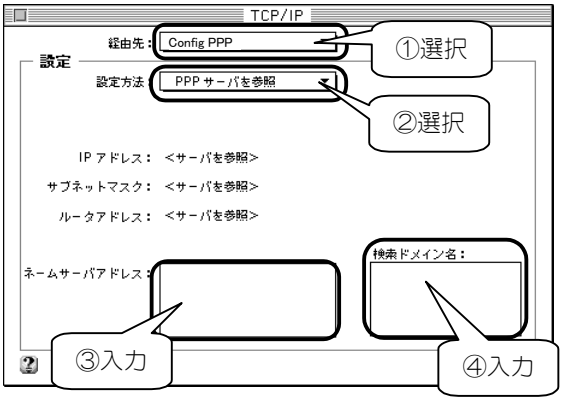
1 [システム]フォルダ内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[TCP/IP]アイコンをダブルクリックします。



2 [TCP/IP]画面で、以下の各設定を行います。
設定が終わったら、[TCP/IP 設定]画面を閉じます。

①	経由先	プルダウンメニューからご利用になるPPPダイアルの名称を選択します。
②	設定方法	[PPP サーバを参照]を選択します。
③	ネームサーバアドレス	ご契約したプロバイダから案内されているIPアドレス(DNS アドレス)を入力します。
④	検索ドメイン名	ご契約したプロバイダから案内されているドメイン(DNS サーバ名称)を入力します。

※③④の設定内容の詳細については、プロバイダにご確認ください。



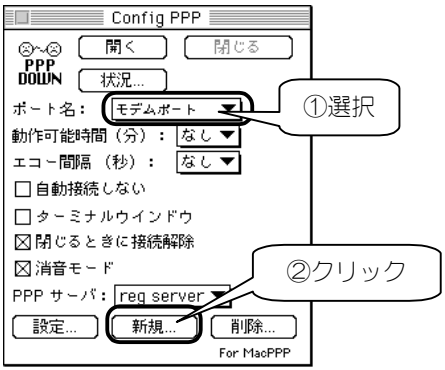
これで TCP/IP プロトコルの設定は終了です。
引き続き、次ページの【ConfigPPP の設定】へ進んでください。

ConfigPPP の設定

ここでは、PPP ダイアラとして、ConfigPPP を使用する場合の手順を説明します。

1 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[ConfigPPP]アイコンをダブルクリックします。

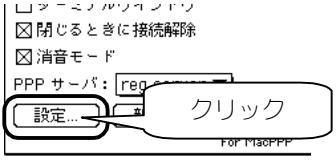
2 [ポート名 :]に本製品を接続したシリアルポート([モデムポート]または[プリンタポート])を選択し、[新規]ボタンをクリックします。



3 [PPPサーバ名 :]に、接続先のプロバイダ名などを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

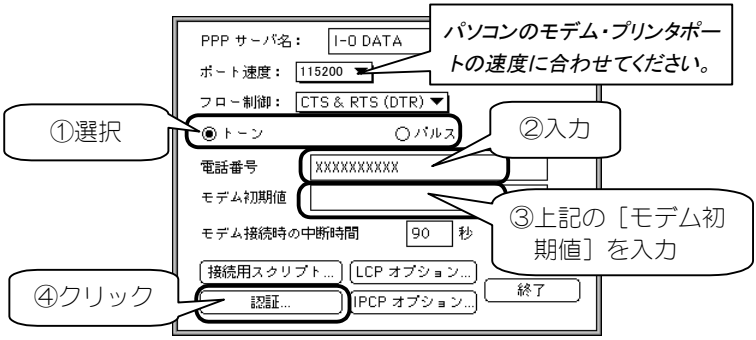


4 ***2*** の手順の画面に戻りますので、[設定]ボタンをクリックします。

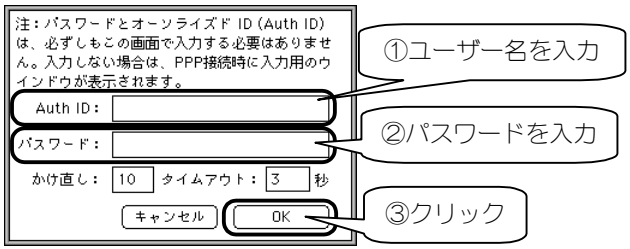


5 以下の内容を設定し、[認証]ボタンをクリックします。

①	[トーン][パルス]	プッシュ回線をお使いの場合　→ [トーン] パルス回線をお使いの場合　→ [パルス]
②	電話番号	プロバイダのアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。
③	モデム初期値	以下の文字列を半角で入力します。 ・プッシュ回線使用時　AT&FX3 ・ダイアル回線(10)使用時　AT&FX3&P1 ・ダイアル回線(20)使用時　AT&FX3&P3



6 ISP情報(プロバイダからの通知情報)を以下のように入力し、[OK]ボタンをクリックします。



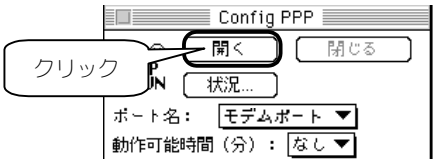
7 5 の手順の画面に戻りますので、[終了]ボタンをクリックします。

これで ConfigPPP の設定は終了しました。
【インターネットを楽しもう】(次ページ)を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

インターネットを楽しもう

1 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]の
[Config PPP]をダブルクリックします。

2 [開く]または[接続]ボタンをクリックします。
プロバイダへ接続し、インターネットが利用できるようになります。
接続できないときは、[状況]ボタンをクリックしてみてください。



3 接続が終わったら、
[閉じる]または[解除]ボタンをクリックします。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。

インターネット接続編

[FreePPP]での接続

ここでは、FreePPP でのインターネット接続手順について説明します。

TCP/IP プロトコル]の設定

最初に TCP/IP の設定を行います。

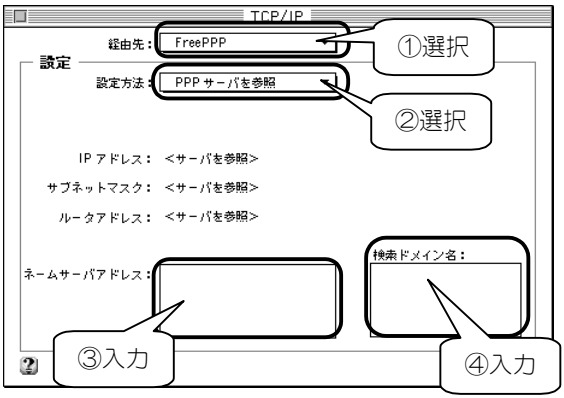
1 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]フォルダ内にある[TCP/IP]アイコンをダブルクリックします。



2 [TCP/IP]画面で、以下の各設定を行います。
設定が終わったら、[TCP/IP 設定]画面を閉じます。

①	経由先	プルダウンメニューからご利用になるPPPダイアラの名称を選択します。
②	設定方法	[PPP サーバを参照]を選択します。
③	ネームサーバアドレス	ご契約したプロバイダから案内されているIPアドレス(DNS アドレス)を入力します。
④	検索ドメイン名	ご契約したプロバイダから案内されているドメイン(DNS サーバ名称)を入力します。

※③④の設定内容の詳細については、プロバイダにご確認ください。



これで TCP/IP プロトコルの設定は終了です。
引き続き、次ページ【FreePPP の設定】へ進んでください。

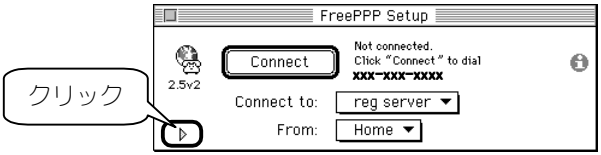
FreePPP の設定

ここでは、PPP ダイアラとして、FreePPP を使用する場合の手順を説明します。

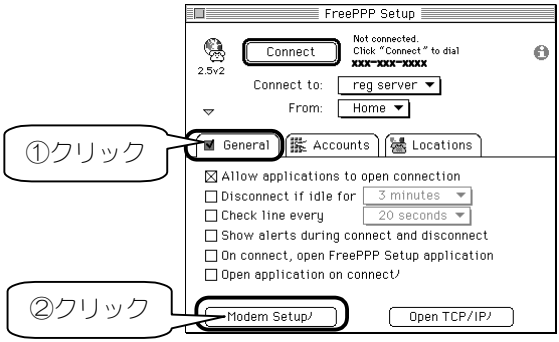
1 メニューバーの電話のアイコンをプレス(マウスのボタンを押し続ける)し、[Open FreePPP Setup]を選択します。
（電話のアイコンが無い場合は、FreePPPインストール先の[Open FreePPP Setup]をダブルクリックします。）



2 [システムフォルダ]内の[コントロールパネル]フォルダの[FreePPP]をダブルクリックし、画面左下にある小さな三角のボタンをクリックします。

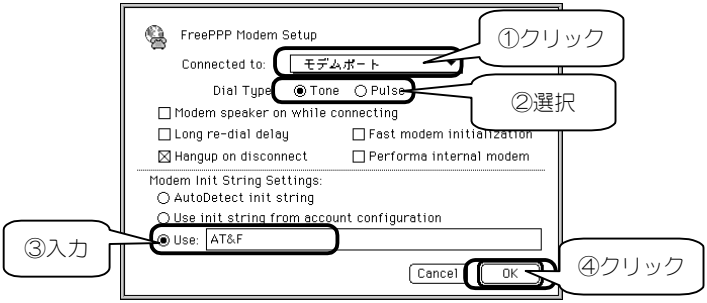


3 [General]タブをクリックし、
[Modem Setup]ボタンをクリックします。

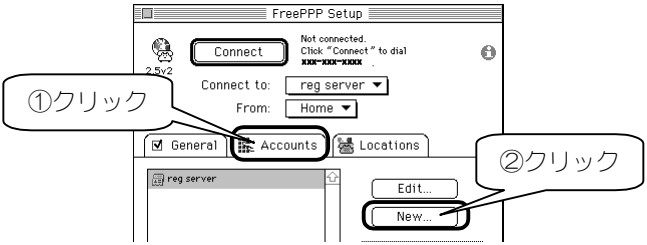


4 以下の内容を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

①	Connected to	本製品を接続したシリアルポートを選択します。 ([モデムポート]または[プリンタポート])
②	Dial Type	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[Tone]を選択 ・ダイアル回線をお使いの場合→[Pulse]を選択
③	Modem Init String Settings	以下の文字列を半角で入力します。 ・プッシュ回線使用時　AT&FX3 ・ダイアル回線(10)使用時　AT&FX3&P1 ・ダイアル回線(20)使用時　AT&FX3&P3

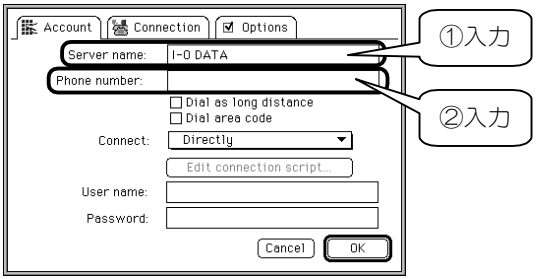


5 3 の手順の画面に戻りますので、[Accounts]タブをクリックし、[New]ボタンをクリックします。



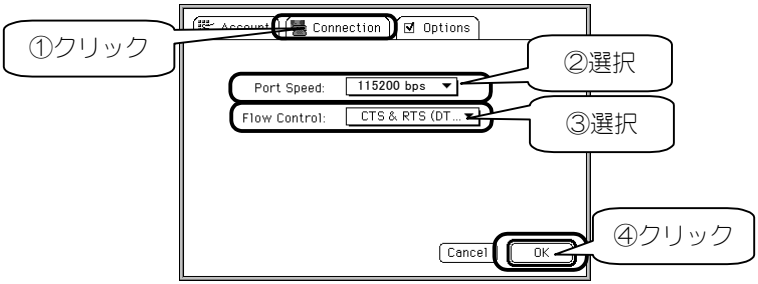
6 以下の内容を入力します。

①	Server name	プロバイダの名称などを入力します。
②	Phone number	プロバイダのアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。

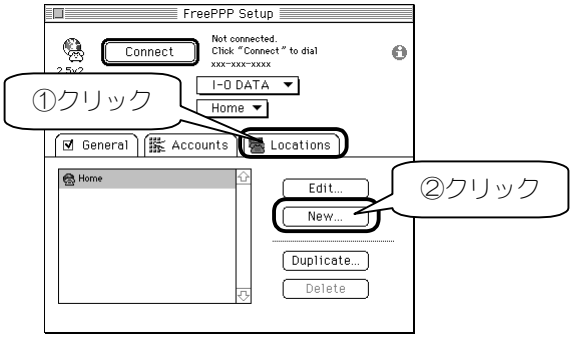


7 [Connection]タブをクリックして以下のように設定し、[OK]ボタンをクリックします。

②	Port Speed	[115200]を選択します。
③	Flow Control	[CTS&RTS(DT…]を選択します。

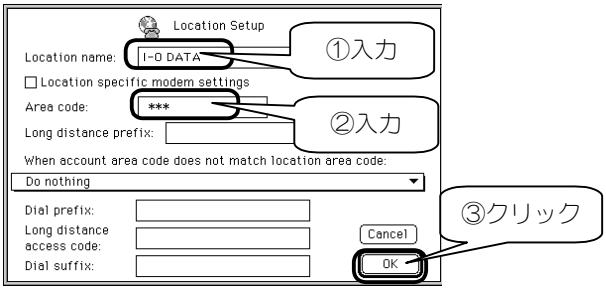


8 **3** の手順の画面に戻りますので、
[Locations]タブをクリックし、[New]ボタンをクリックします。



9 以下のように設定し、[OK]ボタンをクリックします。

①	Location name	任意の登録名を入力
②	Area code	所在地の市外局番を入力



10 **3** の手順の画面に戻りますので、
画面左上のクローズボタンをクリックします。

これで FreePPP の設定は終了しました。
次ページの【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

インターネットを楽しもう

1 メニューバーの電話のアイコンをプレス(マウスのボタンを押し続ける)し、[Open PPP Connection]を選択します。



2 接続が終わったら、電話のアイコンメニューから
[Close PPP Connection]を選択します。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。

MEMO

付録1

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

困ったときには（もくじ）

・インストール時のトラブル（Windows 編）

状態	参照頁
本製品を接続しているのにインストール画面が表示されない （Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）	225
[*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*]と表示された	226
[*指定の場所にはお使いのハードウェアに関する情報がありません*]と表示された	
デバイスマネージャの[モデム]の確認で、 [I-O DATA DFML-560EL]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている （Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）	
端末速度設定時に[電話とモデムのプロパティ]（または[モデムのプロパティ]）に[I-O DATA DFML-560EL]が表示されない （Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）	227
端末速度設定時に、「*ポートが開けません*」または*[ポートが開かれています]*と表示されたり、応答がない （Windows 2000、Windows Me/98/95）	
本製品が他社製モデムとして検出されてしまう （Windows Me/98/95）	
端末速度設定時に、「モデムが正しく応答しません」と表示された （Windows 2000、Windows Me/98/95）	228

・インターネット接続時のトラブル（Windows 編）

状態	参照頁
[回線が使用中です]と表示された	229
[発信音が聞こえません]と表示された	
[ダイヤル先のコンピュータが応答しません]と表示された	230
[ダイヤル先のコンピュータから切断されました]と表示された	
接続動作はするようだが、[ダイヤルアップ接続モニタ]や[接続インジケータ]が表示されない	231
V.90 または K56flex 対応プロバイダなどとの通信中に回線が切れる	
50000bps 以上で通信できない	
[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない（Windows NT 4.0）	232
[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない（Windows Me/98/95）	
[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない（Windows Me/98/95）	234

・インターネット接続時のトラブル（Macintosh 編）

状態	参照頁
[状況]欄に[この電話番号は話し中です]と表示された	237
[利用者として認証されませんでした]と表示された	
[お使いのモデムが正しく応答しません]と表示された	
[情報がないか不適切]と表示された	238
[搬送波が検出されませんでした]と表示された	
[モデム]欄に[I-O DATA DFML-560EL]と表示されない	
V.90 または K56flex 対応プロバイダなどとの通信中に回線が切れる	239
50000bps 以上で通信できない	

・その他のトラブル

状態	参照頁
通信ソフトが起動できない	240
AT コマンドを使用して通信できない	

インストール時のトラブル
（Windows 編）

本製品を接続しているのにインストール画面が表示されない
（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

原因1	本製品の電源が入っていない （本製品の MR ランプが点灯していない）
対処	電源コンセント、電源スイッチ（本製品背面）を確認し、電源を入れ直してみてください。

原因2	すでにインストール済みである
対処	サポートソフトを1度インストールすると、インストール画面は表示されません。本製品を接続しておくだけで準備完了となります。

原因3	本製品とパソコン本体の接続に問題がある （パソコン起動中から本製品の TR ランプがまったく反応していない）
対処	・RS-232Cケーブルの接続を確認してください。（【2　接続する】10ページ参照） ・RS-232Cケーブルは付属のケーブルを使用していることを確認してください。 付属ケーブル以外の場合はストレートケーブルを使用してください。 ・パソコンに COM ポートが2つ以上ある場合は、取り付けた COM ポートが何番の COM ポートかを確認してください。

原因4	Windows 98/95 の COM ポートの設定に問題がある
対処	1.[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[システム]アイコンをダブルクリックします。 2.[システムのプロパティ]画面で、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。 3.[ポート]をダブルクリックし、本製品を接続している[通信ポート]に[！]マークや[×]マークがついていないか確認してください。 [！]マークや[×]マークがついていた場合は、COM ポートに何らかの問題があります。詳しくはパソコン本体の取扱説明書もしくは拡張シリアルボードの取扱説明書をお読みください。

（次ページに続く）

原因5	COM ポートがプラグアンドプレイに対応していない （Windows Me/98/95）
対処	モデムを接続している COM ポートがプラグアンドプレイに対応しているかどうかは、パソコン本体の取扱説明書もしくは拡張シリアルボードの取扱説明書をお読みください。なお、COM ポートがプラグアンドプレイに対応していない場合は、【付録4】（258 ページ）を参照し、モデムを手動でインストールしてください。

「*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*」と表示された

原因	検索場所の指定が間違っている
対処	[戻る]ボタンをクリックして、「サポートソフト」CD-ROM が CD-ROM ドライブにセットされているか確認して、もう一度、検索場所の指定を行ってください。

「*指定の場所にはお使いのハードウェアに関する情報がありません*」と表示された

原因	挿入した CD-ROM または指定したフォルダが間違っている
対処	挿入した CD-ROM が「DFML-560EL サポートソフト」CD-ROM であることを確認してください。また、[マイコンピュータ]を開くなどしてお使いのパソコンの CD-ROM ドライブが何ドライブ（例えば D ドライブ）かを確認してください。その後、[参照]ボタンをクリックして、CD-ROM の「WIN9X_ME」フォルダ（Windows Me/98/95 の場合）を指定してください。

[デバイスマネージャ]の[モデム]の確認で、[I-O DATA DFML-560EL]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている（*Windows 95 の場合は[Analog Modem]と表示される場合があります。*）

（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

原因1	正しくインストールされていない
対処	【付録5】（263 ページ）を実行し、1度サポートソフトを削除します。 その後、各 OS の【インストールする】の個所を参照して、インストールをやり直してください。

端末速度設定時に、[電話とモデムのプロパティ]（または[モデムのプロパティ]）に[I-O DATA DFML-560EL]が表示されない

（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0）

原因	正しくインストールされていない
対処	・【付録5】（263 ページ）を参照し、いったん、サポートソフトを削除してください。その後で、インストールをもう1度やり直してください。 ・Windows NT 4.0 の場合は、【インストールする】の 163 ページの注意を参照してください。

端末速度設定時に、[*ポートが開けません*]または[*ポートが開かれています*]と表示されたり、応答がない

（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

原因	本製品を接続した COM ポートに異常の可能性がある
対処	RS-2332C ケーブルの接続を確認し、もしお使いのパソコンに COM ポートがもう1つある場合は、取り付ける COM ポートを変えてみてお試しください。

本製品が他社製モデムとして検出されてしまう

（Windows Me/98/95）

原因	モデムの異常ではありません。 Windows Me/98/95のバージョンによっては、本製品が他社製モデムとしてインストールされてしまう場合があります。 これは Windows Me/98/95 のプラグアンドプレイ用のデータが増えたため、識別データが似ている他社製モデムとして本製品が誤認識されてしまうためです。
対処	【付録4】（258ページ）の手順でモデムをインストールして、使用するモデムを選択するときは[I-O DATA DFML-560EL]を選択してください。 なお、誤認識されたモデムは削除しても Windows Me/98/95 を再起動すると、再び追加されてしまうので削除する必要はありません。

端末速度設定時に、[モデムが正しく応答しません]と表示された
（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

対処1	[詳細情報]ボタンをクリックした時に、本製品前面の LED ランプが反応しているか確認してください。 反応しているのにエラーとなる場合は、[OK]ボタンをクリックしてエラー画面を閉じ、本製品のみ電源を入れ直して、再度[詳細情報]をクリックしてみてください。

対処2	（Windows Me/98/95） 【付録4】(258 ページ)でインストールを行っていた場合は、インストール時に指定した COM 番号（216 ページの手順 ***10***）が、物理的に接続したパソコンの COM 番号と異なっていないか確認してください。 （COM 番号については、パソコンの取扱説明書で確認してください。また、インストールした COM 番号は、Windows Me では 98 ページ ***2*** の手順、Windows 98/95 では 141 ページ ***5*** の手順で確認できます。）

インターネット接続時のトラブル（Windows 編）

[回線が使用中です]と表示された

原因1	接続先のアクセスポイントが混雑している
対処	[OK]ボタンをクリックし、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。 時間をおいてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。

原因2	本製品の PHONE 端子に接続した電話機が使用中である
対処	電話機の使用が終わった後で通信してください。

[発信音が聞こえません]と表示された

原因1	本製品の LINE 端子に電話回線が接続されていない
対処	電話回線を LINE 端子に接続してください。 また、LINE と PHONE の接続が逆になっていないかご確認ください。

原因2	電話回線に問題がある
対処	ご利用の回線が「パルス回線」や「電話回線を分配機や切替機などで二股で使用している」の場合には、以下の個所を参照して設定してください。 ・Windows XP → 252 ページを参照して[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックを外してみてください。 ・Windows 2000 → 254 ページを参照して[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックを外してみてください。 ・Windows Me/98/95、Windows NT 4.0 → 256 ページを参照して[トーンを待ってからダイヤルする]のチェックを外してみてください。

原因3	正しくインストールされていない
対処	【付録5】(263 ページ)を実行し、1度サポートソフトを削除します。 その後、各 OS の【インストールする】の個所を参照して、インストールをやり直してください。

[ダイヤル先のコンピュータが応答しません]と表示された

原因1	接続先の電話番号が違っている
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。 接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※プロバイダに接続先の電話番号を確認してください。

原因2	接続先のアクセスポイントが混雑している
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。 時間をおいてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。

原因3	正しくインストールされていない
対処	【付録5】（263 ページ）を実行し、1度サポートソフトを削除します。 その後、各 OS の【インストールする】の個所を参照して、インストールをやり直してください。

[ダイヤル先のコンピュータから切断されました]と表示された

原因1	接続先の電話番号が違っている
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。 接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を（市外局番を含めて）入力してください。

原因2	パソコンに本製品が正しく接続されていない
対処	[OK]ボタンをクリックし、RS-232Cケーブル、モジュラーケーブル、本製品が正しく接続されていることを確認してください。

接続動作はするようだが、[ダイヤルアップ接続モニタ]や[接続インジケータ]が表示されない

原因	接続先の電話番号が違っている
対処	接続画面で、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※正しい電話番号は、プロバイダに確認してください。

V.90 または K56flex 対応プロバイダなどとの通信中に回線が切れる

原因	電話回線の状況・品質が悪い
対処	【付録2】(241 ページ)を参照して、接続速度の上限を下げてみてください。電話回線の状況・品質によっては接続速度を下げた方がパフォーマンスが上がる場合もあります。

50000bps 以上で通信できない

原因1	回線状況により、設定回線速度(特に 50000bps 以上)より低い速度で接続する場合がある
対処	接続プロバイダが V.90 および K56flex に対応しているか確認してください。 V.90 および K56flex に対応していない場合は、最高 33600bps となります。

原因2	PBX(構内交換機)の回線を利用している（内線(0 発信)など）場合は、 V.90 および K56flex の本来の性能がでない
対処	電話回線経由でご利用ください。

原因3	中継コネクタを使用して、モジュラーケーブルを延長されていると、 低い速度で接続する場合がある
対処	モジュラーケーブルをできる限り短くしてご利用ください。

原因4	分配した回線に接続していると、低い速度で接続する場合がある
対処	分配していない回線に接続してご利用ください。

[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない　（Windows NT 4.0）

対処	[ダイヤルアップネットワーク]→[その他]→[エントリとモデムの編集]を開きます。 電話番号のところで、[テレフォニーダイヤルのプロパティを使う]にチェックが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。

[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない（Windows Me/98/95）

原因	ダイヤルアップネットワークがインストールされていない
対処	以下の手順でダイヤルアップネットワークをインストールします。

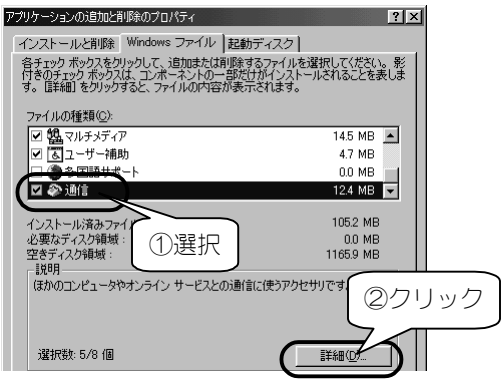
■ダイヤルアップネットワークのインストール手順

1 [アプリケーションの追加と削除]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

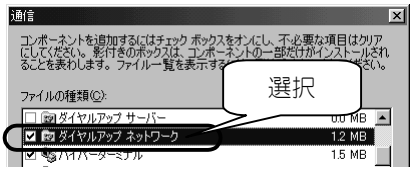
2 [Windowsファイル]タブをクリックします。
表示が切り替わるまでに時間がかかります。しばらくお待ちください。



3 [通信]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。

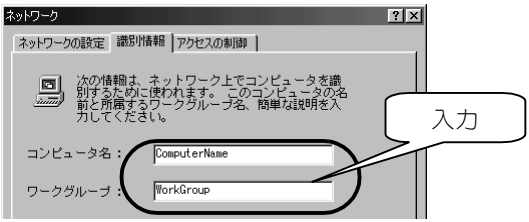


4 [ダイヤルアップネットワーク]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



5 ***3*** の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。
Windows の CD-ROM を用意し、画面の指示にしたがって処理を進めます。

6 以下の画面になったら、[コンピュータ名]と[ワークグループ]名を入力し、[閉じる]ボタンをクリックします。これらの名称はインターネットを使うときには使用しないので、適当な名称を入力してください（[コンピュータの説明]は省略可）。



7 [OK]ボタンをクリックします。
インストールが終わったら、パソコンを再起動します。
[ケーブル接続]はインターネットを使うときには不要ですので、インストールは行いません。



8 Windows が再起動すると、下記の画面が表示されるので、[キャンセル]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない（Windows Me/98/95）

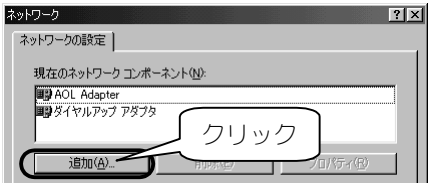
原因	TCP/IP がインストールされていない
対処	以下の手順で TCP/IP をインストールします。

■[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の両方の表示が無い場合のインストール手順

以下の手順で[TCP/IP]をインストールすることによって、両方とも（[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]）がインストールされます。

1 [ネットワーク]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

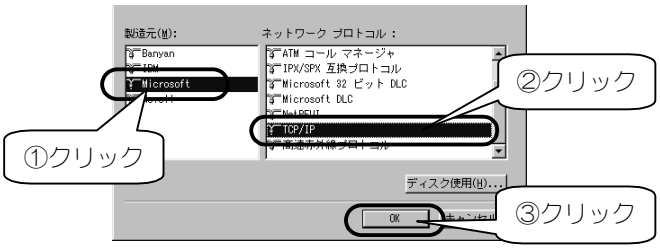
2 [追加]ボタンをクリックします。



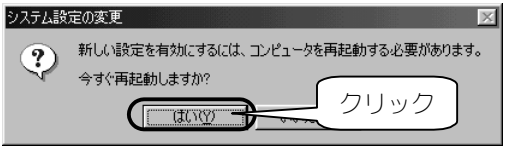
3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。後は画面の指示にしたがって、処理を進めてください。



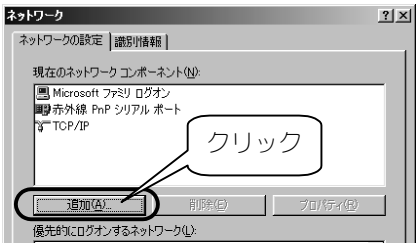
5 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



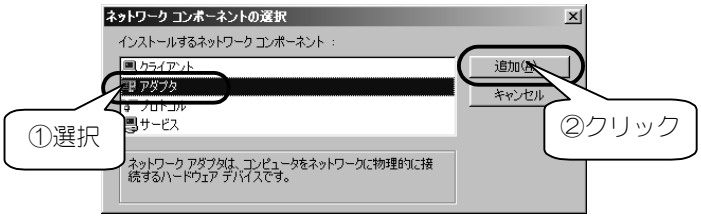
■[ダイヤルアップアダプタ]のみ表示が無い場合のインストール手順

1 [ネットワーク]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

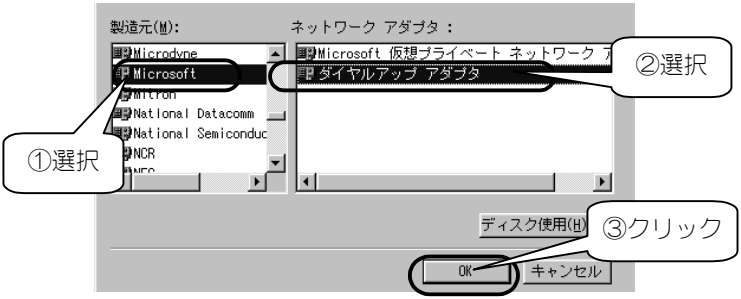
2 [追加]ボタンをクリックします。



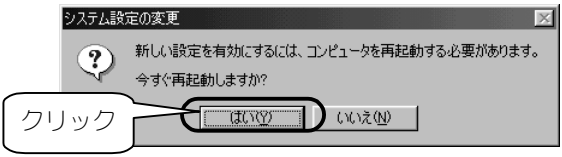
3 [アダプタ]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



4 [Microsoft]の[ダイヤルアップアダプタ]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。後は画面の指示にしたがって、処理を進めてください。



5 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



インターネット接続時のトラブル（Macintosh 編）

[状況]欄に[この電話番号は話し中です]と表示された

原因1	接続先の電話番号が違っている
対処	[OK]ボタンをクリックして、接続画面が表示されたら、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※正しい電話番号は、プロバイダに確認してください。

原因2	接続先のアクセスポイントが混雑している
対処	時間をおいてから、再度[接続]ボタンをクリックするか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を入力してから[接続]ボタンをクリックしてください。

[利用者として認証されませんでした]と表示された

原因	ユーザー名やパスワードが違っている
対処	[OK]ボタンをクリックしてください。アルファベットの大文字や小文字に注意してユーザー名やパスワードを入力し、[接続]ボタンをクリックしてください。正しく入力してもこの画面が表示されるようなら、プロバイダにユーザー名やパスワードを確認してください。

[お使いのモデムが正しく応答しません]と表示された

原因1	パソコンに本製品が正しく接続されていない
対処	RS-232Cケーブル、モジュラーケーブル、本製品が正しく接続されていることを確認してください。

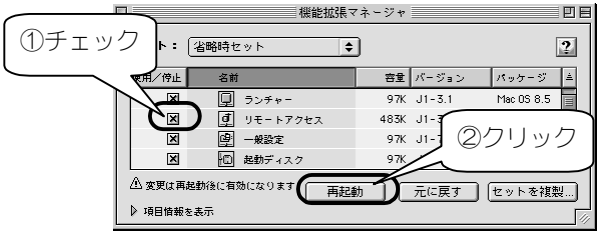
原因2	ダイアラでの設定が正しく行われていない
対処	・*Mac OSの場合* [モデム]や[経由先]の選択が正しく行われているか、確認してください。（195ページおよび201～202ページ参照） ・*漢字Talkの場合* [経由先]が正しく設定されているか、また、ご利用の方法にあった初期化コマンドが設定されているかどうかを確認してください。（216ページおよび218ページ参照）

[情報がないか不適切]と表示された

原因	接続に必要なソフトウェア「リモートアクセス」がインストールされていない
対処	画面を閉じると、[本当に終了してよろしいですか]と表示されるので、[終了]ボタンをクリックします。 以下の操作を行って「リモートアクセス」をインストールしてください。

1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[機能拡張マネージャ]を開きます。

2 「リモートアクセス」に[×]印をつけて、[再起動]ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって、インストールを行ってください。



[搬送波が検出されませんでした]と表示された

原因1	パソコンに本製品が正しく接続されていない
対処	RS-232Cケーブル、モジュラーケーブル、本製品が正しく接続されていることを確認してください。

原因2	接続先の電話番号が違っている
対処	プロバイダに接続先の電話番号を確認してください。

[モデム]欄に[I-O DATA DFML-560EL]と表示されない

原因	「サポートソフト」CD-ROM 内の[CCL]フォルダ内の CCL ファイルを[Modem Scripts]フォルダにコピーしていない
対処	【設定ファイルをコピーする】(188 ページ)を参照して、「サポートソフト」CD-ROM 内の[CCL]フォルダ内にあるすべての CCL ファイルを Macintosh の[システムフォルダ]内の[機能拡張]フォルダ内の[Modem Scripts]フォルダにコピーしてください。

V.90 または K56flex 対応プロバイダなどとの通信中に回線が切れる

原因	電話回線の状況・品質が悪い
対処	【付録2】(241 ページ)を参照して、接続速度の上限を下げてみてください。電話回線の状況・品質によっては接続速度を下げた方がパフォーマンスが上がる場合もあります。

50000bps 以上で通信できない

原因1	回線状況により、設定回線速度(特に 50000bps 以上)より低い速度で接続する場合がある
対処	接続プロバイダが V.90 および K56flex に対応しているか確認してください。 V.90 および K56flex に対応していない場合は、最高 33600bps となります。

原因2	PBX(構内交換機)の回線を利用している（内線(0 発信)など）場合は、V.90 および K56flex の本来の性能がでない
対処	電話回線経由でご利用ください。

原因3	中継コネクタを使用して、モジュラーケーブルを延長されていると、低い速度で接続する場合がある
対処	モジュラーケーブルをできる限り短くしてご利用ください。

原因4	分配した回線に接続していると、低い速度で接続する場合がある
対処	分配していない回線に接続してご利用ください。

その他のトラブル

通信ソフトが起動できない

原因	通信ソフトの起動方法などが正しくない
対処	インターネットへの接続が正しく動作すれば、通信ソフト側の問題が考えられます。通信ソフトの取扱説明書などをご参照ください。

AT コマンドを使用して通信できない

原因	AT コマンドに対するリザルトコードにより、エラー障害の切り分けができます。リザルトコードとは、エコーバックと呼ばれる応答信号のことです。
対処	リザルトコードの種類によって、以下のように、エラーの回復を試みてください。 ATコマンドに関しては、「DFML-560ELサポートソフト」CD-ROM内の¥manualフォルダ内のReadme.txtファイルを参照してください。 **※AT コマンドでの操作を行うためには、別途ターミナルソフトをご用意いただく必要があります。(Windows の場合は、247 ページ参照)**

1. **ERROR**
   ATコマンドに誤りがあります。マニュアルをよく読んで、パラメータなどをチェックしてください。
2. **NO CARRIER**
   ダイアルコマンドを入力した時このエコーが表示された時は、回線が接続されていないか、こちらの呼び出しに対して接続先が応答信号を返さない状態です。先ず、本製品やモジュラーケーブルが正しく接続されているかを確認してみてください。

付録2

接続速度を変更する

本製品は最初（インストール時）、受信時56000bps(理論値)、送信時33600bps(理論値)の本製品の最高速度で送受信できるように設定されていますが、電話回線の状況・品質によっては接続速度を下げた方がパフォーマンスが上がる場合もあります。（このような場合、本製品に接続している電話回線の状況・品質が影響していると考えられます。）
ここでは、接続速度の変更方法について説明します。

接続速度を変更するATコマンド

Windowsや漢字TalkではATコマンドで接続速度を変更します。
（変更方法については、次ページ以降を参照してください。

・V.90の場合

AT+MS=V90,,,,xxxxx
（xxxxx = 28000/29333/30667/32000/33333/34667/36000/
37333/38667/40000/41333/42667/45333/46667/
48000/49333/50667/52000/53333/54667/56000）

・K56flexの場合

AT+MS=K56,,,,xxxxx
（xxxxx = 32000/34000/36000/38000/40000/42000/44000/
46000/48000/50000/52000/54000/56000）

V.90でかつ上限速度を41333にする例）

例えば、普段46000～50000bpsでプロバイダと接続されている場合、接続速度上限を41333bpsに速度を落とす場合は以下のように設定します。（普段接続されている速度から、数ランク速度をダウンします。）

AT+MS=V90,,,,41333

Windows での接続速度の変更方法

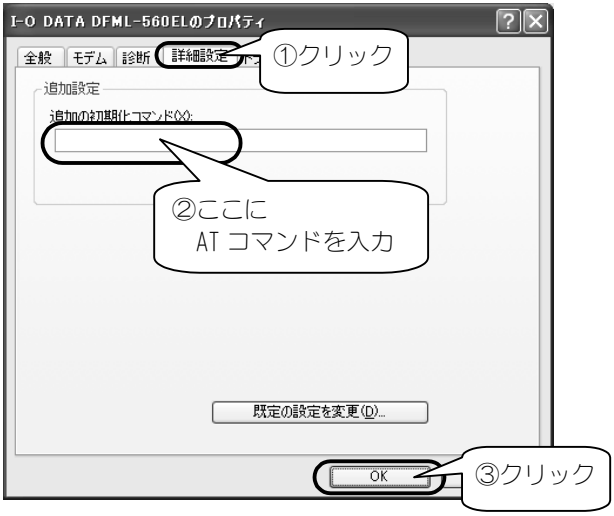
Windowsでは、接続速度は以下および次ページ以降の追加設定で変更します。

・Windows XP での追加設定

①[スタート]→[コントロールパネル]の
[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

②[電話とモデムのオプション]画面で
[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[詳細設定]タブをクリックし、
[追加の初期化コマンド]欄に前ページ【接続速度を変更する AT コマンド】の AT コマンドを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



・Windows 2000 での追加設定

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
　[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

②[電話とモデムのオプション]画面で
　[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
　[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[詳細]タブをクリックし、
　[追加の初期化コマンド]欄に【接続速度を変更するATコマンド】(241ページ)のATコマンドを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

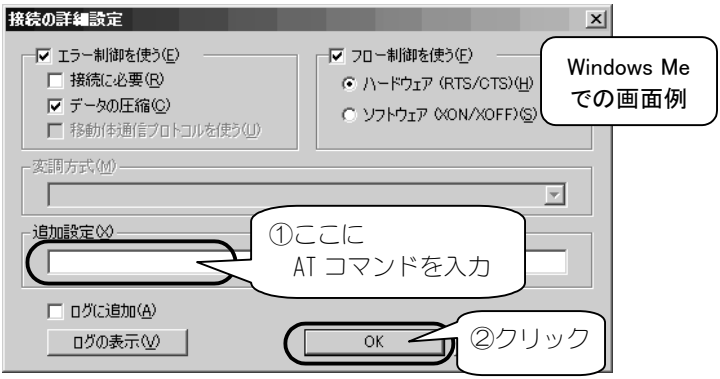


・Windows Me/98/95、Windows NT 4.0 での追加設定

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

②[モデムのプロパティ]画面の
[全般]タブで、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[接続]タブの[詳細設定]（または[詳細]）ボタンをクリックし、
【接続速度を変更する AT コマンド】（241 ページ）の AT コマンドを入力し、
[OK]ボタンをクリックしてください。



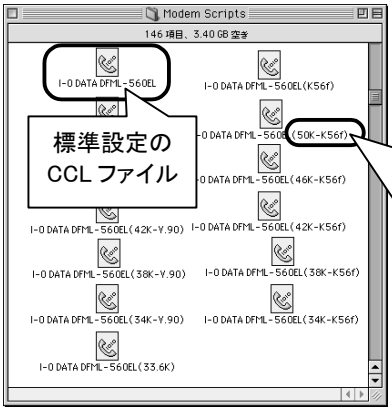
Macintosh での接続速度の変更方法

Macintoshでは、以下および次ページの手順で変更します。

・Mac OS での追加設定

※Mac OS では、[モデム]設定での[モデム:]欄で選択する CCL ファイルによって接続速度や通信規格を変更します。

①サポートソフト内のすべての CCL ファイルが、[システムフォルダ]の中の[機能拡張]フォルダ内の[Modem Scripts]フォルダにコピーされていることを確認します。

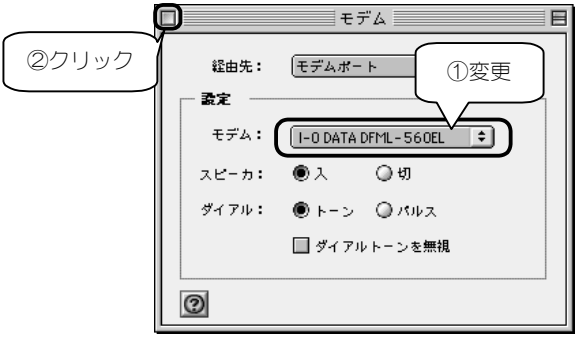


( )内の表記の意味

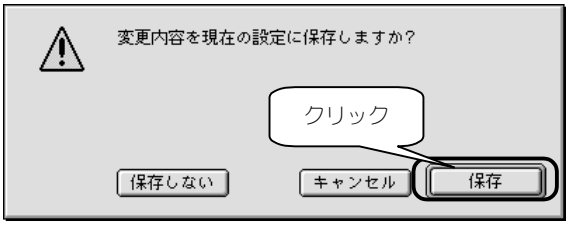
xxK-yyy と表示されている xxK は接続速度、yyy は通信規格を表します。
例えば(50K-K56f)は、接続速度 50000bps で K56flex 用の設定を示します。

②[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[モデム]をクリックします。

③[モデム]を、①で確認した CCL ファイルの内の変更したい CCL ファイルの名称に変更し、クローズボックスをクリックします。



④[保存]ボタンをクリックします。



・漢字 Talk での追加設定

次のATコマンドを設定し、接続速度の上限を下げてみてください。

・ConfigPPPをお使いの場合

214ページ**5**の手順の[モデム初期化]欄に
214ページに記載のATコマンド AT&FX3・・・ の後に、
241ページに記載のATコマンドを追加してみてください。

V.90 での入力例） AT&FX3+MS=V90,,,,46667
K56flex での入力例） AT&FX3+MS =K56,,,,44000

・FreePPPをお使いの場合

218ページ**4**の手順の[Use]欄に
218ページに記載のATコマンド AT&FX3・・・ の後に、
241ページに記載のATコマンドを追加してみてください。

V.90 での入力例） AT&FX3+MS=V90,,,,46667
K56flex での入力例） AT&FX3+MS =K56,,,,44000

付録3

ATコマンドによる通信動作の確認(Windowsでの手順)

通信できない、あるいはモデムが正常に動作しないなどのトラブルが発生した場合、例えば、以下の手順のようにWindows標準の「ハイパーターミナル」で通信動作をためすことができます。(以下の画面はWindows Meの例です。)

1 「ハイパーターミナル」を起動します。

・*Windows XPの場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信])→[ハイパーターミナル]を順にクリックします。

・*Windows 2000およびWindows Me/98/95の場合*

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]を順にクリックします。

・*Windows NT 4.0の場合*

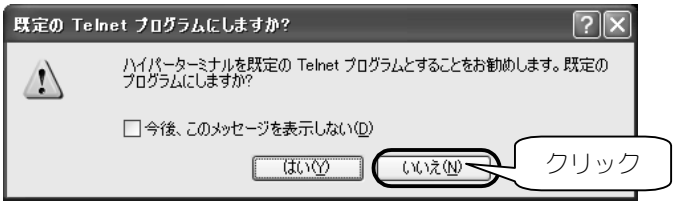
[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[ハイパーターミナル]→[ハイパーターミナル])を順にクリックします。



参考

メニュー内に[ハイパーターミナル]が無い場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]の[Windowsファイル]タブ(Windows NT 4.0では、[Windows NTセットアップ]タブ)から追加してください。

2 Windows XP の場合は、以下の画面が表示される場合があります。
ここでは[いいえ]ボタンをクリックします。



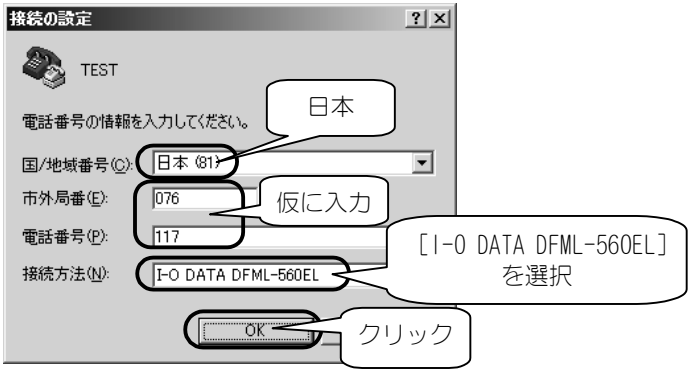
Windows 98/95 の場合は、[HyperTerminal]画面が表示されます。
[Hypertrm]アイコンをダブルクリックします。



3 [名前]に適当な名前(例:TEST)を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



4 以下を設定して[OK]ボタンをクリックします。



5 [キャンセル]ボタンをクリックします。

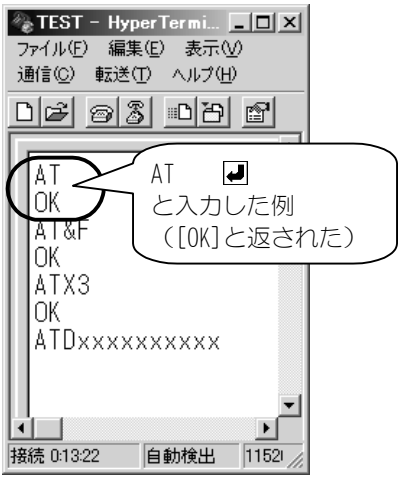


6 [ハイパーターミナル]画面が表示されます。

7 [ハイパーターミナル]画面内にATコマンドを入力して通信動作を確認することができます。
以下の画面例は、以下の AT コマンドを入力した例です。
※これらの文字は、半角文字で入力する必要があります。

・プッシュ(トーン)回線でご使用の場合の入力例

AT ↵
AT&F ↵
ATX3 ↵
ATDxxxxxxxxx ↵



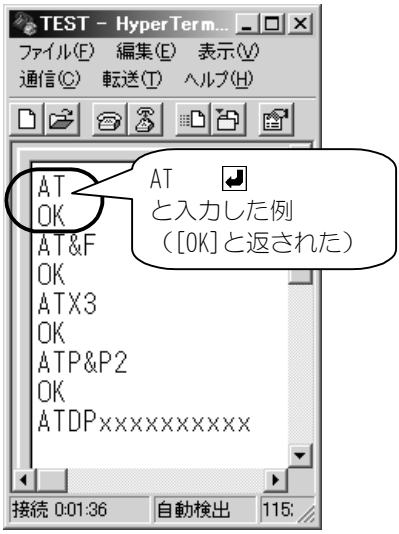
・ダイヤル(パルス)10 回線でご使用の場合の入力例

AT ↵
AT&F ↵
ATX3 ↵
ATP&P1 ↵
ATDPxxxxxxxxx ↵



・ダイヤル(パルス)20 回線でご使用の場合の入力例

AT ↵
AT&F ↵
ATX3 ↵
ATP&P2 ↵
ATDxxxxxxxxx ↵



※「ダイヤル 10 回線」か「ダイヤル 20 回線」かがお分かりにならない場合は、前ページの「ダイヤル(パルス)10 回線」の方でお試しください。

8 以上の手順が発信が可能であれば、**7**の手順にて実行した AT コマンドを以下の個所を参照し、モデムのプロパティに追加設定して、ご利用をお試しください。

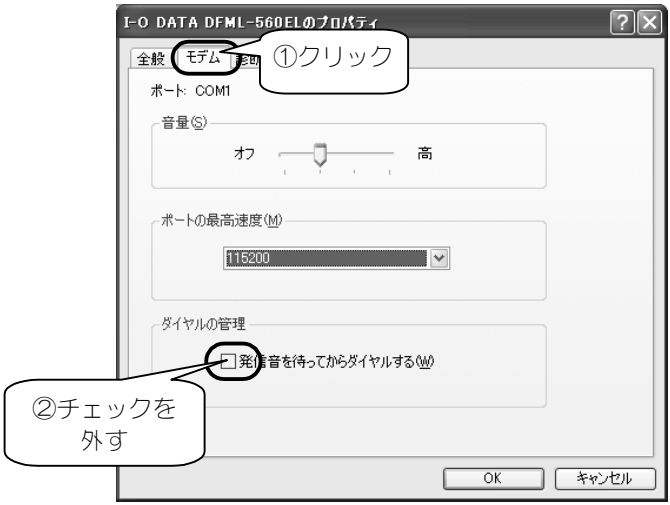
・*Windows XP での追加設定* → 次ページ参照
・*Windows 2000 での追加設定* → 254 ページ参照
・*Windows Me/98/95*、*Windows NT 4.0 での追加設定*
→ 256 ページ参照

・Windows XP での追加設定

①[スタート]→[コントロールパネル]の
[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

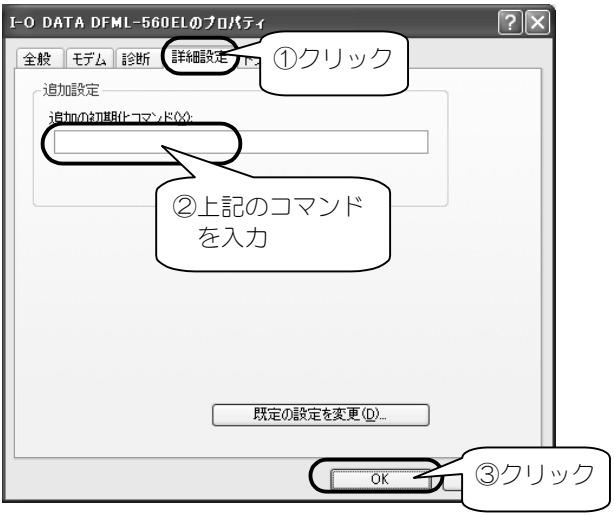
②[電話とモデムのオプション]画面で
[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[モデム]タブで[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックを外します。



④[詳細設定]タブをクリックし、
[追加の初期化コマンド]欄に以下を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

使用回線	追加するコマンド （すべて半角で入力）
プッシュ回線の場合	AT&FX3
ダイヤル 10 回線の場合	AT&FX3&P1
ダイヤル 20 回線の場合	AT&FX3&P2



以上の追加設定を行い、発信、接続ができるかをお試しください。

もし、上記の設定でもうまく発信されない場合は、本製品を使用する回線について以下をご確認ください。

1つの回線を分岐して、分岐したモジュラーケーブルを本製品に接続しているようであれば、分岐をしないで本製品に接続してみてください。
（分岐をしない状態にできないようであれば、なるべく電話回線の元に近い方のモジュラージャックに本製品を取り付けてみてください。）

・Windows 2000 での追加設定

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

②[電話とモデムのオプション]画面で
[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[全般]タブで[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックを外します。



④[詳細]タブをクリックし、
[追加の初期化コマンド]欄に以下を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

使用回線	追加するコマンド (すべて半角で入力)
プッシュ回線の場合	AT&FX3
ダイヤル 10 回線の場合	AT&FX3&P1
ダイヤル 20 回線の場合	AT&FX3&P2



以上の追加設定を行い、発信、接続ができるかをお試しください。

もし、上記の設定でもうまく発信されない場合は、本製品を使用する回線について以下をご確認ください。

1つの回線を分岐して、分岐したモジュラーケーブルを本製品に接続しているようであれば、分岐をしないで本製品に接続してみてください。
(分岐をしない状態にできないようであれば、なるべく電話回線の元に近い方のモジュラージャックに本製品を取り付けてみてください。)

・Windows Me/98/95、Windows NT 4.0 での追加設定

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

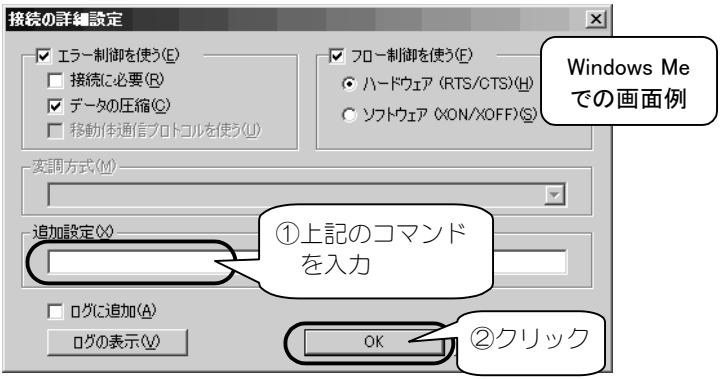
②[モデムのプロパティ]画面の
[全般]タブで、[I-O DATA DFML-560EL]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

③[接続]タブで[トーンを待ってからダイヤルする]のチェックを外します。



④[接続]タブの[詳細設定]（または[詳細]）ボタンをクリックし、
[追加設定]欄に以下を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

使用回線	追加するコマンド （すべて半角で入力）
プッシュ回線の場合	AT&FX3
ダイヤル 10 回線の場合	AT&FX3&P1
ダイヤル 20 回線の場合	AT&FX3&P2



以上の追加設定を行い、発信、接続ができるかをお試しください。

もし、上記の設定でもうまく発信されない場合は、本製品を使用する回線について以下をご確認ください。

1つの回線を分岐して、分岐したモジュラーケーブルを本製品に接続しているようであれば、分岐をしないで本製品に接続してみてください。
（分岐をしない状態にできないようであれば、なるべく電話回線の元に近い方のモジュラージャックに本製品を取り付けてみてください。）

付録4

モデムの追加による インストール方法(Windows Me/98/95)

Windows Me/98/95で、本製品をパソコン本体に接続していない場合や、プラグアンドプレイに対応していないCOMポートに接続している場合などは、モデムの追加でインストールする必要があります。

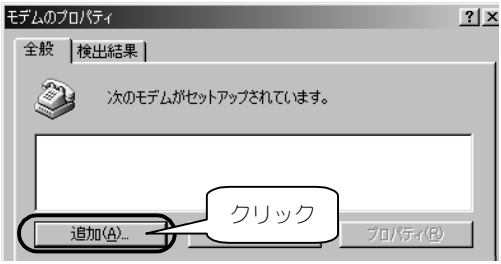
Windows Me/98/95 でのインストール手順

※以下の画面はWindows Meでの例です。

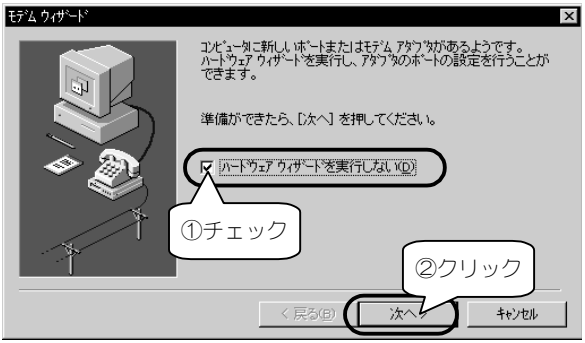
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。



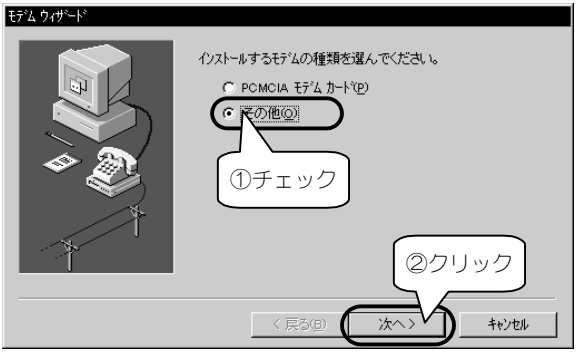
2 以下の画面が表示された場合は、[追加]ボタンをクリックします。



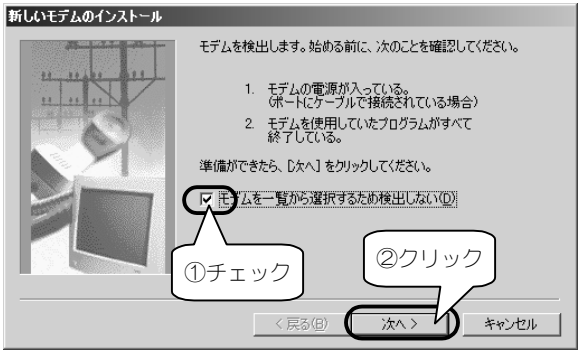
3 以下の画面が表示された場合は、[ハードウェアウィザードを実行しない]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



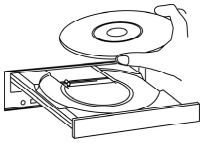
4 以下の画面が表示された場合は、
[その他]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



5 以下の画面が表示された場合は、[モデムを一覧から選択するため検出しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。

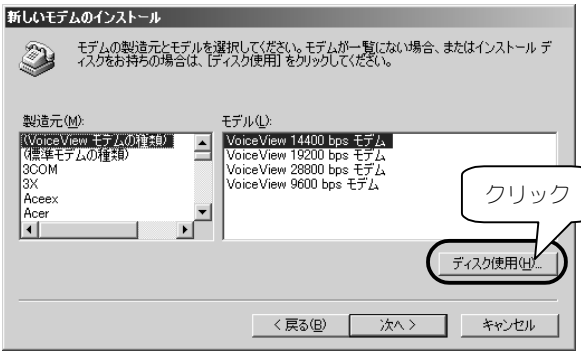


6 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



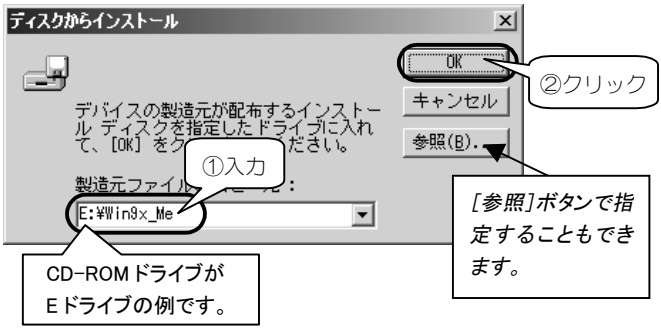
「サポートソフト」CD-ROM

7 [ディスク使用]ボタンをクリックします。



8 CD-ROM ドライブの[Win9x_Me]フォルダを指定して
[OK]ボタンをクリックします。

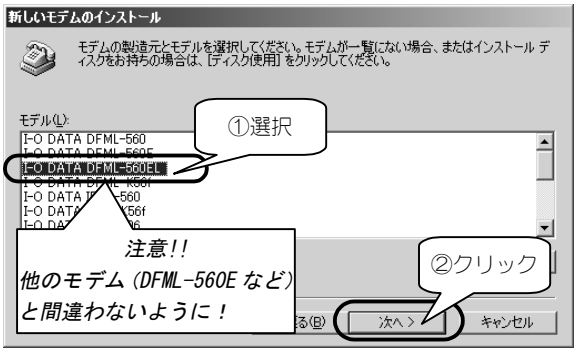
※入力の代わりに[参照]ボタンをクリックして、CD-ROM ドライブの
「Win9x_Me」フォルダを指定することもできます。



「指定の場所には…情報がありません」
と表示された場合は…

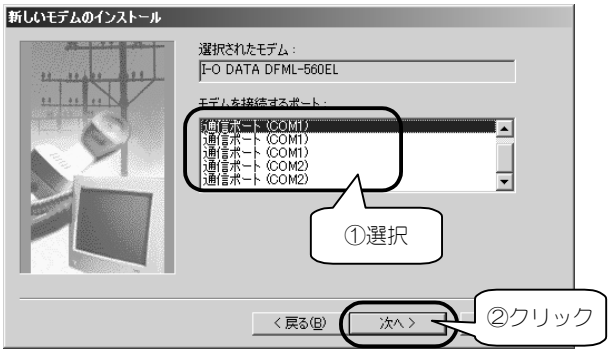
【困ったときには】
226 ページ
をご参照ください。

9 「I-O DATA DFML-560EL」を選択して
[次へ]ボタンをクリックします。



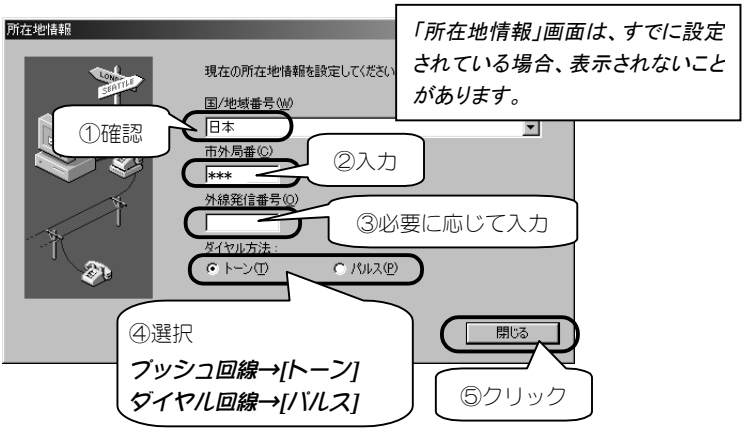
10 「モデムを接続するポート」では、本製品を物理的に接続したポートを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

※接続しているポートについては、パソコンの取扱説明書を参照してください。



11 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定して、[次へ]ボタンをクリックします。

No	項目	設定内容
①	国/地域番号	[日本]であることを確認
②	市外局番	市外局番を入力
③	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力
④	ダイヤル方法	プッシュ回線なら「トーン」 ダイヤル回線なら「パルス」



12 [完了]ボタンをクリックします。

13 [モデムのプロパティ]画面で
[OK]（または[閉じる]）ボタンをクリックします。

14 以上でインストールされますので、しばらくして表示画面が消えたら「サポートソフト」CD-ROM を取り出し、
パソコンを一度再起動します。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認し、モデムを設定します。
【インストールは正常ですか？】（Windows Me の場合は 94 ページ、Windows 98/95 の場合は 138 ページ）へお進みください。

付録5

インストールしたソフトを削除するには

本製品のサポートソフトのインストールをもう１度やり直すときは、インストールした「サポートソフト」を削除（アンインストール）してから行う必要があります。
ここでは、その削除方法（アンインストール方法）について説明します。

削除方法は使用しているOSによって異なりますので、以下の使用しているOSのページを参照ください。

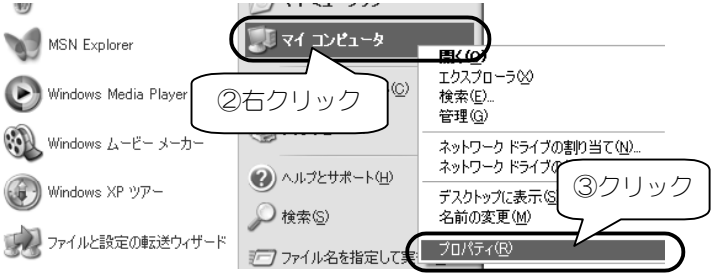
Windows XP で削除する場合
→【Windows XP での削除】（次ページ）～
Windows 2000 で削除する場合
→【Windows 2000 での削除】（266 ページ）～
Windows Me/98/95 で削除する場合
→【Windows Me/98/95 での削除】（270 ページ）～
Mac OS で削除する場合
→【Mac OS での削除】（272 ページ）

Windows XP での削除

1 パソコンおよび本製品の電源を切った後、
本製品（RS-232Cケーブル）を取り外します。

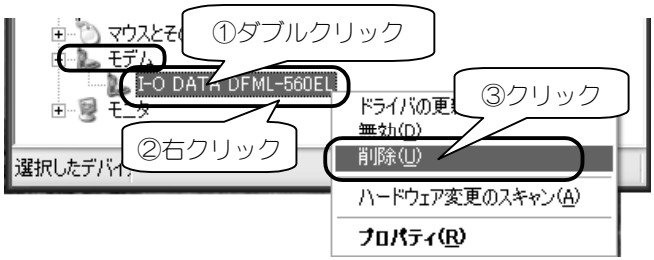
2 パソコンの電源を入れます。

3 [スタート]をクリック後、[マイコンピュータ]を右クリックし、
表示された[プロパティ]をクリックします。



4 [ハードウェア]タブをクリック後、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

5 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリック後、
[モデム]の下の[I-O DATA DFML-560EL]を右クリックし、
表示された[削除]をクリックします。



6 [デバイスの削除の確認]画面で
[OK]ボタンをクリックします。

7 [スタート]→[検索]をクリックします。

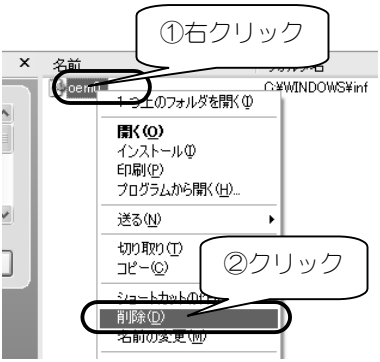
8 [何を検索しますか？]で
[ファイルとフォルダすべて]をクリックします。

9 以下を入力して[検索開始]をクリックします。
[ファイルに含まれる単語または句]　：　DFML-560EL
[探す場所]　：　C:¥WINDOWS¥INF



注意
・検索には、お使いのパソコンにより数分かかる場合があります。

10 検索後、検索されたファイルを右クリックし、表示された[削除]をクリックします。
※画面例ではOEM0.infが検索されていますが、ファイル名はお使いのパソコンにより異なります。



注意
検索されたファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。(上記画面例では、OEM0.INF が検索されています。)

11 後は画面の指示に従ってください。

以上で、Windows XPでのインストール情報の削除(アンインストール)は終了です。

Windows 2000 での削除

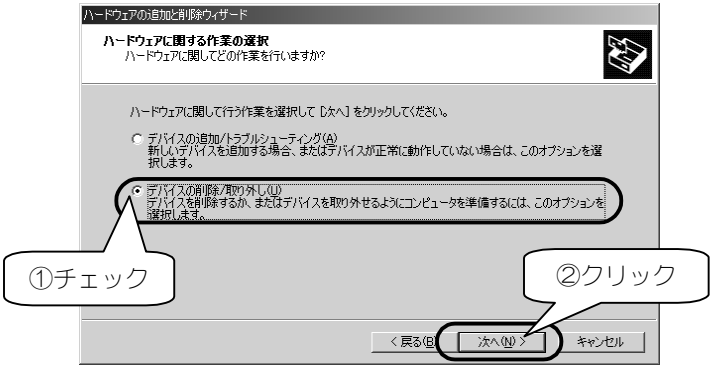
1 パソコンおよび本製品の電源を切った後、
本製品（RS-232Cケーブル）を取り外します。

2 パソコンの電源を入れます。

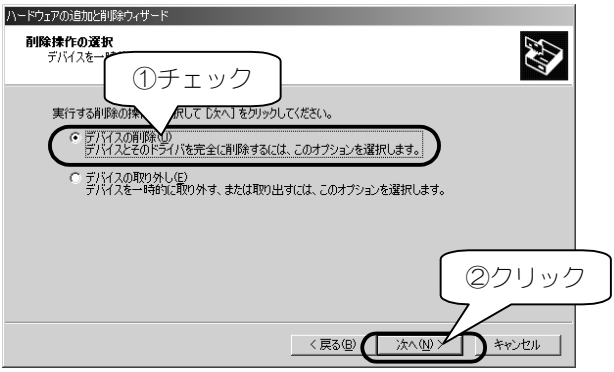
3 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、
[ハードウェアの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

4 [ハードウェアの追加と削除ウィザードの開始]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

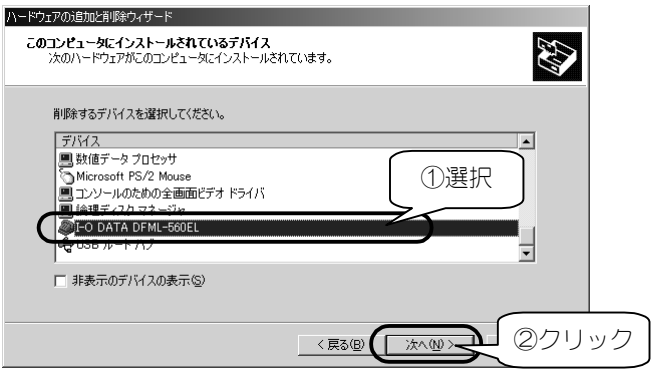
5 [デバイスの削除/取り外し]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



6 [デバイスの削除]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



7 [I-O DATA DFML-560EL]を選択し、
[次へ]ボタンをクリックします。



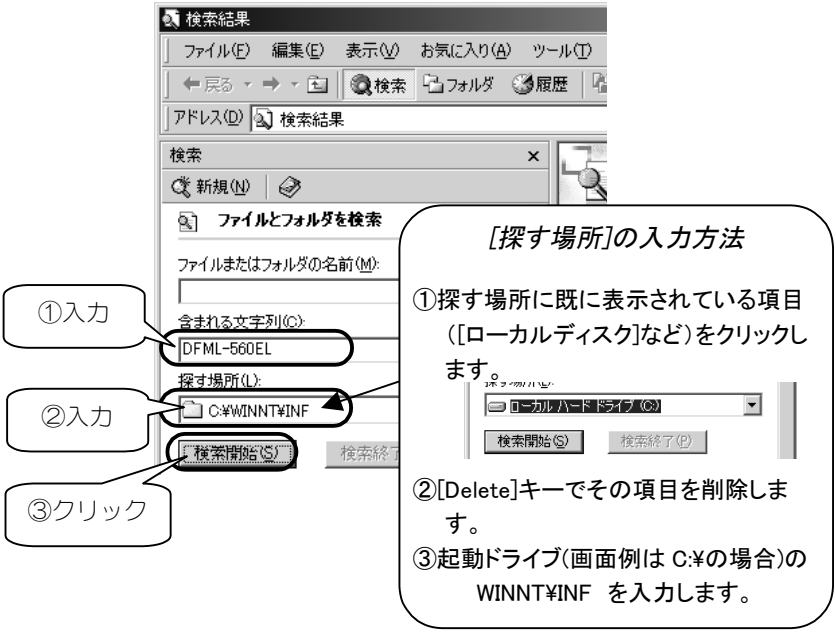
8 [はい、このデバイスを削除します]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



9 [ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了]画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

10 [スタート]→[検索]→[ファイルやフォルダ]を順にクリックします。

11 以下を入力し、[検索開始]をクリックします。
[含まれる文字列]　:　DFML-560EL
[探す場所]　:　C:¥WINNT¥INF
（Windows 2000 の起動ドライブが C:¥で、
WINNT フォルダにインストールされている場合）



注意

・検索には、お使いのパソコンにより数分かかる場合があります。

12

検索後、検索されたファイルが表示されます。
※画面例ではOEM9.infが検索されていますが、ファイル名はお使いのパソコンにより異なります。
検索されたファイルを右クリックし、
表示された[削除]をクリックします。



注意

検索されたファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。（上記画面例では、OEM9.INF が検索されています。）

13

後は画面の指示に従ってください。

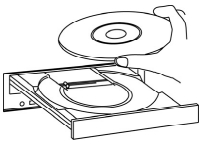
以上で、Windows 2000でのインストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

Windows Me/98/95 での削除

1 パソコンおよび本製品の電源を切った後、
本製品（RS-232Cケーブル）を取り外します。

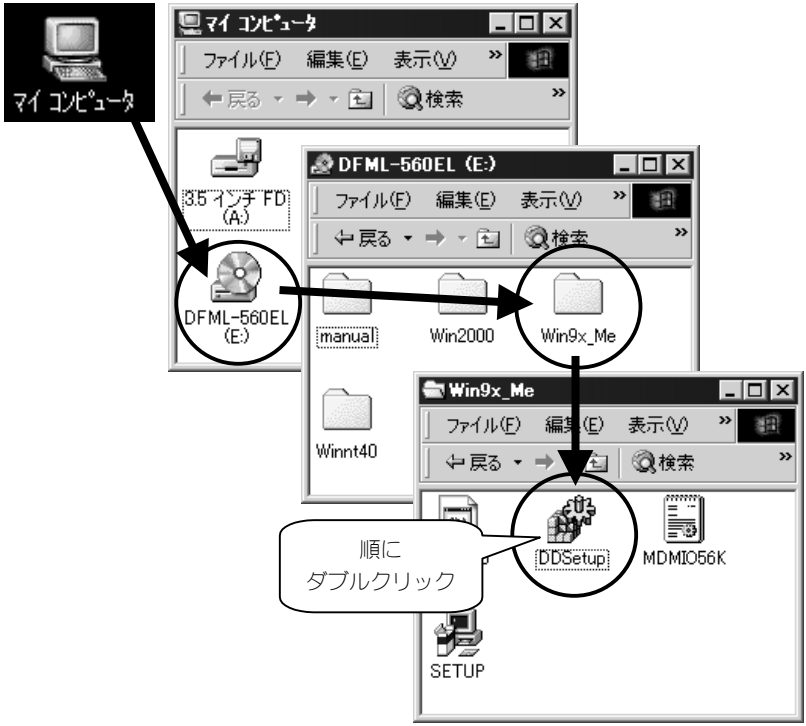
2 パソコンの電源を入れます。

3 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

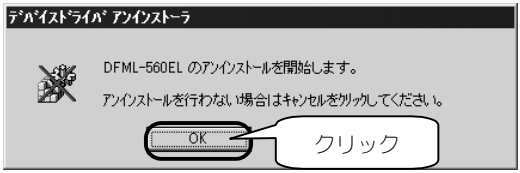


「サポートソフト」CD-ROM

4 [マイコンピュータ]→[CD-ROM ドライブ]（[DFML-560EL]）→
[Win9x_Me]→[DDSetup]を順にダブルクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックします。



6 [OK]ボタンをクリックします。



7 削除が完了すると、以下の画面が表示されます。
「サポートソフト」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、
[はい]ボタンをクリックしてください。



以上で、Windows Me/98/95でのインストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

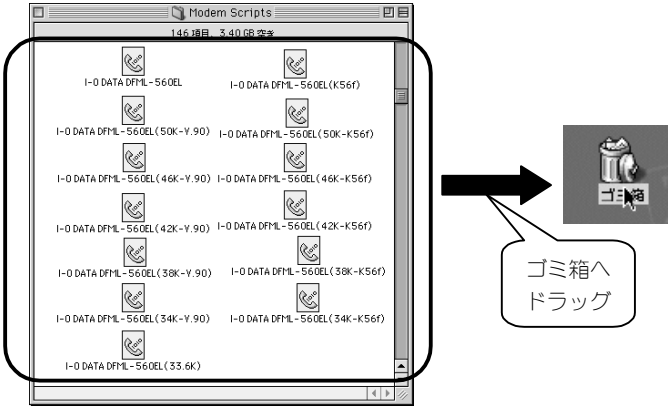
Mac OS での削除

1 パソコンおよび本製品の電源を切った後、
本製品（RS-232Cケーブル）を取り外します。

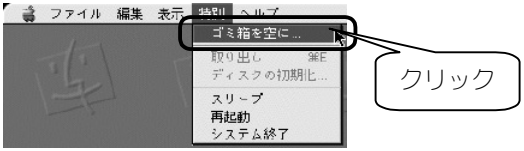
2 パソコンの電源を入れます。

3 【設定ファイルをコピーする】(232 ページ)で[Modem Scripts]フォルダ※内にコピーしたすべてのファイル（I-O DATA DFML-560ELxxx のファイル）を[ゴミ箱]に入れて削除します。

※[Modem Scripts]フォルダは、Mac OSをインストールしたドライブの[システムフォルダ]の[機能拡張]フォルダ内にあります。



4 [特別]メニューの[ゴミ箱を空に…]をクリックします。



以上で、Mac OSでのコピーしたソフトの削除（アンインストール）は終了です。

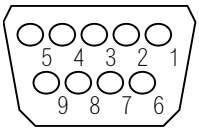
付録6

仕　様

■ DTEインタフェース仕様

付属ケーブル

（PC98-NX シリーズおよび DOS/V マシン
PC-9800 シリーズ RS-232C 9 ピン用※）



D-sub9 ピン(メス)
コネクタ

※Macintoshと接続するには別途市販の変換コネクタが必要です。

項目	略号	端子番号 D-sub 9ピン	信号方向	機能概要
ﾌﾚｰﾑｸﾞﾗﾝﾄﾞ	FG	F	－	フレームグランド
送信データ	SD	3	端末→ﾓﾃﾞﾑ	端末からモデムに送られるデータ信号
受信データ	RD	2	端末←ﾓﾃﾞﾑ	モデムから端末に送られるデータ信号
送信要求	RS	7	端末→ﾓﾃﾞﾑ	送信要求のための信号、RC/CSフロー制御にも使用
送信許可	CS	8	端末←ﾓﾃﾞﾑ	モデムから端末へのデータ送信の許可信号、RC/CSフロー制御にも使用
ﾃﾞｰﾀｾｯﾄﾚﾃﾞｨ	DR	6	端末←ﾓﾃﾞﾑ	モデムが送受信可能状態を示す信号
信号用アース	SG	5	－	信号用アース(信号の基準電圧)
キャリア検出	CD	1	端末←ﾓﾃﾞﾑ	キャリア受信中通知信号
端末装置レディ	ER	4	端末→ﾓﾃﾞﾑ	端末通信可能信号
吹出し検出	CI	9	端末←ﾓﾃﾞﾑ	着信検出信号

略号は、JIS規格に準拠しています。
端子番号Fは、コネクタの外周の金属部分です。

■ NCU部

適応回線	一般電話加入回線(PSTN)
NCU	AA/MA/MM
制御コマンド	ATコマンド準拠
ダイヤル形式	パルス(10/20pps), トーン
呼出方式	トーンリンガ

■ データモデム部

通信方式		全二重
同期方式		調歩同期式(非同期)
通信速度	K56flex (受信のみ)	56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/ 42000/40000/38000/36000/34000/32000bps
	V.90 (受信のみ)	56000/54667/53333/52000/50667/49333/48000/ 46667/45333/42667/41333/40000/38667/37333/ 36000/34667/33333/32000/30667/29333/28000bps
	送信	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格		ITU-T:V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.23/V.22bis/V.22/V.21 K56flex Bell:212/103
送出レベル		-12～-15dBm
エラー訂正機能		MNP:Class2-4、Class10、ITU-T:V.42(LAPM)
データ圧縮(伸張)機能		MNP:Class5、ITU-T:V.42bis

■ FAXモデム部

通信方式	全二重
同期方式	調歩同期式(非同期)
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T:V.17/V.29/V.27ter/V.21 channel2
変調方式	TCM、QAM、DPSK、FSK
通信制御手順	G3/EIA class 1

■ 一般仕様

インターフェイス規格	RS-232C(D-sub9ピン・メス)
端末通信速度	230400/115200/57600/38400/19200/9600/ 4800/2400/1200/300 bps
回線モニタ	内蔵スピーカ、モニタランプ
電源	AC100±10V　50/60Hz
消費電力	6W以下
使用温度湿度範囲	温度:0～40℃(パソコンの動作温度範囲であること。) 湿度:25～85%　　(ただし、結露なきこと。)
寸法	154(W)× 135(D)× 32(H) mm
質量	約275g

付録7

用語解説

bps（ビーピーエス） *(bit per second)*

データ通信速度の単位です。1 秒間に送受信できるビット数を表します。
例）56000bps は 1 秒間に 56000bit の情報（データ）を送受信します。

COM ポート（コムポート）

Windows ではシリアルインターフェイスを COM ポートと呼びます。

ITU-T（アイティーユー・ティー）

ITU（国際通信連合）の付属機関である国際電信電話諮問委員会(旧 CCITT)を指します。
国際通信に関する審議と勧告を行います。

MNP（エムエヌピー）

MNP は米国マイクロコム社が開発したモデム間通信規格です。DFML-560EL は MNP クラス 2,3,4,5,10 を搭載しています。

MNP クラス 2：データが正しく送受信されたことを確認するためのプロトコルです。送信された文字を受信側から送信側に送り返すことで，送ったデータが途中で破損していないかどうかを確認できます。全二重通信が可能なモデムならいずれも実装が可能です。

MNP クラス 3：MNP2 を改良し，同期型で処理できるようにしたものです。これにより，データ転送のオーバーヘッドを削減できるようになりました。

MNP クラス 4：エラー訂正のための規格です。通信中のエラーを訂正することによって高品質な通信を行うことができます。

MNP クラス 5：データ圧縮のための規格です。最大 200%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 2 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度（パソコンとモデム間の通信速度）を回線速度（自分と相手のモデム間の通信速度）の 2～3 倍に設定し

ておくと効率よく通信できるようになります。

MNP クラス 10：移動体通信の場合など、回線状態が悪い場合に有効なプロトコルです。
通信中のエラー発生率に合わせてその都度最適な通信速度や転送データサイズを自動選択します。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

PPP（ピーピーピー） *(Point-to-Point Protocol)*

同期および非同期式のポイント・ツー・ポイント・シリアルリンク回線方式に関するパケット通信規約です。
不特定多数の人が、たまにしか利用しない場合に、IP アドレスを一義的に割り当てるのは不経済なため、PPP では利用時に一時的に割り当てる方式をとります。
ダイヤルアップネットワークのための IP 接続用の通信規約で、ファイルやデータの転送が可能です。

TCP/IP（ティーシーピーアイピー） *(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)*

Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル（＝通信規約）一式です。
主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含みます。
インターネットでは一般的に使われています。

V.42（ブイヨンジュウニ）

ITU-T（旧 CCITT）で規定されたモデムのエラー訂正・データ圧縮の規格です。

- V.42：エラー訂正の規格で、MNP と LAP-M という 2 つの規格がありますが、通常 V.42 というと LAP-M 規格をさします。
- V.42bis：データ圧縮のための規格で、最大 400%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 4 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度（パソコンとモデム間の通信速度）を回線速度（自分と相手のモデム間の通信速度）の 2～4 倍に設定しておくと効率よく通信できるようになります。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

ダイヤルアップ

電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続することです。

プロトコル

通信規約のことです。コンピュータ同士が相互で通信を行うための様々な取り決め（通信速度や通信方式、エラーチェックの方法、データの形式など）です。
インターネットでは、TCP/IP プロトコルを使用します。

プロバイダ

（インターネット）プロバイダとは、インターネットへの接続サービスを行っている接続業者のことです。インターネットを利用するためには、利用者もしくは所属する組織が各種学術研究ネットワークに加入するか、インターネットプロバイダと呼ばれる接続業者に加入する必要があります。

PLANT コールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と電話機の機種。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/support/
「PLANT コールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mail をお送りください。

■郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「DFML-560EL」係宛

■電話

電話番号　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144
受付時間　9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX 番号　金沢　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「DFML-560EL」係　宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

「サポートソフト」がバージョンアップした場合は、以下の方法で入手できます。

■オンライン

インターネット　　http://www.iodata.jp/lib/

■サービス窓口からの郵送

以下の窓口までお問い合わせください。（**送料および手数料はお客様負担**）

住所　　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「DFML-560EL」サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

・インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

保証について

■保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記「修理品送付先」までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態(『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」)をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化(一体化)されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

■修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2丁目84番地　アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「DFML-560EL」修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、***宅配便***または***書留郵便小包***でのご送付をお願いいたします。

■修理品納期問い合わせについて

受付窓口 「DFML-560EL」サービス窓口
電話番号 本社　076-260-3663
受付時間 9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

DFML-560EL 取扱説明書
2001.Oct.16　99523-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。